

2023

青森商業教育

MERCURY



青森県高等学校商業教育研究会
青森県高等学校教育研究会商業部会

題字 / 奈良 尹 (元青森県高等学校商業教育研究会会長)
表紙 / 青森県立黒石高等学校 情報デザイン科3年 成田 琉海

目 次

【巻頭言】

「時代に必要とされる商業教育」	1
青森県高等学校教育研究会商業部会長	
青森県高等学校商業教育研究会会長	
青森県立青森商業高等学校校長	田中正也

【特別寄稿】

1 グローバルな人財育成への取り組み	3
青森県立青森商業高等学校	教諭 高橋恭一
2 青商ビジネスチャレンジwith台湾事業 台湾研修会紀行	10
3 令和4年度長期企業等派遣研修報告	27
青森県立八戸商業高等学校	教諭 下田幸大

【令和5年度 第68回 青森県高等学校商業教育研究大会】

1 全体発表	
「今だけ ここだけ あなただけ」	28
～ビジネスを通して地域経済の発展を担う人財育成を目指して～	
マーケティング・マネジメント分野研究委員会	
青森県立弘前実業高等学校	教諭 長谷川善弘
	教諭 西館大輔
「グローバルビジネスに対応する人財育成への取り組み」	34
～青商ビジネスチャレンジwith台湾事業を通して～	
総合的科目研究委員会	
青森県立青森商業高等学校	教諭 高橋恭一
青森県立青森商業高等学校	教諭 鈴木有紀
2 分科会発表	
(1) 第1分科会 マーケティング・マネジメント分野専門委員会	37
(2) 第2分科会 会計分野専門委員会	42
(3) 第3分科会 ビジネス情報分野専門委員会	52
3 講演	57
「逆風を追い風に変える」	
～北三陸の秘境から、世界ブランドを目指す～	
講師 株式会社北三陸ファクトリー 代表取締役CEO 下苧坪之典氏	

【研究委員会報告】			
マーケティング・マネジメント分野研究委員会	青森県立八戸商業高等学校	65
会計分野研究委員会	青森県立弘前実業高等学校	67
ビジネス情報分野研究委員会	青森県立三沢商業高等学校	69
教育課程等研究委員会	青森県立青森商業高等学校	72
総合的科目研究委員会	青森県立青森商業高等学校	73
研究誌編纂委員会	青森県立青森商業高等学校	75
【令和5年度高大連携推進の取り組み】		77
【県商研主催事業報告】			
1 全国商業教育指導者研修会	青森県立弘前実業高等学校	教諭 須藤典子	92
2 商研ニュース			98
【研修に参加して】			
1 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」	青森県立三沢商業高等学校	教諭 棟方明日香	109
2 「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」	青森県立黒石高等学校	教諭 鈴木佑	110
3 「中堅教諭等資質向上後期研修を終えて」	青森県立六ヶ所高等学校	教諭 太田美千之	111
4 「中堅教諭等資質向上後期研修を終えて」	青森県立弘前実業高等学校	教諭 西舘大輔	112
【役職定年を迎えて】			
「デザイン」は無限大！	青森県立黒石高等学校	校長 小野淳美	113
【退職を迎えて】			
「みなさんとの出会いに感謝」	青森県立三沢商業高等学校	教頭 中村至	114
【令和5年度商業部会・活動概要】			115
I 研究会の概要	II 研究活動の概要	III 各種競技大会	IV 各種検定試験
【編集後記】			

巻頭言

「時代に必要とされる商業教育」

青森県高等学校教育研究会商業部会長
青森県高等学校商業教育研究会会長

田 中 正 也

(青森県立青森商業高等学校長)



青森県の商業教育に携わる校長先生をはじめ商業科教員の皆さまにおかれましては、青森県高等学校教育研究会商業部会及び青森県高等学校商業教育研究会の諸行事につきまして、多大なる御尽力、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

先生方もご存知のように、今年度5月、本県の子どもたちの夢や志の実現に向けた令和10年度以降の県立高等学校の在り方を検討するため、「青森県立高等学校魅力づくり検討会議」が設置されました。この検討会議では、(1) これからの時代に求められる力を育む学校・学科の充実について(2) 生徒一人一人に充実した教育環境を提供するための学校配置について、それぞれ第1分科会、第2分科会及び地区部会において調査審議し、令和7年2月に報告することになっています。

さらに、7月には青森県教育施策の大綱及び教育施策全般にわたる専門的事項について、外部有識者の幅広い見地から助言等を得ることを目的として、「青森県教育改革有識者会議」が設置されました。この有識者会議では、(1) 青森県教育施策の大綱に関する事項(2) 教育施策全般にわたる専門的事項(3) その他、前条の設置目的を達成するために必要な事項について、知事に対して助言等を行うこととなっています。

上記検討会議において、各校における特色や高校間、地域、企業、関係機関等との連携の状況、情報発信に係る状況等について報告がなされ、商業部会としても、(1) 商業科(大学科)の成果・課題と課題に対して考えられる今後の方向性等について、(2) 小学科・コースの成果・課題と課題に対して考えられる今後の方向性等について(3) 商業科における新たな小学科・コース等の必要性等について、各校からご意見をいただいたうえで報告しています。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

以上のような動きの背景には、県内における深刻な少子化や普通科志向の高まりがあると思われれます。全国的に見ても、商業を学ぶ生徒数(全商協会加盟校の生徒数)は平成元年の60万人から半減して30万人を下回っており、年々商業高校を取り巻く環境は厳しくなっています。このような状況の中でも、県内外の企業や大学、関係機関の方々とお話をする、商業高校出身の生徒は「まじめ」で、「コミュニケーション能力が高く」、「勤勉」、「ぜひうちに」等々、お褒めの言葉を多くいただきます。このことは、決して現在の商業教育が間違っていないこと

を証明してくれているように感じていつもホッとします。まさに、先生方の日頃の丁寧で熱心なご指導の賜物だと思っています。

しかしながら、昨今の急速な社会の変化に合わせて、商業教育も対応していかなければなりません。AI、IoT、ビッグデータといった先端技術の急速な発展により、Society5.0といわれる超スマート社会が到来します。今後、このような社会の中で生き抜いていくためには、最先端の技術をビジネスに活用できるような知識や、先端技術を活用した新しいビジネスを創造できるような思考の素地を生徒に身に付けさせて、企業や大学に送り出すことが必要になってくるのではないのでしょうか。そのためには、時代に必要とされる人材の育成にも力を入れていかなければなりません。あくまでも一つの例ですが、DX人材があげられるかと思います。もちろん、高校3年間で完結できないかもしれませんが、我々も勉強しながら、必要であれば企業や大学と連携して協力を仰ぎながら、基礎となる知識や技術を身に付けさせて、上級学校や実際のビジネスの現場にバトンタッチするというのも商業高校の役割の一つだと考えます。学校での授業で得た知識・技術、実践的な教育活動や部活動の場で身に付けた礼儀、コミュニケーション能力といった普遍的な“力”に加えて、時代のニーズに合致した「付加価値」を生徒に身に付けさせることができる教育課程と教育環境を整えていくことが必要であると考えています。今後、様々な機会に先生方のご意見や考えをお聞かせ願いたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

昨年度、全商の春季全国役員会の際、顧問の森田先生がご挨拶の最後に力強く仰いました。「商業教育に大事な事。ANG。」

ANGとは「明るく、仲良く、元気よく」だそうです。

我々も社会の動静に対してアンテナを高く張り、研究と修養を重ねながら、「明るく、仲良く、元気よく」、商業教育に邁進していきましょう。

【特別寄稿】

グローバルな人財育成への取り組み

青森県立青森商業高等学校 教諭 高橋 恭一

1 はじめに

本校では、平成30年度に一般財団法人青森商業高等学校後援会が、冒険家であり探検家でもあった笹森儀助翁の名を冠した「笹森儀助基金」を創設した。その基金を活用し台湾の松山高級商業家事職業学校と連携して、インバウンド観光に関する市場調査や青森県のPR活動・交流等を通して、青森県の魅力と異文化理解、主体性とチャレンジ精神、コミュニケーション能力の向上を目指す取り組みの実践が行われてきた。

令和元年度は、県教育庁の「ドリカム人づくり推進事業」及び一般財団法人青森商業高等学校後援会の「笹森儀助基金活用事業」として、「AOMORIと世界をビジネスで繋ぐ高校生チャレンジ（台湾編）～商品開発と流通」の先進的な実践～の取り組みが行われた。

令和2年度および令和3年度は、県教育庁のグローバル社会を主体的に生き抜く人財育成事業の「青森・台湾間の高校生協働学習促進プログラム」及び一般財団法人青森商業高等学校後援会の「笹森儀助基金活用事業」を活用しての取り組みの実践が行われた。

本校では、台北市立松山高級商業家事職業学校及び台北市立士林高級商業職業学校と教育交流を実施することから、令和4年2月16日にグローバル人財育成ワーキンググループを設置した。

令和4年度は、県教育庁の青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人財育成事業「青森と台湾の高校生による協働学習推進プログラム」と県企画政策部地域活力振興部の提案者事業実施制度（庁内ベンチャー）「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」の取り組みがスタートした。

2 グローバル人財育成ワーキンググループについて

設置要項

1 趣旨

本校は、平成30年度に笹森儀助基金等を活用し、「台湾とのインアウトバウンド観光を考える」を目的に台湾現地視察研修を実施した。この研修を通して台北市立松山高級商業家事職業学校と教育交流を実施している。

令和3年度青森県教育委員会と台北市政府教育局との教育交流協力に関する了解覚書の締結による教育交流を台北市立士林高級商業職業学校と実施することとなった。（予定では2年間）

さらに、令和4年度から2年間実施することとなる庁内ベンチャー事業に「青商ビジネスチャレンジ with 台湾」を提案し採択された。

これらの台湾と交流に係ることについて、事業計画の立案・実施等について検討することを目的にワーキンググループを商業教育部の下部組織として位置づけて設置することとする。

2 検討内容について

- (1) 台北市立松山高級商業家事職業学校との交流に係ること
- (2) 台北市立士林高級商業職業学校との交流に係ること
- (3) 庁内ベンチャー事業「青商ビジネスチャレンジ with 台湾」に係ること

3 構成員

チーフ 教頭

委員 商業科主任、情報処理科主任、教務部主任、渉外部主任、事業に係る学年主任、英語科主任、商業教育部、商業研究部顧問、事務部、その他必要な教員

4 期間

令和4年2月16日から

令和4年度の人事異動により、商業科の教頭が異動になったことから、構成員チーフを教頭から商業教育部所属の教諭へ変更するため、ワーキンググループの設置要項を一部改正した。

この改正により、令和4年4月1日からのチーフは私、高橋となった。

このワーキンググループでは、年間計画、協働学習に参加する生徒の募集・選考方法、研修会の内容・予算等について、検討した。

3 令和5年度の取り組み

(1) 青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人財育成事業

「青森と台湾の高校生による協働学習推進プログラム」

台北市立士林高級商業職業学校と令和3年度から交流しているが、今年度初めて派遣交流及び受入交流を実施することができた。「観光ビジネス」に関する学習や青森県の文化等を通して、青森県の魅力と異文化理解、主体性とチャレンジ精神、コミュニケーション能力の向上を目指すことを目的に協働学習を実施した。

ア 台湾研修会

(7) 期日 令和5年10月19日(木)～10月23日(月)

(4) 内容 10月20日(金) 士林高級商業職業学校協働学習

日本観光物産博覧会 弘南鉄道PR活動

10月21日(土) 日本観光物産博覧会 弘南鉄道PR活動

士林夜市視察

10月22日(日) 観光資源視察

市場調査

(7) 対象生徒 1学年6名 2学年8名

(エ) コーディネーター 外崎 真由美 氏 (株式会社 Revive)



【協働学習】



【弘南鉄道PR活動】



【市場調査】

イ 受入交流

(ア) 期日 令和5年12月11日(月)

(イ) 内容 ねぶたの家「ワ・ラッセ」見学

歓迎セレモニー

学校案内・体験授業(茶道・華道・弓道見学・剣道見学)

英語によるカードゲーム交流学习(アチーブス)

昼食会

送別セレモニー

(ウ) 対象生徒 本校 1学年8名 2学年11名 3学年19名

士林高級商業職業学校 35名

(エ) コーディネーター 外崎 真由美 氏(株式会社 Revive)



【歓迎セレモニー】



【体験授業】



【協働学習】

(2) 提案者事業実施制度（庁内ベンチャー）「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」

グローバル社会を主体的に生き抜く人財育成事業の「青森・台湾間の高校生協働学習促進プログラム」及び一般財団法人青森商業高等学校後援会の「笹森儀助基金活用事業」で台北市立松山高級商業家事職業学校との協働学習内容を引き継ぐ形で、県内の県立商業高校と連携した海外ビジネスチャレンジのテーマで協働実践を実施した。

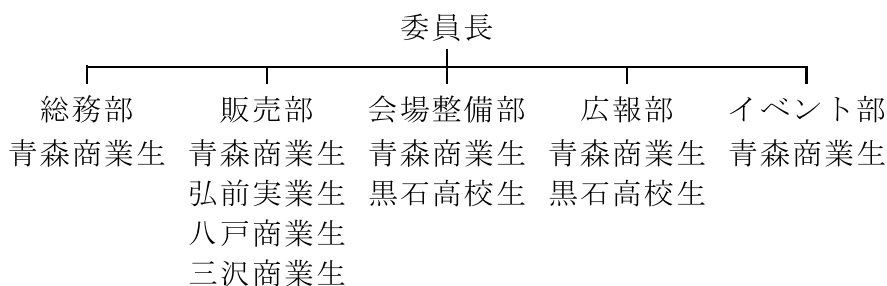
ア 日本での販売実践

国内外でビジネスを展開するノウハウを身に付け、世界と青森を繋げて行くことを目的に県立商業高校と「生徒実行委員会」を編成し、販売実践を実施した。

各校が企業と商談を実施して台湾祭の目的等を説明して出店交渉を行った。企業、来場者、他校生徒との交流を通して、ビジネスの厳しさ、面白さを体験することができた。

- (ア) 生徒実行委員会実施日 令和5年4月26日（水）オンライン
- 5月23日（火）オンライン
- 7月 3日（月）オンライン
- 7月27日（木）スタートアップセンター内

【生徒実行委員会組織図】



- (イ) 台湾祭実施日 令和5年7月28日（金）
- 7月29日（土）
- (ロ) 会場 青森駅前公園及びスタートアップセンター



【生徒実行委員会】



【台湾祭】



【弘実・八商】



【三商・黒石】

イ 台湾研修会

青森商業高等学校生徒12名・教員4名、弘前実業高等学校生徒2名・教員1名、八戸商業高等学校生徒3名・教員1名、三沢商業高等学校生徒3名・教員1名の参加で、台北市立松山高級商業家事職業学校との協働学習、台湾企業の視察・模擬商談、市場調査等を行い、台湾の文化理解、主体性とチャレンジ精神、コミュニケーション能力の向上を目指す目的で実施した。研修を通して克服できた課題、残された課題等の様々な気づきを得たことにより、生徒の視野が広がったと感じた。詳細につきましては、本書の台湾研修会紀行を参考にさせていただきたい。

(ア) 期日 令和5年12月14日(木)～12月18日(月)

(イ) 内容 12月15日(金) 松山高級商業家事職業学校協働学習
エバリッチエンタープライズ視察・模擬商談

12月16日(土) 雙連朝市視察、雙連スーパー視察
テストマーケティング
饒河街(ラオフォー)夜市視察

12月17日(日) 観光資源視察
迪化街(ディーホアジェ)視察

(ウ) コーディネーター 外崎 真由美 氏(株式会社 Revive)



【協働学習】
【青商・松山】



【協働学習】
【弘実・八商】



【協働学習】
【三商・松山】



【企業視察】



【模擬商談】



【市場調査】



【迪化街視察】

4 終わりに

今年度は、台湾祭、ベンチャー事業台湾研修会、グローバル人財育成事業台湾研修会及び受入交流と、コロナ禍から比べると充実したビジネス実践と異国文化に触れることやリアルな交流ができたことで、台湾並びに他の県立商業高校との絆を深めると共に青森県の商業教育をアピールすることができた。各事業の開催にあたり難しい課題が多い中で、各校生徒と教員が進んで課題の克服に取り組んできたことが事業の成功の要因であると断言できる。庁内ベンチャー「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」は今年度で終了するが、引き続き県内の商業高校と連携を密接にして、グローバルな人財育成や様々なビジネス実践に挑戦していけたらと考えている。

【特別寄稿】

青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業

台湾研修会紀行

期 間 令和5年12月14日(木)～18日(月)

宿 泊 ホテルリバービュー台北 参加者 青森商業高等学校 生徒12名 教員4名

弘前実業高等学校 生徒 2名 教員1名

八戸商業高等学校 生徒 3名 教員1名

三沢商業高等学校 生徒 3名 教員1名

コーディネーター 外崎 真由美 氏 (株式会社 Revive)

月 日	行 程
12月14日 (木)	はやぶさ18号 アクセス線 JX863便 借上バス 新青森駅・・・仙台駅・・・仙台空港・・・台北桃園国際空港・・・ホテル 10:39 12:29 14:30 14:57 17:20 20:35 21:30 22:00
12月15日 (金)	協働学習および昼食 企業視察・模擬商談 夕食 ホテル・・・松山高級商業家事職業学校・・・エバリッチ・・・欣葉忠孝店 9:00 9:30 13:30 14:00 16:00 17:00 18:40 ホテル 19:00
12月16日 (土)	視察 視察 昼食 視察 ホテル・・・雙連朝市・・・雙連スーパー・・・鼎泰豊・・・台北101 8:20 8:30 9:30 9:45 10:00 11:30 12:15 12:15 12:45 テストマーケティング 夕食 Café Wine Bistro・・・饒河街夜市・・・ホテル 13:30 16:30 18:00 20:00 20:30
12月17日 (日)	視察 視察・昼食 視察 視察 ホテル・・・中正記念堂・・・迪化街・・・誠品生活・・・新光三越 9:20 9:50 10:50 11:00 13:00 13:30 15:00 15:00 16:30 夕食 天香回味・・・ホテル 17:00 18:30 19:00
12月18日 (月)	借上バス JX862便 アクセス線 はやぶさ27号 ホテル・・・台北桃園国際空港・・・仙台空港・・・仙台駅・・・新青森駅 8:30 9:00 11:55 16:00 18:04 18:29 18:54 20:40

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 佐井 美優

私が今回の旅で立てた目標は、コミュニケーション能力を高めることと、りんごのストローの魅力在台湾の人たちに伝えることです。

2日目の松山家商との交流でりんごのストローの紹介をしたときに、パソコンの操作がうまくいかず焦ってしまい緊張でうまく紹介できなかつたり、ねぶた囃子をやっているときに松山家商の子たちを巻き込んで一緒に跳ねることができなかつたりして、臨機応変に対応できなかったのが反省点だと思います。しかし、松山家商の人たちと昼食を一緒に食べたときに、翻訳アプリ、簡単な中国語や、自分のわかる英単語を使ってたくさん会話をしたり、インスタを交換したりして、仲良くなれて本当に良かったです。ここでできた友達をずっと大切にしたいと思いました。エバリッチさんの企業視察では東さんがお金についての話をしてくれて、お金の勉強をすることで将来自分が損することが減り、知識が増えるので他の人より得をするということを学びました。さらに、今が一番若いから今努力するべきと聞いて私は将来の夢があるので、それに向

かって努力を怠らないようにしようと強く思いました。また、商談についてのアドバイスを頂いたので将来働いたときに活かしたいです。

3日目はまず朝市に行きました。朝市に来ていたお客さんは結構お年寄りの人が多く、生肉がそのまま売られていることに驚きました。そして朝市の場所にはお寺があり、たくさんの参拝者がいて、日常的に参拝に訪れる人が多いということがわかりました。午後に行われたテストマーケティングでは用意しなければならないものが用意できなかつたり、ポップの作成や街の人たちにどのようにして商品をプレゼンするのか準備が全然できていなかつたりして準備に時間がかかつたのと、松山家商の子たちやお店の人とのコミュニケーションがうまくとれなくて、ちゃんと開始できたのが開始予定の一時間半後になってしまいました。ここで私は「報告」「連絡」「相談」が足りなかつたと考えテストマーケティング中は報連相を意識して行動することができました。私はあまり表に出ず裏でサポートしていたのですが、情報がしっかり共有されるため作業を効率よく行うことができ、報連相の大切さを学びました。夜市まで行くのに松山家商の子たちが電車に乗る時から案内してくれました。台湾の電車は日本の電車よりも椅子が硬く、少し数が少ないと感じました。夜市に来ていたお客さんは朝市と違い、若い人たちや家族連れの人たちが多かつたです。また、出している商品も生魚や生肉は置いていなくてその場で食べられるような食べ物が多く置かれていました。私は夜市で松山家商の子たちが教えてくれたおすすめ店でダージーパイと牛肉を食べてタピオカを飲みました。肉はどっちもジューシーでおいしかったです。タピオカは甘すぎないちょうどいい甘さで飲みやすかつたです。また絶対夜市に行きたいです。

4日目のディーホアジェ視察では油飯、かき氷、いちご飴を食べました。油飯に入っていた手羽先がとても柔らかくておいしかったです。かき氷には上にお餅のようなものがのっけていて日本では食べられないので新鮮でした。いちご飴はいちごが小さくて食べやすかつたです。デパート視察ではお土産を買いました。良さそうなお店がたくさんあって困つたけれどいろいろなどころを見ていいお土産を買うことができました。西門ではかわいいストラップを探したり、プリクラを撮つたりしました。最後にみんなと遊べていい思い出を作ることができてよかつたです。

私は言葉が通じない中でコミュニケーションを取ることの難しさを学び、どうしたら相手に伝わるかという相手のことを考えて言葉を伝えられるようになりました。また、翻訳アプリを使って会話をするのがあまり伝わらなくて大変だったので、言語の勉強をしようと思いました。そして、松山家商との交流やテストマーケティングで臨機応変に対応する大変さを学び、相手が今何を求めているのかを考えたり、物事を客観的に見たりすることが大切だと思い、帰つてきてからも周りをしっかり見るようにして学んだことを活かすように努力しています。この旅でたくさんのことを学び、普通の高校生は体験できないようないい経験をし、もっと世界を知りたいと思えるようになりました。このいい経験を無駄にしないようにアドバイスされたことや、学んだことを忘れず日常生活や、働いたときに活かしていきたいです。

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 鎌田 雄一郎

台湾祭ぶりにみんなに再会して嬉しかったです。まずは、新幹線に乗り仙台駅まで行きました。昼飯は私の大好きな牛タン弁当を食べその後に弘実の友達とずんだシェイクを飲みお腹が満たされました。仙台空港に来たのは人生で2回目でした。国際線は初めてだったのでとてもわくわくしていました。思ったよりもパスポートを使うことが多かつたので大変でした。松山家商さんと交流して最初は、お互い緊張してコミュニケーションを取ることができなかつたけど、松山の生徒から話しかけてくれたのでとても親しくなれました。青商のプレゼン発表でトラブルがあつたけど最後まで楽しく交流できたので良かったと思いました。午後エバリッチの東さんが私たちに講話をしていただきました。話を聞いて、若いうちにたくさん努力して将来のために頑張ろうと思いました。101に行って、私が一番楽しみにしていた小籠包を食べました。とてもジューシーで肉汁があふれ出しました。建物の中にはブランド物の商品しかなく、私達にはまだ早いなと思いつながら商品を見ていました。次に、テストマーケティングをしました。松山の生徒と一緒にやって言葉が通

じなかつたので、Google 翻訳など使つて工夫しました。とても寒かつたし大変だつたけど協力してできました。中正記念堂に行つて、兵隊さんの衛兵交代を見ました。迫力があつてとても感動しました。外崎さんとホテルで別れを告げ、空港に行きました。空港で少し時間があつたので鹿内と休憩をしていました。日本に帰つた時はあつという間だつたなと思ひました。とても充実できました。

最後に、台湾に行つて学び得たことは、自分は少し大人になつたなと感じました。

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 鹿内 悠人

今回、私が台湾研修で立てた目標は思い切り楽しむことで、目的はパスタソースを台湾に広めるために台湾の人達の意見を聞くことでした。

(一日目) 私は初めての飛行機、初めての海外でした。最初はとても不安でしたが、乗つてみると案外楽しくて快適に乗ることができました。台湾についてからは少し匂いに抵抗がありました。他の学校から来た人達とも仲良くなれそうで良かったです。

(二日目) 松山家商さんと交流を行い、自分達の発表の時には、次誰が紹介するのか考えておけばスムーズにいけた気がしました。一緒に昼ご飯を食べてお菓子交換やインスタ交換などして大変楽しい時間になりました。そこで感じたことは、松山家商のみんなは英語、日本語が喋れていて素直に凄と感じました。午後にはエバリッチさんにお邪魔させていただきました。そこでネギパンと台湾カステラをいただきました。大変美味しく日本でも食べたいと思ひました。他にエバリッチさんが仕事としている貿易の話や円高円安の話をお聞かせいただきました。そこで一番大事な事として教えてもらったことが20代のうちに一番努力するという事と夢は無くても焦らなくてもいいということをお聞かせいただきました。

私も夢がなくて心配していましたがこの話を聞いて自分に自信をつけることができました。大変貴重な話聞けてよかったです。

(三日目) テストマーケティングを松山家商の生徒さんと協力して行いました。中々言語の壁があり、最初は手間取りましたが、スマホも使いながら台湾の人達に試食、アンケートを取つてもらふことができました。もう少し自信をもって接していればスムーズだったので少し悔しいです。夜には、夜市に行きました。たくさんのお店がありました。美味しい店がたくさんありました。

(四日目) 中正記念堂に行きました。歴史を感じる建物ばかりでした。台湾の原宿と呼ばれる西門に行きました。とても東京を感じられました。

(五日目) 外崎さんに別れを告げました。この台湾研修はあつという間でした。

私は、この台湾研修で自信をもって挑戦することが大事ということをお聞かせいただきました。これからは、自分に自信をもって何事も挑戦していきたいです。

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 山本 大凱

今回は初めての海外、初めての台湾だつた。台湾研修の目標は一つでもいいから新しい発見をすることだ。今まで、台湾祭を行うなど台湾に関する事を沢山行つてきた。しかし、それらは台湾のイメージで作り上げたものなので今回の台湾研修で自分の台湾のイメージと答え合わせの期間でもあつた。

一日目。台湾に到着し、空港を出た瞬間に気候に違いにすぐ気づきました。日本はもう冬で寒いというのに、台湾は夜でも夏のように暑い。この時点でもう一つ目の違いを見つけてしまったのだ。台湾は自分が思っている以上にいろんな違いがあると思つた。

二日目。この日は台北市立松山高級商業家事職業学校の高校生との交流、台湾企業への見学をした。松山家商の生徒たちはとても元気で積極的だつた。例え、使う言語が違つてもまるで気にしてないように話しかけてくれた。こういう所も台湾らしさなのかな、と思つた。松山家商での交流の後は、台湾祭でもお世話になつたエバリッチエンタープライズさんの見学と貿易についての話を聞きに行つた。エバリッチの社長であ

る、東さんの日本では学ばない「お金の話」も聞くことができた。貯金、投資、借金、この3つで一番得をするのは何かと質問を聞いたとき普通に考えれば貯金だが、東さん曰く「いい借金もある。」と言った。最初に借金することで後に借金以上に利益が出る。これがいい借金だと。そしてこれこそがお金の勉強だと。この授業を聞いているとき、自分がどれだけ無知なのかを知ることができた。この日は台湾のことだけでなく、自分の人生のとらえ方も教わった一日だった。

三日目。個人的にこの日が一番大変な日だった。昼には一般市民を対象としたテストマーケティング。夜には松山家商の高校生達との夜市があった。テストマーケティングが始まる直前に、ホテルの部屋にねふた工作セットのサンプルを忘れたことに気づいた。もっと早く気づいていれば取りに戻れたかもしれない。これが鈴木先生や外崎さんに言われた責任感がない、報連相ができてないに当てはまると。ものすごい実感した瞬間だった。テストマーケティングでは目の前を通っていく台北市民に話しかけないと始まらない。研修組は固まっていたが松山家商の生徒たちがここでも積極性を魅せた。自分たちよりも積極的に話しかけに行き、必死に頑張っていた。自分たちに足りないものを松山家商の生徒たちは持っていると思った。そうして、今回の研修の最大の山場であるテストマーケティングが終わった。かなり反省点が多いマーケティングになった。しかし、鈴木先生や外崎さんは失敗してもいいと。この失敗が報われるのは5年後、10年後かもしれないが、この失敗のおかげで今やっている仕事ができているなど、そんな風に成長出来たら成功だと。この経験はどの高校でも経験できない貴重なものだと心の底から思った。夜は松山家商の高校生のガイド付きで夜市を周った。二日目に行った朝市とはまた違う雰囲気があった。朝市も人が多かったが、夜市はその倍の人がいて、お客さん、屋台の人の声や日本の曲など盛んに聞こえていた。台湾では有名な台湾唐揚げ、本場のタピオカミルクティーなど、どれもこれも美味しかった。駅で松山家商の生徒達との別れは寂しかったが、またいつか台湾に行って夜市を周りたかったと思った。

四日目。この日は中世記念堂の見学、ディーホアジェの視察だ。中世記念堂で行われた警備員によるパフォーマンスは巧みに持っている武器を操り、一つ一つの動作がきれいで見ていて圧巻された。ディーホアジェは日本でいうとこの中華街のようなところだった。様々なお土産やお菓子が売られており、路上で弾き語りをしている人がいたりなどとても賑やかなところだった。夜に西門町という、日本でいう原宿での自由行動があった。夜なのに人が大勢いた。西門町もとても賑やかで路上販売も多い。外でも店の中でも他に占める場所だと感じた。

自分はこの台湾研修に参加して本当に良かったと思う。あの時、手を挙げていなかったら一生後悔していたと思う。初めていく海外、変わる言語、食べたことも嗅いだこともない料理、聞いたこともない文化、歴史、すべてが自分からすれば新鮮でとても興味深いものだった。青森商業以外にも参加していた三沢商業、弘前実業、八戸商業の生徒たちとも交流し、つながることができた。この台湾研修を機に中国語に興味を持っている自分がある。将来、また台湾研修に行ったメンバーでまた台湾に行きたい。中国語を覚えたい様々な考え、思い出ができた四泊五日の旅だった。台湾祭から始まったこの課題研究。とても楽しかった。こんな経験ができた人のつながりに感謝をしたい。お金を出してくれた親、コーディネーターの外崎さん、松山家商の生徒達、エバリッチの東さん、そして引率の鈴木先生、飯田先生、榊先生、菊地先生、ほかの高校の先生とメンバーには感謝しかない。この課題研究を選んで本当に良かった。ありがとうございました。

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 大山 莉奈

1日目・入国検査&移動

パスポートの顔が最初髪を下ろしていたため顔が違うと言われ、とても焦りました(泣)。これからはなるべくパスポートに近い状態で入国したいと思いました。

2日目・松山交流&エバリッチ

松山交流では最初に学校紹介&商品紹介を行いました。学校紹介では、互いの学校の良いところを紹介しあいました。松山家松は学校がとても広く綺麗でした。また、金曜日にはUber Eatsの日があり、学校もデ

ザイン科で自分たちの個性溢れる壁をみんなで作り上げて自由な学校でした。

商品紹介では、所々ハプニングも多かったですが、自分たちの伝えたいことを伝えることができました。私は、ねぶた工作セットについて紹介したのですが、生徒からはとてもキュートでクリエイティブとおっしゃっていただきました。最後にはみんなと昼食を食べ、交流をしました。

エバリッチでは、貿易についての説明やお金について説明していただいたり、ネギパンと台湾カステラをいただきました。そして、各校の商品を商談し的確なコメントをいただくことができました。お礼にねぶたのお囃子を披露しました。お金の使い方などは、私たちがこれが正しいという固定概念を壊してくれるようなとても面白いお話でした。

3日目・朝市&テストマーケティング&夜市

朝市は年齢層も高く、お魚や生肉が売っていました。そこで食べ歩きをするというより、家に帰り調理してから食べられるものが多かったです。イメージに近いのが八戸市にある朝市だと思います。テストマーケティングは、ねぶたのサンプルをホテルに忘れてきたり、値段のポップを作っていないなど準備が全然できていませんでした。反省点が多く、でもこの経験を次に活かしていきたいです。

夜市は朝市に比べ、年齢層も低く揚げ物も多かったため若者向けの食べ物が多かったです。そして、建物も台湾祭の時と重ね合わせ見ていきましたが、黄色や赤色を使っているところなどが台湾祭で再現できていたのかなと思いました。また、食べ物だけでなくクレーンゲームもあり、毎日行っても飽きないと思いました。

4日目・迪化街&デパート視察&西門

迪化街では、ルーロー飯をいただきました。かき氷は冷たくてふわふわでした！

そして、建物も昔の日本に似ていたり、日本の歌を歌っている方もいました。

デパート視察は去年も行った、誠品生活や台湾のグッズやコスメが沢山売っていました。他にもご飯料理屋さんがありました。その中でも最も印象的だったのが、天井に沢山のレンゲが丸く吊られていたのがすごく印象的でした。台湾では、小籠包でも使われているのでとても台湾らしくユニークな発想で面白いと思いました。また、日本の建物にも取り入れたらもっと華やかになると思いました。

西門では日本の渋谷みたいでした。路上販売や占いなどがあり、とても華やかでした。沢山お土産が売っていて若者向けのお土産が多かったです。

5日目・帰国

手荷物に間違えてケーブルを入れ没収されたり、ビーフジャーキーを没収されました。事前に調べておくべきでした。これも勉強だと思い、良い経験になりました。

まとめ

沢山の場所でお囃子をすることができ、魅力を伝えることや台湾の方々と翻訳機能や話すことができ良かったです。一年間の目標を台湾研修に行くことにより達成できたと思います。

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 赤石 奈々

私は、台湾研修を通して今まで体験したことのないことをして将来に活かしていきたいと思い参加しました。

2日目、松山高級商業家事職業学校に行き、今まで準備してきた「こけす」の紹介をしました。ですが、流れが把握出来ていなかったり、いろいろと焦ってしまったりして生徒の方々にきちんと伝えることができませんでした。もう少し流れを把握し、肝を座らせて発表することが出来たら良かったです。そして、エバリッチでは、今学校で学んでいるお金の内容が将来に役立つことを知りました。私は、テストや資格のために勉強をしてお金の本質までは覚えられていないので授業を頑張っていきたいと思いました。そして今頑張ったことや挑戦したことで将来の自分の生活が変わっていくと聞きました。なので、努力をして日々を過ごしていきたいと思いました。

3日目の朝市は現地の方々の暮らしが見られた気がして楽しかったです。青森中央学院大学の留学生が話していた臭豆腐を目の前で見ることができ嬉しかったです。そして、とても臭かったです。テストマーケティングでは、準備不足が多くうまくいかなかったです。値段の紙であったり売るスペースの飾り方であったり、梨央さんと話し合っていた売り方が出来ない環境だったりしましたがもう少しいろんなことを考えて準備をしておいたらよかったです。そして、こけスの魅力を伝えるために配るだけでなく台湾の高校生に手伝ってもらったりして説明できたら良かったです。あと、配ることも考えてどういふのを手渡ししているか書いた、首にぶら下げられるボードなどを作っておいたらよかったですと思いました。それに、自分だけで行動するのではなくコミュニケーションをとるべきだと思いました。正直うまくいかなかったことのほうが多いですがいい学びになったと思うし、今後に活かしていきたいです。夜市では松山の方に案内してもらい美味しいご飯が食べられました。また輪投げをして私は入りませんでしたがとても楽しかったです。

4日目の観光では町で踊っている人やカンフーをしている人を見て台湾の自由な感じを見ることができました。1日中友達と行動し楽しく観光や買い物をすることができました。

私は、この台湾研修を通して周りの人と協力し、コミュニケーションをとることの大切さを感じました。また、周りの人に頼ることも必要だと知り、私はそれができていないので気を付けたいと思いました。そして予期していないことが起こったりするが事前に考えられることはきちんと準備をして、予定表などもきちんと確認し、その時に適した行動を考えることも大事だと感じました。また英語を勉強していきたいです。将来に生かすことができるよう頑張っていきたいです。

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 我満 来羅

今回、私は青森の魅力を台湾の人に伝えることと台湾の町や文化について学ぶという目標を立てました。

1日目はほぼ移動でした。初めての海外、初めての飛行機でとても緊張したけれどとても楽しかったです。台湾についた時、とても町が明るくバイクがとても多くて驚きました。

2日目は、松山高級商業家事職業学校に行き交流、エバリッチで話を聞きました。松山高級商業家事職業学校の人たちに商業高校のことや商品のことについて発表しました。その時は、パワポがうまくいかずとても緊張してしまい、うまく話すことができませんでした。その後、松山高級商業家事職業学校と一緒に昼食を食べました。台湾の弁当は見た目は少し微妙だけど食べてみると美味しかったです。りんごのストローをみんなに使ってもらって美味しいと言っているのを聞いてうれしかったです。松山高級商業家事職業学校の人たちとインスタを交換したり、写真を撮ったりしました。自分なりに伝えてみたけれどなかなかうまくいかず翻訳アプリを活用して、会話しました。台湾人はみんな可愛くて、とてもフレンドリーで話しやすかったです。みんな日本語は上手で驚きました。エバリッチでは、東さんの話を聞きました。貿易の話、お金の話などを聞いてみて、日本はお金のことについてまったく勉強していないと聞き驚きました。借金は私の中で良くないイメージでした。しかし、借金の利益を得るために必要なことだとわかり勉強になりました。ネギパンと台湾カステラがとても美味しかったです。エバリッチの方に商談の練習をしました。会話みたいな感じで自分の伝えたいことをしっかり伝えることができました。夕食は台湾料理を食べました。必ず一口は食べるようにしました。しかし私には台湾料理は合いませんでした。私は台湾の店員さんはお皿に盛るとき、とても雑でいかに日本がサービスが整っているんだなと思いました。みんなでこれなんだろうと話しながら食べるのが楽しかったです。

3日目は朝ホテルのトイレが噴火して朝からパニックでした。台湾のトイレはなかなか流れなく恐怖です。バスで移動して朝市に行きました。朝市は果物、お肉など食材が多くお年寄りメインな感じがしました。鳥がまるまる焼いているのをみて衝撃を受けました。昼食は小籠包でした。よくテレビとかで小籠包を食べているのを見ていたので食べられてうれしかったです。箸で小籠包を割ったら中から汁がジュワーと出てきて感動しました。101はとても広くきれいでした。日本と規模が全然違いました。台湾のお店を少し借りてテストマーケティングを行いました。自分たちの使うものを外崎さんに伝えていないなど準備がうまくいか

ず開始したのが1時間遅れてしまいました。QRコードを作ったが回答期限が切れてしまいアンケートをとることができませんでした。松山高級商業家事職業学校の人たちと協力してテストマーケティングをしようとしたがうまくいかずとても苦戦しました。いろいろな人りんごのストローを試飲してもらったり、食べてもらったりしました。テストマーケティングで、報・連・相や事前準備の大切さを学ぶことができました。とてもいい経験ができました。夜市では、食べ物や服、ゲームなど若者メインのものが売っていました。私は、唐揚げ、お肉、いちごあめ、タピオカなどいろいろ食べました。

4日目は、観光でした。中正記念堂をみました。その時の兵隊の動きがみんなそろっていたし、顔がかっこよかったです。道で踊っているおばあさんがいて台湾って自由なんだと感じました。油化街にいきました。いろいろな店が多く人も多かったです。そこで食べた油飯がお肉がやわらかく美味しかったです。夕食は台湾鍋でした。ポンポン食べるものが出されて何かせかされている感じがして急がないとという気持ちになりながら食べていました。その後、西門にいきました。東京の原宿みたいでとても明るくにぎやかでした。道でパフォーマンスをしている人がとても多く、みていて楽しかったです。

今回の台湾研修を通して、いろいろなことが学べました。台湾人はみんなフレンドリーで話やすく翻訳アプリなどを使って会話ができました。このことから言語が通じなくても翻訳アプリや自分の知っている単語を言うだけでも通じることがわかりました。台湾は車よりバイクが多く道にたくさんのバイクが止まっています。なんで車よりバイクの方が多いかと疑問に思いました。台湾の街はとてもカラフルでした。イルミネーションがたくさんあったり、壁に落書きがあるなど、バスから外をみていて個性が強く派手だなと感じました。テストマーケティングでは事前準備、報・連・相の大切さなども多くのことが学べました。台湾の人たちに青森のいいところを教えることができました。海外に簡単に行くことができず、今回みたいに違う高校の人たちと一緒にいけたことが貴重な体験だなと思いました。台湾で学んだことや言葉などをみんなに伝えたいと思いました。他校の子と交流し新しい友達もできました。自分で台湾に行きたいと手をあげてよかったと改めて思いました。とても楽しく、充実していて幸せな5日間でした。

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 亀田 沙来

今回、私は台湾祭だけではわからなかった食文化の違いや生活の中での違いを学び、同じ商業を学ぶ高校生と交流することで新たな知識を吸収することを目標に、台湾研修に参加しました。

1日目、出発

他の商業高校の皆さんと新幹線で合流しました。入国審査は不安でいっぱいでしたが、無事皆で台湾に到着出来てよかったです。機内食も美味しかったです。

2日目、松山高級商業家事職業学校と交流 エバリッチ訪問

松山高級商業家事職業学校の皆さんの日本語の上手さとパワフルさに圧倒されました。学科の数や校舎の広さは大学のように。学校交流を通して、私自身、中国語とコミュニケーションを磨きたいと思いました。エバリッチ訪問では、東さんのお話から努力することの必要性や先を見据えた借金は時には利益にもなるということ学びました。借金も貯金も投資も結局はその人の使い次第だとわかり、20歳になる前に東さんのお話が聞けて良かったと強く思いました。ネギパンと台湾カステラが絶品でした。

3日目、朝市 テストマーケ 夜市

朝市は朝と思えないくらい人と活気で溢れていました。鶏丸ター羽売っていて斬新だなと思いました。気になったけどさすがに食べられないので鶏肉とニラのシャープンを食べました。ニラが効いて美味しかったです。テストマーケでは、松山高級商業家事職業学校の生徒との意思疎通に必死で、ターゲットであるお客さんを長い間受け流してしまいました。途中からは多くの方に試食をしてもらえましたが、試飲は上手く提供できませんでした。ですが、子供や大人と多くの方に試食していただけたことで違う視点からのアドバイスや感想をいただけたので、この結果をしっかりと五所川原商業高校に伝えられるようにまとめたいです。夜市は、朝市とガラッとかわり、コッテリした食べ物が多く感じました。本場のダージーパイ美味しかった

です。案内してくれてありがとうございました。口が幸せな一日でした。

4日目、迪化街 デパート視察 西門

迪化街では、担仔麵、おやき、かき氷、フルーツ飴などを食べました。集合時間の直前に頬張ったパッションフルーツのかき氷がとても美味しかったです。今度ゆっくり食べに行きたいです。デパート視察では、デパートの広さ、商品の多さに驚きました。日本はだいたい一番上の階にフードコートがあるけれど、台湾は地下にフードコートがありました。店舗数も多く、丸亀製麺も入っていました。台湾の原宿と呼ばれる西門では、自由時間を満喫しました。とても賑やかで愉快的人が多い印象でした。いるだけで楽しかったです。

5日目、帰国

今回の旅を通して、異国の商品を現地の方に手に取ってもらうことは難しいと強く実感しました。確かに、もし日本で海外の人が試食や試飲をお願いしていても怪しむと思います。だからこそ、事前の準備と親密な関係性を築くことが必要なのだと学びました。外崎さんや東さんがやっていることがどれだけ凄いことか身にしみてわかりました。これからは、相手の信用を得るにはどうしたら良いか、事前の準備を怠らないようにしたいです。今回このような貴重な経験をさせていただけたことに感謝し、今後の課題研究の時間に繋げていきたいです。とても濃い5日間をありがとうございました。

青森県立青森商業高等学校

商業科 3年 千葉 梨央

無事に人生初の海外・台湾から帰国できて安心していると同時に、今5日間の疲れがどっと来ています。今回私は、「研修で得た情報を持ち帰り、多方面にフィードバックすること」と「意欲的に何事にも取り組むこと」を大きな目標として台湾研修に臨みました。

一日目は主に移動で終わったような日でした。人生初の海外への期待と不安でいっぱいでしたが、飛行機でプラダを着た悪魔を見ているうちに台湾に無事到着しました。ホテルは思っている以上にきれいで快適でした。ただ、ドライバーが非常に簡易的で驚きました。この日は、翌日の松山家商との交流に向けての準備をして就寝しました。

二日目は松山家商との交流とエバリッチさんへの訪問でした。松山での各班の発表は、なかなか原稿通りに行かずアクシデントが立て続けにありました。このことから、発表の流れをお互いに確認してから本番に臨むとより良いものになったのかなと思いました。お昼を挟んで、松山の生徒とお土産交換や連絡先交換ができたりなど得たものも多くあり、良い経験となりました。生徒とお別れをして、エバリッチさんへ向かいました。エバリッチさんには、オンライン商談のほか台湾祭で大変お世話になっているので、今回直接訪問でき、嬉しかったです。

三日目は午前朝市見学、午後は市場調査とラオフー夜市見学がありました。朝市では、朝早くから多くの人で賑わっていました。日本では見られない食べ物や新鮮な野菜や精肉が屋台で売られていました。台湾のおいしい朝ごはんが体験できる場所だと思いました。そのあと、台北101に行き、昼食とスーパー視察を行いました。高級スーパーなこともあって、日本のりんごやいちごなどどれも値段が高く、驚きました。また、品揃えの多さと商品の並べ方の美しさにも驚きました。そして、いよいよ台湾に来た一番の目的でもある市場調査が始まりました。松山家商の生徒の皆さんにも協力してもらいました。全体を通しての反省として、まずスタートが遅れてしまったことです。台湾ということもあり、初めの売り出しが消極的になってしまいました。しかし、後半では、歩いている方に商品の説明など積極的に行動でき、購入までしていただけるようになりました。初めて踏み入れる地での行動は不安が多いですが、何事も自分から動くことが大切なのだ実感しました。

夜市は、朝市と違った雰囲気、明かりが灯り、入り口の門からとても綺麗でした。出来立てのダージルパイや名物の胡椒餅が絶品でした。朝市と比べて若い人が多いようでした。

四日目は中正記念堂を訪れました。台湾の歴史を感じる建物と景色を堪能できました。この日は町中を歩

くことが多く、直接、台湾の街並みをゆっくり見ることができてよかったです。バスで移動するのはまた違う魅力がありました。

最終日は、朝から台湾桃園国際空港に向かい、手続きをしました。パスポートを無くすこともなく、全員が無事に飛行機に乗れてよかったです。いろいろなことがたくさんあり、慣れないことも多く、大変でしたが、その分自分の力になったこともたくさんあります。長いようで短かった台湾研修も終わり、メンバーとのお別れは寂しかったです。研修で培った広い視野と、臨機応変に自分から行動する力を、進学先でも生かして自分のさらなる成長に繋げていきたいです。改めて、5日間を過ごした仲間と先生方、ありがとうございました。

青森県立青森商業高等学校

情報処理科 3年 田村 洸士

今回私が立てた旅の目標は2つあり、1つは台湾の身の回りのIT事情について実際に体感してくることです。2つ目は、ねぶたを通じて青森の魅力を発信してくることでした。

1日目、この日は1日中移動でした。私は海外に行くのが2回目なので不安はありませんでした。台湾についてまず感じたことは、青森の気温と台湾の気温が全然違うことを感じました。

2日目の午前は台北市立松山高級商業家事職業学校との学校交流がありました。松山家商に行くとても楽しそうにお出迎えをしてくれました。松山家商では4時間という短い時間でしたが、お互いの学校紹介や青森の祭の紹介(ねぶた祭の演奏)お昼は松山家商で、松山家商の生徒と一緒に弁当を食べインスタも交換し、交流を深めることができました。帰り際にお土産をもらい日本から持ってきたお土産を渡し、「また明日ね」と言っていたんお別れをしました。午後は、エバリッチエンタープライズ有限公司にお邪魔させていただき社長の東さんや貿易担当の方から貿易のことや、お金のことについて教えていただきました。そしてサプライズでなんと台湾ソウルフードのネギパンと台湾カステラをいただきました。なんとこれは東さんの策略でまんまとはまってしまいました。ネギパンはしょっぱい系のパンで、あと2つ食べたかったです。台湾カステラはしっとりふわふわでミルクティーと一緒に食べたらおいしいだろうなと思いました。

3日目の朝は朝市に行きました。朝市では主に食材がメインで売っていました。そしてそのまま台湾のスーパーに行ってきました。日本のスーパーとは違い、1階が生鮮食品などで2階がお菓子や生活用品など売っていました。日本の商品なども売っていました。そのあとは台北101に行き朝市の後のスーパーよりも大きなスーパーを視察してきました。そこでは台湾の物から日本の物そしてそれ以外の国の物まで販売していました。しかし、値段は朝市の後のスーパーより高めで平均が\$100元前後でした。そのあとは市場調査に行き日本から持ってきたパスタソースなどの試食をしてもらいアンケートを入力してもらいました。その時は松山家商の生徒にもお手伝いをしてもらいました。夜は松山家商の生徒に饒河街(ラオフー)夜市を案内してもらいました。

4日目はまず、中正記念堂で衛兵交代を見た後迪化街(ディーホアジェ)を視察し、そのあとデパートを見てきました。そこで日本人留学生の白井さんに声をかけてもらい少しだけ案内してもらいました。そこで台湾では有名な「ヤクルト緑茶(多多緑茶)」をごちそうしてもらいました。最初聞いたときは耳を疑いましたが、実際飲んでみて名前そのままだなと思いました。夜は私たちが寝泊まりしたホテルがある西門の街を自由に散策してきました。巨大なディスプレイなどキラキラしていて日本の新宿だなと感じました。

最後にこの研修を通して、日本よりも町がIT化しているなど感じました。また、ねぶた囃子を台湾で聞くことができたのでとてもいい経験になりました。それ以外にも、世界の広さを知ったり、コミュニケーション能力をさらに高めたりすることができたので、この研修に参加してよかったなと思いました。またこのように海外に行く機会があったら進んで行ってみようと思いました。

青森県立青森商業高等学校

情報処理科 3年 高村 心花

今回の台湾研修を行うにあたって私は、広報部として写真撮影・動画撮影をすることや、各SNSに投稿をするだけではなく、異文化理解や異文化コミュニケーションを積極的に行うという目標を設定しました。

1日目は、青森から台湾へ移動をしました。

初めての海外でとても緊張しました。また、入国検査など英語で話しかけられ理解することができないことが多くあったため、英語の勉強の大切さを痛感しました。

2日目は、パスタソースを共同開発した松山高級家事職業学校と台湾祭の際出店してくださったエバリッチエンタープライズの会社への訪問、レストランに行き台湾料理を食べました。松山の生徒はとてもフレンドリーでたくさん話し、写真を撮ることができました。

エバリッチでは、会社の説明だけでなく、円高や円安の話など今後の人生の役に立つ話を

聞くことができました。レストランでは、台湾料理を食べました。口に合うものが少なかったけど、全部の料理に挑戦し、先生達ともたくさん話すことができとても楽しい時間を過ごすことができました。夜には台湾のコンビニに行きました。日本のものが多く少し高かったです。

3日目は、朝市や台北101、小籠包、テストマーケ、夜市に行きました。朝市では、生肉や野菜など多くあり、若者ではなく高齢者が多い印象でした。台北101は、とても大きくすべてをまわることができませんでした。ハイブランドのお店が多かったです。小籠包は、台湾料理とは違いとてもおいしく、日本人の口にあう料理でした。テストマーケでは、松山の高校生と協力して商品を紹介している様子をたくさん撮影することができました。また、休憩時には松山の子たちとかき氷屋や、タピオカ屋にいきたくさん交流することができました。夜市では、松山の子に案内してもらい楽しくまわることができました。臭豆腐の匂いはとても臭く、一生嗅ぎたくない匂いでした。松山の子と撮ったチェキは宝物です。

4日目は、問屋街やデパート、火鍋、西門に行きました。問屋街ではイケメンと写真を撮ることができました。自分達から話しかけ油弁当をGETすることや、サンリオの髪ゴムを値引きすることができました。デパートには服などしか売ってなくかなり遠いスーパーに行きました。火鍋は外崎さんと一緒に食べ、外崎さんと仲良くなることができました。西門では、様々なお土産屋に行き、自由行動を楽しむことができました。

4日目は移動でした。桃園空港の免税店で買い物をし、仙台駅で抹茶ジェラートを食べました。

私はこの研修で、積極性の大切さと異文化と交流することの楽しさ、青森・台湾の魅力を知ることができました。この研修で学んだことを、今後の学校生活や進学後に役立てていきたいです。私は青森中央学院に行くので引き続き台湾と交流し、異文化理解をするため積極的に行動していきたいです。

青森県立青森商業高等学校

情報処理科 3年 竹内 友菜

私は、台湾に行く前に青森の魅力を台湾に台湾の魅力を青森に発信していこうと考えました。そこで実際に台湾に行き、台湾の街並みや文化を自分の目で見ようと思い台湾研修に参加しました。

一日目は新青森駅に集合して仙台駅に行きお昼は牛タンを食べました。そして、仙台駅から台北空港に向かいました。仙台空港では入国審査や荷物検査などを行いました。2回目の飛行機に乗りました。途中とても機体が揺れて怖かったです。台湾の台北桃園国際空港につき、日本円を台湾元に換金しました。普段見ないお金で日本とは使い方が違ってとても難しかったです。

二日目は松山高級家事職業学校を訪問しました。松山の生徒はとてもフレンドリーで言語が違っても翻訳やジェスチャーなどなどを使い楽しく話すことができました。そして私は積極的に話しかけに行くことができ、台湾研修が終了した後もメッセージでやり取りするくらい仲良くなりました。午後はエリバッチに行き東さんのお話を聞きました。マーケティングを行う上でやらなければならないこと、大事なことについて話していただきました。そしてエリバッチさんの作ったネギパンとカステラを試食しました。パンもカステラ

もとても柔らかくて日本人が好きな味だなと感じました。夜はレストランに行き台湾料理を食べました。とても独特な味付けで私の口には合いませんでした。

三日目は台北101に行きました。台北の中で一番大きいタワーで中には大きなクリスマスツリーやブランド品が多くありました。周りはイルミネーションされておりキラキラでした。昼食は小籠料理を食べました。小籠包の中は熱々の汁が入っておりおいしかったです。そして、テストマーケティングを行いました。翻訳機能を使い松山の生徒に日本から持ってきた商品の試食、感想などを聞きました。私はその様子を写真に撮りInstagramに投稿しました。夜は、松山の生徒と一緒にチームを組み夜市に行きました。たくさんのお店があり、胡椒餅やダージーパイを食べました。出来立てでとてもおいしかったです、臭豆腐の店もあり、臭いはきつかったです。松山の生徒とお別れしました。たくさん写真を撮ったりしました。

四日目は中世記念堂に行き、とても大きな大仏があり、一つ一つの建物も大きかったです。そしてインスタライブを行い、青森の人に向けて発信しました。そして、毎日青商「課題研究台湾班」のインスタに写真を投稿しました。

五日目は帰りの空港で手荷物検査があり、班の人がビーフジャーキーを持ち込み、検査に引っ掛かり没収されていました。そのため、また海外に行く時があったら、自分の手荷物を確認して検査に引っ掛からないように気を付けます。

この四泊五日でたくさんの経験をする事ができました。また台湾に行きたいです。

青森県立弘前実業高等学校

商業科 3年 加福 悠人

私は将来ホテルマンになりたいと考えているので、今から海外について知ることで海外から来るお客様にも対応できる国際的な視野を身につけたいと思ったのがきっかけで参加しようと考えました。

印象に残っている活動は、マーケティング活動です。台湾の企業の方に紙漉き班が作成した青森の名所が掲載されているカレンダーをプレゼンし、どの値段なら買ってもらえるかなど調査しました。初めての商談ということで緊張したり自分の言葉で伝えるということが難しかったりで苦労しました。しかし、カレンダーの特長を自分の言葉で伝えることで青森の魅力を再確認する機会にもなりました。初めて海外に行ってみて言語や食べ物など国を超えるだけでこれだけの差があることを体感しました。

高校生でマーケティング活動などをするために海外に行けることはなかなかありません。そのチャンスを掴み活動したことで、今までにない海外からの視点で見ることができました。この貴重な経験を将来に活かし、日本に貢献できる人材を目指していきたいです。

青森県立弘前実業高等学校

商業科 3年 古川 色華

今回の台湾研修では、企業との商談や市場調査などを通して、日本との違いを学びました。

特に印象に残っているのは、台湾の商業高校生との交流です。研修3日目のテストマーケティングでは、りんご選定枝を原料とした和紙で作成した卓上カレンダーについて、通行する台湾の方々へアンケートを記入してもらえよう、声がけをしてもらいました。また、その後に行われた夜市見学で、一緒に夜市を巡ることができました。通訳の方もいなかったもので、お互い言葉が通じなくて大変だと思ったこともありました。翻訳アプリを使用したり、英語を使ったりして積極的にコミュニケーションを取ることができました。

台湾に初めて行って見て、2日目までは30℃近くあったのに3日目以降は15℃ほどで寒暖差が激しい気候で、台湾も異常気象であることや原付バイクの多さ、食べ物の味の違いなどを五感で感じる事ができました。私は卒業後、黒石市役所に就職するので、台湾研修で学んだことを活かし、私自身が海外と黒石の架け橋になれるよう頑張りたいです。

青森県立八戸商業高等学校

商業科 3年 中村 梨子

私が台湾に行き着目していた点は日本との違いについてです。実際に行くことで違いを体感できたことがたくさんありました。

特に印象深かったこととして、台湾人は日本人と比べて積極的であるということです。現地の高校生と交流した際、日本から来た私たちに翻訳機や英語を使い話しかけてくれました。それをきっかけに私も自分から積極的に話しかけにいこうと思い、自ら話しかけることに挑戦しました。また、台湾人と話してみても英語や日本語を話すことができる人がたくさんいるということに驚きました。

さらに、台湾と日本の食文化の違いを感じました。八戸商業は台湾の企業の方にブルーベリー味の鶴子饅頭と八戸郷土かるたの商談を行い、鶴子饅頭を試食していただきました。日本人が美味しいと思う鶴子饅頭も台湾ではあまり好まれないかもしれないということを知り食文化の違いを実感しました。

台湾に行き、台湾の魅力を知るだけでなく日本との違いや台湾の商売の仕方など商業的な部分も知ることができました。実際に行きその国の文化や習慣を体験してみることで違いを明確に理解でき、異文化理解にも繋がると思いました。

青森県立八戸商業高等学校

商業科 3年 二子 七海

松山高校のみなさんとの交流で感じたことは、コミュニケーション能力と積極性の高さです。日本語しか話せない私に対し、松山高校の生徒の中には英語や日本語を少し話せる人が多くいました。世界共通語である英語を学び少しでも海外の人とコミュニケーションを取りたいと思いました。ジェスチャーや表情だけでも気持ちを伝えることができると実感しました。

学校紹介、テストマーケティングでは、あらかじめ原稿や場所を把握していたのにもかかわらず、試食をしてもらう際の提供方法やアンケートの準備など前日の話し合いの段階で想定して行うことができませんでした。紹介する商品のことを理解してもらうための説明を考えるなど事前の準備をしっかりとすることが必要だと学びました。

街中は、バイク専用の停車位置が道路にあったり、夜の照明がピンクや青などの原色が多いという違いがありました。台湾の方々は、とても優しい人柄でした。県内の高校生とも交流を深めることができ、より多くのことを学んだ台湾研修になりました。

青森県立八戸商業高等学校

商業科 3年 前田 ゆうな

私は、今回の台湾研修で多くのことを身につけることができました。

台湾の高校生と交流をしたことは、自分が今後何を身につけるといいかを確認することができて良い体験になりました。台湾の高校生とテストマーケティングや夜市を回った際には、私達と英語やジェスチャー、翻訳アプリなどを使用して積極的にコミュニケーションをとってくれました。私は、日本語でしか話せないのかを翻訳アプリに頼ってばかりで直接話すことがあまりできませんでした。自分がどれだけ英語ができないのかを知ることができ、今後真面目に英語に取り組んでいきたいと思いました。言葉だけでなく色々な方法でコミュニケーションを取れることがわかったので私も翻訳アプリや自分のわかる英単語をジェスチャーを使用しながら少しずつ台湾の方々との距離を縮めることができました。

台湾に初めて行き、台湾の雰囲気や文化以外にも台湾人の人柄の良さや自分の今後の目標を見つけることができて良かったです。日本以外の国に行き、他の国の言語と文化にも興味を持ちました。

青森県立三沢商業高等学校

商業科 3年 及川 竜矢

初めての台湾はとても刺激的で、楽しいこといっぱいでした。特に良い思い出になったと思うのは、松山家商の方たちと交流したことです。最初は、何をしたいのかわからずにコミュニケーションをとることはできませんでしたが、歩いている方に話す前にまず、松山家商の方とコミュニケーションをとることが大事だと思い、積極的に英語で会話することを心掛けました。その結果、テストマーケティングの趣旨を理解してもらい、スムーズにプリン宣伝とアンケートを行うことができました。その時に、自分の英語は思った以上に通じるということがわかって、その後に会話する際の自信にもつながったので積極的にコミュニケーションをとって良かったと思いました。夜市を散策しているときにも、たくさん会話をしてきて、すごく楽しい夜になりました。

そのほかに印象に残っていることが、エバリッチ有限会社の東さんのお話です。それは、人生はほとんど20代で決まるということです。20代で努力しないと最初に勝つことはできないと聞き、後で努力するよりならその方がよいと思いました。そして、この話を聞いた後に食べたネギパンとカステラがとてもおいしくて幸せでした。

初めての海外研修は、今まで経験してこなかったことをたくさん経験できて、すごく貴重な経験になりました。なかでも、今まで関わることが少なかった海外の方の考え方や文化に触れたことで、自分の視野が大きく変わったと感じます。これがきっかけで今までより一層海外に興味を持つことができたので、これからも海外に行く機会を設けて自分の考え方とは違う考えに触れ合って常識にとらわれない柔軟に対応できる楽しい大人になっていきたいなと思いました。

青森県立三沢商業高等学校

商業科 3年 久保田 陽人

私は今回の台湾研修会で、海外へ行くことの難しさ、文化や環境の違い、台湾の方々の親日度、台湾の市場について学ぶことができました。

1日目・5日目は日本と台湾の気温の違いに驚きました。台湾について空港から出たとき、21時頃でもかなり暑く感じました。湿度も高かったため、体感温度は気温以上に高かったと思います。

3日目・4日目は夜市やデパートの視察に行きました。デパート視察の際には、台湾に住んでいる日本人学生の方に台湾についてのお話を聞きながらお土産などについて案内をしてもらいました。

台湾研修会を通して特に、台湾の方々の親日度に驚きました。ほとんどの方が簡単な日本語を話すことができたので時間はかかりながらもコミュニケーションを取ることができました。また、様々なところに日本語があったので、日本人が住みやすい環境だと感じました。食べ物は日本とは違う味付けのものが多くあり、食べるたびに驚きました。

初めての海外で困難なことも多くありましたが、たくさんの方々に助けをいただきながらとても有意義な時間を過ごすことができました。

青森県立三沢商業高等学校

商業科 3年 古林 詩愛

私は、今回の台湾研修で初めての海外に行くことが出来ました。始めは、自分の学校で女子一人だけ行くことにとても緊張して不安ばかりでしたが、他校の子が仲良くしてくれたおかげで、楽に台湾研修をすることができました。

台湾研修では、松山高級商業家事職業高校の生徒との交流や、エバリッチ有限会社様との商談、朝市と夜市の観光などをしました。松山高級商業家事職業高校の生徒は、とても明るく元気ですごくパワフルでした。テストマーケティングを共に行った時は積極的に街の人に話しかけていたり、夜市を案内してくれる時は、はぐれないように気を使ってくれたり裏道などを教えてくれました。そんな、高校生と出会えたことは本当

に嬉しかったです。朝市、夜市などの観光では、たくさんの美味しいものを食べました。朝市では、有名な臭豆腐や揚げ物がありました。食材系が多い印象が残りました。夜市では、松山高級商業家事職業高校の生徒がオススメしてくれたものを食べました。どれも美味しく、1番を決められなかったです。

この台湾研修で、とても貴重な経験をする事が出来ました。この経験は一生忘れられないものになると思います。

台湾研修会に参加して【教員編】

青森県立青森商業高等学校

教諭 菊地 礼剛

今年度の台湾研修は、昨年度から2か年継続の県の事業『海外ビジネスチャレンジ』の一環として12月14日(木)から4泊5日の行程で実施された。目的は、『青森県をビジネスの観点から国際的に発信することのできる人財を育成する』ことであり、市場調査や青森県のPR活動、交流等を通して、青森県の魅力と異文化理解、主体性とチャレンジ精神・コミュニケーション能力の向上にまで繋げることができ、非常に密度の濃い研修であったように思う。

研修で印象に残っていることは、現地の商業高校生(松山家商)との交流である。生徒は日本語が通じない中、スマホを駆使しながら身振り手振りで交流を深め、現地のカフェにおいてテストマーケティングまでを行った。また企業視察では、貿易とお金、夢の実現に向けて熱く講義いただいた後、各校の開発商品をプレゼンし、商談におけるアドバイスを頂くことができた。

生徒は慣れない環境の中で我々以上に臨機応変に対応し、日を迫うごとに生徒の成長、可能性を感じることができた。生徒の成長を目の当たりにし、商業教育の無限の可能性を実感できたため、今回の学びを次世代の商業高校の学びへと繋げていきたい。

最後に、コーディネーターの外崎さんをはじめ、この研修会に携わっていただいた全ての方々に感謝申し上げます。謝謝!

青森県立青森商業高等学校

教諭 飯田 奈緒子

東集国際食品有限会社は、昨年度は本校で講演、今年度はオンラインでの商談、台湾祭に社長と社員4名が来日し終日生徒と一緒に販売活動をしてくださった企業で、笑顔の再会となりました。

最初に社長から貿易などビジネスについて例やクイズを用いた分かりやすい説明があり、最後は人生で大切なことを熱く語ってくださいました。その日のうちに生徒全員からLINEメッセージが寄せられ、「貿易、円高円安のことがよく分かった」「借金の有効性が分かった」などの感想の他に、「今が一番若いから今勉強するんだ!」「20代で80%の努力をしろ!」という言葉が心に響いたという感想が多く見られ、生徒の前向きな変化を感じました。

次に通訳を交えて開発商品の商談を実施しました。各班とも準備してきた内容を緊張しながらも熱意を持って伝えられており、いただいたアドバイスをもとに各班で話し合っレベルアップを図っていました。積極的に社長に話しかけ、時間いっぱい質問をする様子が見られました。

生徒が感銘を受け記憶に残る訪問となったこのような企業訪問を今後も実施したいと感じました。

台湾との友情は永遠に

青森県立青森商業高等学校

教諭 鈴木 有紀

私がこの研修で最も感慨深かったのは、台北市立松山高級商業家事職業学校との交流です。松山家商とは2018年から交流を始め、味の加久の屋さんの協力を得て、青森県産ほたてを使ったパスタソースの共同開発を行っています。コロナ禍が終わり、ようやく今年台湾へ行けました。

学校交流では、最初にこのパスタソースのパッケージをデザインしてくれた卒業生が来てくれて、当時の思い出を両校の生徒達に話してくれました。その卒業生達へ、記念に製品化したパスタソースをプレゼントしました。その際、プレゼンターである本校の生徒が、実は当時彼女たちと交流し、商品開発に携わっていた本校卒業生の妹でした。当時の写真を背景に3人が並んだ姿を見て、交流が繋がっていく姿に感慨深いものがありました。台湾の先生も「また新しい商品を出すならば、パッケージデザインを考えます」と話してくれたり、元日に大きな地震があった時にも「青森は大丈夫ですか？」と連絡をくれました。これまで築いてきたこの絆を大切に、これからも交流が続いて行くことを願います。

青森県立青森商業高等学校

臨時講師 榊 晃太

まず初めにこの研修に参加することができ、とても感謝しています。生徒はもちろん、私にとっても実りのある充実した日々を送ることができました。研修前に「台湾祭」や商談用の資料作成などで台湾をある程度知り、イメージしていきましたが、台湾という初めての場所では、想像していたものとは違い、何もかも新しく、とても新鮮だったのを覚えています。台湾のバスの中での王さんのお話から、徴兵制などの文化、日本とのかかわり等の台湾の歴史、天候、簡単に扱える言語などのたくさんのことを教えていただき、興味が湧き、それと同時に知識が身に付きました。生徒も興味を持ちながら聞き、台湾の言語を一生懸命口ずさんでいました。バスの中から見えた、原付バイクが多いことや信号機の待ち時間が表示されている等、日本と比較しながら違う景色を見ることに夢中になっていました。また、実際に朝市やコンビニ、スーパー、デパート、夜市の視察を行い、日本円について考えさせられました。台湾の通貨で商品を買うことに慣れたものの、日本円に換算すると、普段買っているものがこんなにするのかと痛感しました。グローバル化が進み、国際交流が激しくなっていく今後、金融など国際経済について改めて学ぶ必要があると実感しました。最後に、異文化の違いに触れ、視野が広がり、今後の教員生活に役立つことばかりでした。この経験を生徒に還元したいと思います。

青森県立弘前実業高等学校

教諭 長谷川 善弘

昨年同様、学びや気づきが多く、生徒の成長が感じられました。

国際ビジネスに興味・関心を持ち取り組んできた課題研究の検証を目的にしていました。異国での街頭インタビューでは、かなり苦勞していましたが、データ収集ができ、生徒たちは80%目的達成できたと自己評価しています。カレンダーをツールとした台湾の高校生との協力・交流活動は刺激的で、日本と異国の普通の違いを体感できたことで、異文化理解、言語力、チャレンジする勇氣・・・それぞれの必要性や重要性を気づききっかけになりました。また、海外に行くことで日本の良いコト・モノ・トコロにも気づくことができました。この経験が生徒たちのこれからの生かされるよう期待します。

私自身も市場、コンビニ、スーパー、夜市の市場調査から、円の弱さを実感しました。強い円の復活のためにも、今の私にできることは、商業教育の力で生徒を育てることに全力で取り組むことと確認できた研修となりました。

学校は違えど商業を学ぶ仲間と刺激し合い、台湾の高校生との輪が広がり、楽しく有意義な研修となったことに、弘実3名感謝の気持ちでいっぱいです。

青森県立八戸商業高等学校

教諭 天羽 英紀

台湾研修会12月14日(木)～18日(月)への参加に際し、現地での商談など準備をする段階で様子があり把握できず、上手く準備ができなかったことから不安の大きいスタートとなりました。学校訪問、エバリッチ有限会社での商談、街頭での市場調査と3つの活動の中で生徒達がどのように対応していくかがこの

研修会での大きな要素となっていました。本校の生徒は周囲とのコミュニケーションなどあまり積極的ではなく、少し時間がかかる様子が見受けられました。その中でも3名で協力し、なんとか乗り切ることができたように思います。コーディネイターの外崎様、引率教員方々の御指導もあり、それぞれが少しずつではあるが様子に変化し、成長させてもらえたように感じます。やはり言語が不自由な中で生活をする難しさ、その状況で自分たちは何ができるのかを考えさせられ、研修会の行程の中で気付かされることから多くを学んだと思います。大変貴重な経験をさせてもらいました。生徒達はこれからの進学先、就職先で是非この体験を活かして頑張ってもらいたいと思います。またこの事業に関わった皆様には大変お世話になりました。そしてこの貴重な機会を与えて下さったことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

青森県立三沢商業高等学校

教諭 浅水 伸之

私はこの研修を通して生徒達の可能性やたくましさを感じることができました。

松山高級商業家事職業学校では言葉が通じない中でも、翻訳ソフトやジャスチャー、片言の英語で必死にコミュニケーションを取ろうとする生徒の姿がありました。商社では各校の開発商品をプレゼンし、アドバイスをいただきながらビジネスを肌で感じる事ができたと思います。また街での商品のテストマーケティングでは地元高校生や他校の生徒と協力しての活動でしたが、なかなか足を止めてもらえず、苦勞しながらも生の声を聞くことができました。その後は電車に乗り、一緒に活動した地元高校生と夜市見学に行き、地元の文化や食事を満喫しました。

生徒達は夏の「台湾祭」や研修まで準備の中で、頭の中で台湾について様々なことを想像していたのではないのでしょうか。この研修に参加して実際に台湾の空気やにおいを感じ、台湾の人々や文化にふれ、経験することで成長し、台湾を感じる事ができたと思います。また、様々な学校の生徒達で構成された今回の研修団でしたが、目を追うごとにまるでずっと一緒に活動してきた仲間のように集団が成長していくというところも目の当たりにしました。これをきっかけに生徒達の交流も広がってほしいと思います。

この研修に参加し、生徒達の成長を目の当たりにし、今後も商業について学ぶ多くの生徒がこのような経験ができるような環境を整えてほしいと切に願います。

ちなみに私自身も初めての台湾でしたが、一番おいしかったのはねぎパンと台湾カステラでした。



1日目 台北桃園国際空港にて



2日目 松山高級商業家事職業学校にて



3日目 市場調査を終えて



5日目 外崎さんと引率団



エバリッチ社長からの講話



ネギパンを試食し「美味しい！」と歓声



先輩が開発したねぶた工作キットの商談



御礼に社員の方々へ披露したねぶた囃子

【特別寄稿】

令和4年度長期企業等派遣研修報告

青森県立八戸商業高等学校 教諭 下田 幸大

弘前実業高等学校在籍時の令和4年度、八戸商工会議所で1年間の長期研修を行った。研修中は、データ入力や文書作成、封入・封緘作業等の事務作業に従事した。会議所の外に出て行う業務は少なかったが、八戸地区雇用対策協議会という会議に参加する機会があった。この協議会は、八戸地区内事業所における労働力の確保と定着化を図るため、雇用や地元就職促進に向けた事業を行う団体であり、近年の採用状況や早期離職防止への取り組みについて情報交換が行われた。

近年、多くの事業所が新規高卒就職者の早期離職に悩まされているようである。離職理由は、人間関係や仕事内容によるものなど多様であるが、新型コロナウイルス感染防止のため、以前のような手厚い新入社員研修ができなくなったことや、社員同士の交流する機会が減少していることも影響しているのではないかと分析する事業所も少なくなかった。多くの事業所が、人手不足を喫緊の課題と捉えており、早期離職防止・定着率向上を図るために様々な対策を講じている。

新規高卒就職者の早期離職に対するマイナス評価が多かった一方で「新卒採用は育成に時間がかかるが、新しい視点や考え方が入ってくるメリットは大きい」「長期的な視点で、切れ目なく定期的に新卒者を採用しなければ、技術継承ができなくなる恐れがある」といった声も聞くことができた。事業所側の採用意欲は高く、従業員のモチベーションの維持・向上や風通しの良い職場環境づくりに力を入れている。学校側としては、就業体験の実施や企業説明会、職場見学への参加を促すなど、生徒の職業に対する理解を深めていくことが重要であると感じた。

研修を通して、相手のことを理解し相手の視点で考え、より良い方向に向かうために手だてを講じて最大限の支援をしていく姿勢は、企業も学校も共通していると学ぶことができた。また、些細なことでも情報共有を図りながら協力して業務を遂行する場面が多々見られたことから、円滑なチーム活動に必要なコミュニケーションの大切さを感じた。学校教育の場でもコミュニケーションは重視しているが、「日常生活や学校行事での人間関係」「ボランティア活動での地域社会との関係」などを通し、コミュニケーション能力を高めるための働きかけを行っていく必要がある。日頃から学校生活の様々な場面で卒業後の社会を意識させながら、社会人としての基礎を育てていくことが重要であると考えた。

生徒や保護者、教員間、地域社会との繋がりを大切にし、コミュニケーションの先にある相手を思いやる気持ちを持ちながら、研修で学んだことを今後の指導に生かしていきたい。

1 全体発表

【マーケティング・マネジメント分野研究委員会】

今だけ ここだけ あなただけ

～ ビジネスを通して地域経済の発展を担う人財育成を目指して ～

発表者 青森県立弘前実業高等学校 教諭 長谷川 善 弘
教諭 西 舘 大 輔

1 はじめに

平成29年度に弘前市より観光に関する科目を実施し、観光に関する人財の育成をしてほしいという依頼があった。また、本県が抱える課題のひとつとして人口減少、人口流出の問題が挙げられる。地域からの要望があったように、地域に目を向けさせ、地域の魅力に気づかせることで本県の課題がクリアできるのではないかと、本校では令和3年度から科目『観光ビジネス』を先行実施している。平成30年7月に告示された高等学校学習指導要領における科目『観光ビジネス』の目標を踏まえ、観光教育を通して生徒に何を学ばせ、何を身に付けさせたいかなどを精査し授業に取り組んだ。また、観光教育で生徒に何を気づかせることができるのか紆余曲折しながら取り組んだ2年間の授業内容と、生徒の変容についてまとめる。

2 研究仮説

本校で実施する科目『観光ビジネス』について、生徒が生まれ育った地元・地域に対する誇りを持たせ、持続可能な地域の魅力を創造・発信できる人財を育成することを目的として授業を進めることにした。さらに、科目『観光ビジネス』を導入することにより、地域の良さを発見し魅力を感じることで、課題発見能力や問題解決力を身に付けることができるのではないかと、さらに、地域の魅力を宣伝する人財の育成や観光関係人口の増加に繋がるのではないかとという仮説を立て、「今だけ ここだけ あなただけ」をキーワードにして授業に取り組んだ。

地域の産業に求められる人財の育成や、地域と連携した体験学習で地元への愛着を育むこと、学校の特色となるような科目を目指し授業に取り組んだ。

3 本校生徒の実態

本校での科目『観光ビジネス』の位置づけは、第3学年における選択科目2単位として設置している。履修した生徒に『観光ビジネス』を選択した理由を尋ねてみると、将来接客業やサービス業に就きたいと考えているので興味があり選択したという選択者がいる一方で、高度な会計分野や情報分野に不安を感じている生徒が『観光ビジネス』を選択している実情もある。『観光ビジネス』を選択できるのは、商業科及び情報処理科のみである。また、選択条件は特に定めていない。

4 令和3年度の取り組み

生徒たちに、商業の見方・考え方をさせて、観光に関する理解を深めさせていくために、「地域を知る」、「観光を知る」、「観光ビジネスを知る」の3つに分けて授業を展開し、最終的には生徒が「観光ビジネスを創造する」年間指導計画を立てた。

(1) 地域を知る 《1学期》

授業を始めてすぐに、弘前市の魅力を上げるよう生徒に聞いてみると、「りんご」、「岩木山」、「ねぷた」

という回答で終わってしまう。このような状況から、生徒自身が住んでいる地域の見聞を広げるために、ご当地検定のひとつである津軽ひろさき検定の参考書「ひろさき読解本（よみとくほん）」や「津軽ひろさき・おべさま年表」を活用し、生徒の知識量を増やした。この学習を通して、弘前市の歴史や文化、人々の暮らしなどといった、知っているようで知らない知識を身に付けさせた。

《指導上のキーワード》

- ・地域の価値に気づく
- ・地域に目を向けさせる

《指導して見えてきた課題》

体験や経験をさせる代替方法の確立

インターネットを活用し、動画や写真等を活用して知識は身に付けさせることができても、時間的な制約と新型コロナウイルス感染症の影響によって校外での活動ができなかった。代替する「モノ・コト・トコロ」を体験・経験をさせる方法を見つけなければならない。

(2) 観光を知る

前述したとおり、地元のことを理解させることができた。次のステップは、観光に対する知識を身に付けさせることである。一口に観光と言っても、多岐にわたることから「地域主体の観光事業」にスポットを当てて授業展開をした。

《指導上のキーワード》

- ・観光の価値に気づく
- ・観光がもつ魅力や可能性

この箇所については、時間をかけて指導した。その理由として、生徒はテーマパークが観光地であると認識している現状があったからだ。観光地＝箱モノでなければならないという固定概念を覆すために、観光産業や観光事業の分類をしっかりと生徒に学ばせた。ここでは、広く自然やその街の景観すらも観光になると指導した。

(3) 観光ビジネスを知る 《2学期》

1学期は、地域を知ることで地域の価値に気づき、観光を知ることで観光の価値に気づかせることにフォーカスを当てた。観光ビジネスを知るために、他県で成功している観光ビジネスの事例を取り上げた。また、何かと何かを掛け合わせることで新しい価値を生み出すことにも着目させながら授業を進めた。さらに、観光に関する新聞記事やコラムを参考にして指導に当たった。

《指導上のキーワード》

- ・観光ビジネスの価値に気づく
- ・地域経済を刺激（正当な価格）

(4) 観光ビジネスを創造する

これまでの“3つの知る”を基にし、生徒に新たな観光ビジネスを創造させた。

《指導上のキーワード》

- ・地域資源の活用
- ・価値の創造

実際に生徒が考えた観光ビジネスプランテーマは、季節ごとのスタンプラリー、廃校を活用したレストラン、地元にある神社に着目した鬼神伝説といったものであった。生徒に企画の説明をさせたところ、生徒自身にマーケティングの知識が乏しく、商業の見方・考え方が感じられず、差別化やターゲット層の明確化、4C（消費者側の視点）、4P（企業側の視点）などの専門的な指導の必要性を実感した。

《指導して見えてきた課題》

- ・単位数の問題

2単位だけでは、十分な指導ができない。

- ・選択科目であるために、クラス単位での校外学習ができない
インプットした知識をアウトプットする時間、場所、場がない。
机上の空論となってしまう、生徒にリアルさを実感させられない。
- ・マーケティングの知識が足りない
本校のカリキュラム上、マーケティングが選択科目となっているために起こっている弊害。

(5) 1年間の学びの振り返り 《3学期》

1年間の学びを振り返り、本科目を通して得たこと、学んだことについてグループディスカッションをさせた後、それぞれに感想を書かせた。ちなみに、履修した生徒の進路については、11名中8名（進学：4名、就職：4名）が地元に残る結果となった。特筆すべきは、市・町役場や観光バス会社への就職者がいたことである。生徒と対話形式で感想を聞いてみると、正直、最初は何をやっているのか分からなかったことや、選択して間違ったかもという感想があった。その一方で、地域のことをたくさん考えるきっかけになったこと、普段何気なく街を歩いたりする時に色々な所に目にするようになったこと、観光のみならず様々なことに繋がりそうな考えを得られたことなどの意見があった。なお、令和3年度、指導して見えてきた課題は以下のとおりである。

- ・体験や経験をさせる代替方法の確立
- ・2単位では、ビジネスを考えさせる時間がなく、校外学習や実践が十分にできない。
- ・学習してきた知識やアイデアを披露する場がない。
- ・マーケティング分野における、商業の見方や考え方を育成させる教育課程の見直し。
- ・マーケティング分野の知識がない、足りない。

5 令和4年度の取り組み

(1) 令和3年度の反省を生かす

- ・2単位では、ビジネスを考えさせる時間がなく、校外学習や実践が十分にできない。
→ 令和3年度は、「観光ビジネスを創造する」に割く時間が十分に確保できなかった。このことから、『観光ビジネス』でインプットした知識を活用し、課題研究2単位でアウトプットさせる体制を整えた。

観光ビジネスの価値に気づかせるためには、生徒を取り巻く多様な立場の方からの声や思いを知ること大切である。また、地域経済を刺激するためには、正当な価格を知ること重要となってくる。生徒に価格設定のことを尋ねると、マーケティング知識の不足を感じる。どのような経費がかかっているのか、企画を実現させるためにはどのくらいの人件費がかかるのかを目の当たりにさせることで、金銭的な感覚が掴めると感じている。コロナ禍では実施することができなかった関係部署への聞き取り調査も徐々にではあるができるようになってきた。どの業種においても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていることを、生徒自身が肌で感じ取る機会があった。アフターコロナを見据えたアイデア創出の場となったことは非常に大きいものだった。

- ・学習してきた知識やアイデアを披露する場がない。
→ オンラインの特性を活用し、県外の高校生とのイベントを開催
教育を取り巻くオンライン環境が浸透していく中、この時代の流れに対応できる生徒を育てていきたいことから次のような企画を立てた。

【お国自慢バトル】

- ・観光に関するお題を出し、お互いがこれまでの学びを発信し合う。
- ・この授業を通して、お互いに刺激し合い、さらなる学びを高めていく活動を企画。
- ・オンラインの特性を生かし、遠く離れた高校とやり取りが可能。

- ・7月中旬に岡山県にある岡山県立倉敷商業高等学校と実施する予定であったが、両校の日程がどうしても合わずに断念。夏休み等の長期休業の活用も考えたが、生徒の日程が合わなかった。
- ・マーケティング分野における、商業の見方や考え方を育成させる教育課程の見直し。
 - 令和4年度入学生より、マーケティングを全員履修とした
- ・マーケティング分野の知識がない、足りない。
 - 模範解答がない、自由な発想を引き出す授業づくり

(2) 生徒の観光視点を増やすための教材具体例

- (ア) 日経MJの活用
- (イ) 周年行事(例:鉄道開業150周年)
- (ウ) 街ナカ、駅ナカ
- (エ) 地域広報誌
- (オ) 統計情報

(3) 科目横断的カリキュラム編成の必要性

これまでの授業から、消費者の視点からいかに提供者側の視点にしていくか、ありふれた日常や景色から別の見方をさせる難しさを経験した。科目『観光ビジネス』だけを単体で実施するにはやはり限界があると感じている。他のマーケティング分野科目である『マーケティング』や『商品開発と流通』にとどまらず、『簿記』や『情報処理』などといった他分野科目との連携を図り、生徒に深い学びをさせるためには、授業内で数多くの仕掛けを工夫していく必要があると感じている。また、教育課程についても時代の流れを汲みながら柔軟な運用をしていかなければならない。

6 仮説検証結果

「科目『観光ビジネス』を導入することにより、地域の良さを発見し魅力を感じることで、課題発見能力や問題解決力を身に付けることができるのではないか」、「地域の魅力を宣伝する人財の育成や観光関係人口の増加に繋がるのではないか」という仮説を立て研究をしてきた。令和4年度も1年間の学びを振り返り、本科目を通して得たこと、学んだことについてグループディスカッションをさせた後、それぞれに感想を書かせた。なお、履修した生徒の進路については、14名中8名(進学:7名、就職:1名)が地元に残る結果となった。さらに、県外進学の1名は、観光学について学ぶ短期大学へ進学した。

質問1 『観光ビジネス』を通じて学んだこと

- ・多角的な視点から見る力を身に付けることが重要ということを学びました。
- ・観光は人が集まるだけでは利益が出ないということ。
- ・観光は自分が思っているより幅広く多くの業界に関わっていることや、商品開発で普段では中々考えない買い手側だけでなく売り手側のことも考えてターゲットを決めたり、ペルソナで具体的なターゲットを仮定することで、よりどんな人がこの商品を必要としているのかを深く考えたり今までの自分では考えもしないことに気がつくようになった。
- ・観光では人を集めるだけではなく、一人あたりに使ってもらってお金を増やすことがより重要だと知ることができました。また、買い手側や売り手側などさまざまな視点から物事を捉えることや今までになかった新しいものを作り出すには情報収集だったり、ターゲットを詳細に設定したりすることが大切だと気づくことができました。
- ・今までは買う側・消費者として商品などを見ていたけど作る側・提供する側のことも考えるようになってすごく大変だということを感じた。
- ・現代は素晴らしいものが沢山あるが歴史のあるものに勝るものなしということ。

質問2 『観光ビジネス』を通じて、あなた自身が成長したと思うこと

- ・この授業を受ける前までは人を呼び寄せるために、新しいものを他の観光地にあるものをマネして作ったりするのがいいと考えていましたが、それは良くなって元々あるものをより良くしていくのがいいという考えになり、そこが成長したと感じました。
- ・今まで人の意見を聞いているだけだったけど、自分の意見もどんどん言えたこと。
- ・他の地域が観光についてどのような対策をとっているのかを知り、青森には何が足りないのか青森をアピールするためには青森のどこを活かして推していくべきなのかを考えたりしていく中で青森の魅力を再発見する事ができた。
- ・「こういうデータがあるからこうしたらいいのではないかな」などの説得力を強めるために、一つのことに対してたくさん調べるようになったと思います。
- ・情報をまとめる力が身についたことです。実際に人に聞きに行ったり得た情報やインターネットで調べた情報など矛盾が無いか、どういう順番で情報を伝えるか考えられるようになったことです。
- ・様々なものを知ろうと思えるようになりました。今までは、知るということに常に面倒くささが付随していて、積極的に世の中の情報を手に入れようとは思えませんでした。しかし本科目を通し、無理をしない範囲で様々なものを知ることが、人生の幸福度や豊かさに関係してくるのではと考えることが出来ました。
- ・青森はりんごだけでなく観光資源がたくさんあると知った。りんごから美容に良い成分がとれることや、白神山地から乳酸菌が摂れるなど色々な活用ができることを知りました。津軽のことについて少しだけ詳しくなれたと思います。

質問3 『観光ビジネス』の全体感想

- ・最初は「観光」というワードが目に入り、単純な理由でこの授業を選択しましたが、今ではこの授業を選択して良かったと思っています。商業科は簿記や電卓、情報処理などのイメージがありましたが観光ビジネスのような考え方や発見を重視し、実際に電話でアポをとり取材に行くような体験することで学べる授業は少ないと個人的に思っているのでとてもいい経験になりました。この授業で学んだ考え方や発見を今後に生かしていきたいと思っています。
- ・新しいものを生み出すことは想像していたよりも難しかったけれど、班のみんなで意見を出し合ったり、自分達で情報収集したりしながら最後の発表までたどり着くことができて良かったです。学んだことを無駄にしないように、生活していきたいです。
- ・もしも観光ビジネス以外を選択していたらここまで成長する事は無かったと思うので観光ビジネスを選んで良かったです。これからは色々な視点を持っている人が重宝されるという事でもっと訓練して意識しなくても色々な視点で見られるようになりたいと思いました。
- ・本科目を通し、大きな失敗を経験することが出来ました。この失敗から、自分の弱さを認め、何が足りないのかを明確にすることができ、非常に貴重な体験ができたと思います。ありがとうございました。
- ・この授業を選択してよかったなと思います。様々な視点に立って物事を考えることは大事なことで知ることができました。いろんな視点に立ってみることで新しい発見が生まれ、楽しい気持ちになったりするなと思いました。また、今まで青森は何もなくてつまらないところだと思っていました。しかし、青森について調べ、先生から聞いたことで、青森はたくさん良いところがあると知り、青森が好きになりました。

上記のアンケート結果から、生徒の身近なところから新たな発見や再発見、地元の良さを実感しただけにとどまらず、青森を好きになったという結果となった。『観光ビジネス』だけではなく、『課題研究』の取り

組みや研究内容を見ても、研究仮説として設定した、科目『観光ビジネス』を導入することにより、地域の良さを発見し魅力を感じることで課題発見能力や問題解決力を身に付けることができたと推察される。

しかし、地域の魅力を宣伝する人財の育成や観光関係人口の増加に繋がるという仮説の検証には、まだ時間を要する。引き続き、生徒が生まれ育った地元・地域に対する誇り、地域への貢献意欲の醸成を図り、持続可能な地域の魅力を創造・発信できる人財を育成することを念頭に置きながら、日々移り変わる社会に対応した指導に取り組みたい。

7 まとめ

新型コロナウイルス感染症の真っ只中で始まった本研究だが、誰も経験したことのないアフターコロナを見据えながら生徒とともに科目『観光ビジネス』と向き合ってきた。2年間の研究を振り返ると、生徒自身が住んでいる地域の事を知らない、魅力が挙げられない現状があった。そこで、地域を知る、観光を知る、観光ビジネスを知る、観光ビジネスを創造するという一連の流れで授業を展開してきた。目の前で起こっている事象に対し、どのようにアプローチをすればよいのか、学び得た知識を総動員させて新たな価値の創造は生徒にとって難しいものであったと思う。また、本校内部で変えられることは年度ごとに改善もしてきた。

本校では、科目『観光ビジネス』を指導する上で、「今だけ ここだけ あなただけ」を念頭に置いて取り組んできた。令和6年度から教科書等が整備され本格化する科目『観光ビジネス』について、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を育んでいくためにも、学校間や科目担当者を問わず、情報共有を図りながらこれからも研鑽に励みたい。

【総合的科目研究委員会】

「グローバルビジネスに対応する人財育成への取り組み
～青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業を通して～」

発表者	青森県立青森商業高等学校	教諭	高橋 恭一
	青森県立青森商業高等学校	教諭	鈴木 有紀
司会者	青森県立八戸商業高等学校	教諭	岩藤 充宏
記録者	青森県立八戸商業高等学校	教諭	鈴木 瞳

1 はじめに

本校は、明治35（1902）年、冒険家、経世家として名高い第2代青森市長・笹森儀助翁が「青森の発展には商業の振興が必要、そのためには人材育成が急務」と資材を投じ青森市に私立青森商業補習夜学校として設立されたのが始まりである。綱領である「進取明朗 和衷協同 節度謙譲」のもと、時代に適応した商業教育を通して地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う人財育成に努め、明治・大正・昭和・平成・令和と校名を変え、昨年度120周年を迎えた。

2 研究理由

本校の現状として、課題研究で地域の活性化の調査・研究を行っていたが、青森県内だけという狭い範囲内でのビジネス展開の学びに偏りがちであり、その結果、生徒はグローバルな視点での持続的なビジネスを展開する力を身に付けられずにいると推測した。グローバル社会に対応し、地域産業など経済社会の持続的な発展を担う職業人の育成および世界にチャレンジする意欲を持つ人財の育成が課題であると感じた。

そこで、平成30年度（2018年度）から笹森儀助基金活用事業「AOMORIと世界をビジネスで繋ぐ高校生チャレンジ（台湾編）」と題して、台北市立松山高級商業家事職業学校と協働学習を通して、パートナーの共同開発に挑戦してきていること。その事業を引き継ぐ形で令和4年度から庁内ベンチャー事業である「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」がスタートし、この事業を実施することにより、次世代の生徒に輸出入や流通ビジネスの知識・技術を身に付けさせ、持続的な職業人の育成に努めるとともに、グローバルな視点を持った生徒が県内に定着し、青森県の資源を活用した新たなビジネスモデルを構築し、地域経済の発展に寄与する人財を育成するために有効であると考え、本主題を設定した。なぜ台湾だったのかと言うと、本校の創始者である笹森儀助が冒険で台湾を訪れたこと、本校の校歌の一節に思いは四海に遠くも馳せん、これにインスパイアされた本校卒業生である教員が台湾の高校と協働学習するようになったことからである。

3 研究内容

研究目標は、課題研究において、台北市立松山高級商業家事職業学校との協働学習を通して生徒に輸出入や流通ビジネスの知識・技術を身に付けさせ、グローバルな視点を持った生徒が県内に定着し、青森県の資源を活用した新たなビジネスモデルを構築し、地域経済の発展に寄与する人財を育成することである。

研究仮説は、①海外の高校生との協働学習やビジネスに携わる大人とのビジネス実践を実施することにより、輸出入や流通ビジネスの知識・技術を身に付ける。②グローバルな視点を持ち、本県の資源を活用した新たなビジネスにチャレンジする。以上2つの能力が育成されると仮定した。

4 研究実践

令和4年度は、商業高校ビジネスプロジェクトというテーマで実施した。青森商業高校を中心とした県内の県立商業高校と連携するため、テーマに商業高校と付けている。青森商業高校ではグローバル人財育成ワー

キンググループを設置して、学校全体で取り組む体制を構築した。このワーキンググループでは、年間計画、協働学習に参加する生徒の募集・選考方法、研修会の内容・予算等について検討した。研修会に参加する生徒の自己負担をいくらにするのか、予算調達の面で苦労したが、英語科の先生の協力のもと、オンライン交流も行うことができた。他に、輸出入に係る基本的な知識、市場調査やデータ活用の技術等を身に付けるため、グローバルビジネスの専門知識を持っている外部講師を招き、出前授業・講演会を実施した。出前授業・講演会の様子を録画し、県内の県立商業高校へ教材提供した。提供した録画データは、3回分まとめてからDVDに収録して郵送していたため、本校と他の商業高校との時間的な隔たりがあり、視聴する時間も長くなるという欠点から、今年度は、いつでもどこでも視聴できるYouTubeで配信した。次に、流通ビジネスの知識・技術を身に付けるためにビジネスに携わる大人との実践を行った。まず、パスタソースの商談である。令和4年5月13日のイオン東北とのオンライン商談会を皮切りに、青森市内13の小売店と商談を実施した。3学年商業科課題研究台湾班の生徒たちが実際に企業の方々と対面して商品の特徴や良さをPRすることによって、ビジネスの厳しさ、面白さを体験することができた。多くの企業から生徒たちが商談に臨む姿勢やパスタソースの完成度を高く評価していただいた。株式会社味の加久の屋の協力を得て、商品名「たんげめえ、びみじゃんじゃん」ペペロンチーノ味が完成した。商品名の「美味醬醬」とは、凄く美味しいという意味である。令和4年7月8日よりイオン青森他、青森市内を中心に県内27の小売店で販売させていただいた。多くの小売店による取り扱いが実現したのは、生徒たちが熱意ある商談を行った成果であり、商談を重ねるたびに、商品の魅力をより上手に伝えられるようになり成長が感じられた。令和4年7月9日から8月下旬にかけて青森市内のパスタソース取扱小売店で、3学年商業科課題研究台湾班の生徒たちを中心に、販売実習を実施し、10月の本校創立120周年記念青商同窓会懇親会、全国産業教育フェア青森大会においても販売実習を行った。新型コロナウイルス感染拡大の状況下で試食が実施できない中、台湾の高校との共同開発商品ということに興味をもっていただき、大変好調な売れ行きであった。台湾研修会は実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大が終息せず実施することができず、代替として、令和4年12月14日から17日の4日間、青森商業高校生徒20名・教員4名、弘前実業高校生徒2名・教員1名、三沢商業高校生徒2名・教員1名、コーディネーター1名の参加で、東京研修会を実施した。商談、販売実習に向けて、密度の濃いミーティングや情報発信能力を身に付けるために具体的な表現で食レポミッションなど多様な研修を通して、克服できた課題、残された課題等の様々な気づきや感銘を受けたことにより、生徒の視野が広がったと感じた。令和4年11月22日、令和5年2月20日の2回、5年前から商品開発で連携している台北市立松山高級商業家事職業学校とオンライン会議を実施した。台湾の生徒はパスタソースの試食で、5種類の麺を使いアレンジ方法などについて意見を提示し、今後の商談に役立つものであった。しかし、依頼していた台湾企業向けの盛り付け例の画像を添えた販売促進用のPOPが、目的に沿ったデザインではなく、依頼したことを通訳の方を通して再度確認し、新しいPOPを作成してもらった。改めて、海外の人とビジネスをする際、意図を正確に伝えることの難しさを知ることとなった。

令和5年度は、海外ビジネスチャレンジというテーマで実施しており、昨年に引き続き、県内の県立商業高校と連携したビジネスプロジェクトの協働実践となっている。

- ① 輸出入の実務についての知識を身に付ける。
- ② 県立商業高校と「生徒実行委員会」の編成による連携体制を構築する。
- ③ 輸出に関する基本的な知識等、現地視察での実践内容や気づきを他の商業高校へ普及・共有する。
- ④ 共有した情報や令和4年度開催の産業教育フェアの経験を活かして、販売実践や台湾でのミニ産業教育フェアの内容を検討する。

以上のことを目的に実践を進めている。

7月28日、29日には日本での販売実践「台湾祭」を行った。金銭トラブルを防ぐため、異国感を演出するため、「タイニャンドル」という仮想通貨で商品を購入してもらうこととした。ポスターとランタンを黒石高校情報デザイン科の生徒に作成してもらった。当日は青森市長も来場し激励していただいた。各校非常に積極的に活動し、黒石高校が制作したランタンは黒石小学校へ出向きランタンの絵付け指導したのも飾られた。

生徒同士刺激し合うと繋がりが生まれ、学校の枠を超えて販売を助ける様子も見られた。ビジネスは繋がりが大事であることを自然に学んだと考えている。今後は、12月17日に台湾での販売実践を予定しており、台北市立松山高級商業家事職業学校との協働学習も予定している。

5 研究考察

令和4年4月20日の感想では「失敗を怖がらずどんどんチャレンジしたいと思いました。」「Your experience will not betray you」という言葉を聞いて努力することも大事だが、何よりも経験しなければ何も始まらない。」などでした。12月では「輸出入にはそれぞれたくさんの書類が必要なこと、輸出することはできても相手国で受け取ってもらえないというリスクがあることなど初めて知ることがたくさんあった。」という感想等、他の生徒の感想からもグローバルな視点が身につけていることが分かり、半年で大きな変化があると実感している。他にも輸出入や流通ビジネスに関する感想や、グローバルな視点に関しての気づきを得て新たなビジネスにチャレンジしようとする感想が目についた。よって、「輸出入や流通ビジネスの知識・技術を身に付ける」、「グローバルな視点を持ち、本県の資源を活用した新たなビジネスにチャレンジする」の2つの能力が育成されたと推察される。

6 まとめ

グローバルな視点の内容の研究に取り組む場合、調べ学習や座学になりがちであるが、ビジネスに携わる大人との商談や貿易に関わる企業の講演、東京研修会等を通して、日本のニーズと台湾のニーズの違いや自分たちの改善点を知ることができ、次へつながる貴重な体験をしたことにより、生徒たちは自らより深く学習する姿勢を身に付けることができた。このことは、持続的な職業人の基礎となりグローバルな視点を持って、本県の資源を活用した新たなビジネスモデルを構築し、地域経済の発展に寄与する人財になってくれると信じている。また、この事業を通して、高校生の秘めた力を見ることができ、改めて高校生が活躍できる場が必要であると感じた。

今後は、学習指導要領「課題研究」の目標を踏まえ、商業の見方・考え方を身に付けさせ、実践的・体験的な学習活動を行うことで、自ら学び考える力とビジネスを展開する力を養い、地域の経済や産業を継続的に発展させる人財を育成できるよう指導方法の改善や研究を進めていきたい。

AI化が進んで働く場所が無くなってくると言われているが、AIにはアイデアの想像や起業家になる力はない。生徒にはアイデアの想像や起業する力を身に付けさせることができると考える。未来を生き抜くために、我々も生徒自身が地域の財産であることを自覚し、生徒に商業科目を学んだ意義を理解させ、地域が求める資質・能力を身に付けられるようにすることが大事である。

2 分科会発表

【マーケティング・マネジメント経済分野研究委員会】

第1分科会 第1部 全体発表の補足説明・質疑応答

第2部 ワークショップ（マーケティングの視点から観光ビジネスに触れる）

発表者	青森県立弘前実業高等学校	教諭	長谷川 善 弘
		教諭	西 舘 大 輔
司会者	青森県立三沢商業高等学校	教諭	浅 水 伸 之
記録者	青森県立七戸高等学校	教諭	鍋 倉 哲 章

第1部

全体発表の補足説明・質疑応答

質疑①

この2年間で新型コロナウイルス感染症による観光業界全体のダメージがかなり大きかったが、授業で触れる機会があったか。

回答

観光業を含むサービス業に就職し、大ダメージを受けた場合、そのまま潰れていくのを待つのか、そうではなく何かできることを考えようというような問いかけをしながら授業を進めていたことが回答された。

また、観光ビジネスについては、観光業界のプロ育成の観点よりも観光の視点を生徒に与えることで商業の学びとリンクされ、地域活性化できる力の育成という観点で捉えていたことが話された。授業では、星野リゾート社長が取り入れた企画を事例として取り上げたことが話された。

質疑②

弘前市役所のどの課から依頼されたのか。依頼があった後、どのような観光教育をしようと考えたのか。

回答

平成29年度は勤務しておらず、その当時のやり取りについては不明である。当時の弘前市役所から本校校長に観光に関わる教育をしてもらえないだろうかという依頼があったようである。当時の教科主任が、私が異動してきたことや新学習指導要領に観光ビジネスが掲載されたことを受けて、実現可能性が高まったと考え、先行実施する流れになったと推測されるとの説明があった。

質疑③

校外学習を実施したかったようであるが、どのような校外学習を実施しようとしてイメージしていたのか。

回答

校外学習は、生徒に自由に散策させるイメージであり、散策する中で何か気づいてほしいという意図があった。こちらが意図的に仕掛けるということではなかった。学校周辺を散策させることはできたが、例えば、弘前公園など少し離れた場所への移動は時間的な制約もあり実施できなかった。

本校では、選択科目で実施していることもあり複数の教科・科目が絡むため、授業変更での対応は難しい。もし自由に散策できるのであれば、自分たちが知らない場所へ行き、新たな気づきを求めさせていたとの回答があった。

質疑④

お国自慢バトルについて、今後実施する可能性があるのか。

回答

お国自慢バトルを実施しようと考えた理由は、県外の方と話す機会が限られているためとのことであった。岡山県の学校は、観光を学んでいる高校生がおり、地域学習などをおしてガイドをしている学校である。その学校に通う生徒とやり取りすることで、本校生徒が刺激を受けると考えた。

令和3年にオンライン学校訪問を実施したが、令和4年度に相手校の担当者が異動になった。令和4年度の担当者ともオンラインでやり取りをしたが、次の担当者も日常業務多忙であった。お互いの授業時間帯を合わせることが難しく、夏季休業中の活動も考えたが、中国地方と東北地方では休業時期が違っていたため実施には至らなかった。今後については、様々な課題を克服できれば、お国自慢バトルを実施したい気持ちは大いにある旨の説明がなされた。

他県の学校でも観光について情報共有したいような様子が伺えており、全国の先進的な取り組みを実施している学校もあると考えられる。情報共有する機会は今後増えてくると考えているとの回答であった。

質疑⑤

今後の授業の進め方について。

回答

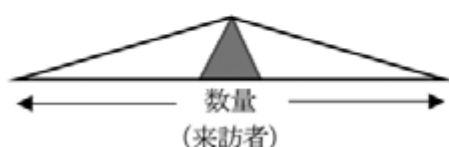
これまで学校設定科目で対応していたため、独自の教材資料で対応してきた。今後は、教科書が発行されたので、教科書を使用して授業展開をする旨が説明された。特殊な科目であるため、担当者変更になった時に教材研究等で負担増になることが懸念されるためとの回答もあった。ただし、必要な場合は補足資料として、これまでの資料を利用することも話された。

質疑⑥

P 7 指導上のキーワードで、【地域経済を刺激（正当な価格）】の詳細について。

回答（図示による説明）

図1 値段

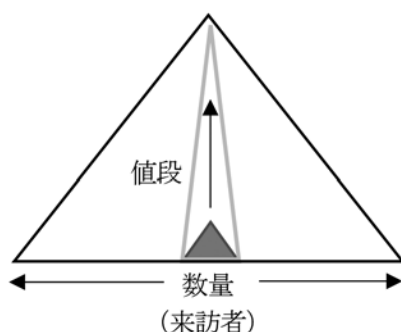


【図1の説明】

来訪者が増えれば、数量が増える。

ねぶたに何万人来訪、台湾祭に7千人来訪という数量だけでは、経済的には刺激が少ないという考え方である。

図2



【図2の説明】

数量に捉われない考え方である。【ここだけ・あなただけ】という価値を生み出す考え方である。ここしかないとなれば、価値が生まれ、値段に捉われなくなる。伝統工芸品などは手間暇がかかるため、高価になるが、生徒の感覚であれば、値段が安くなければ売れないという思考になる。

個人の価値観の違いであるが、値段が高くても購入することが多々ある。これを【正当な価格】と表現した。授業では、正当な価格設定により、観光で数量が増えれば、三角形の大きさがどんどん大きくなり、地域経済は刺激を受けるという説明をした。(2017年日本経済新聞参考)

コロナ禍以前にインバウンドの検証を実施していた。価値に目を向けて正当な価格で販売することの有用性を示していた。

質疑⑦

地域経済の捉え方とは、どこまでの範囲で捉えているか。

回答

教科書にも記載してあると思うが、その都市だけで観光が完結することではなく、都市を含めた地域での観光が取り上げられている。DMOと名称されている。弘前管内もその考え方で進めている旨の説明があった。

質疑⑧

P13にある「他科目との連動性の確保」は非常に難しい課題であると考えられますが具体的にどのように連動していくのか。また、他教科との連携も考えているのか。

回答

観光ビジネスに限らず、どの科目の授業でも他科目との連携が必要になること、一例として地域の魅力発信のためには、情報系の科目の知識・技術が必要になるなど、他科目連携は欠かせないものであることが回答された。

家庭科学科で、知的財産や商品開発などの分野に関わる授業を行う際には、商業科教員や講師派遣等で合同授業などの対応が可能なのではないかと紹介された。

質疑⑨

P13 全体感想の中で、「大きな失敗を・・・」とあるが、どのような失敗をしたのか。

回答

グループで活動していたが、うまくまとめることができず、発表も出来なかった生徒の感想である。学習成果として発表する機会を設けていたが、発表できなかった。賢すぎたために考えすぎてしまったことが要因であるとの回答であった。

質疑⑩

学習評価について。

回答

現在は、学校設定科目として設定されている。今回までの学習評価は参考にならないと考えていたため資料に掲載していない。新学習指導要領の3観点があるため、今後はこの3観点をもとに評価することになるとの説明がなされた。

質疑⑩

マーケティングの知識の必要性について。

回答

私は、価値を生み出すことがマーケティングであると考えている。そのためには、科学的なデータ・資料をもとに思考することが必要となるが、生徒は活用できない。発想や視点は与えられるが、ビジネスにしよう、実物を作成してみようとなると上手く活用できない場面が多々あった。データや資料を活用せず、生徒の感覚だけで短絡的な思考になることが多くあり、マーケティングの考え方をを用いる場面がなかった。

新学習指導要領においても、マーケティング分野として観光ビジネスが設定されていると考えている。この視点からもマーケティングの必要性を認識しているとの回答であった。

質疑応答終了

第2部 ワークショップ

「マーケティングの視点から観光ビジネスに触れる」

【目的】

観光ビジネスは、マーケティング分野の上位科目と位置付けられ、マーケティングの考え方を踏まえてビジネスを展開する力の育成に資する科目であると考えられる。次年度より開講される科目であり、各校教員も授業展開への不安感もあると想定されたため、今回の実習を企画した。

【内容】

実習：もしあなたが地域の観光マーケティング戦略の立案担当になったら

実習資料：実教出版発行 観光ビジネス P88～91

【手順】

1 セグメンテーション

顧客を具体的に絞り込むため、セグメンテーションを行う。「性別」「年代」などの人口動態変数で分け、「都市規模」「交通アクセス」などの地理的変数を検討し、「趣味」「価値観」などの心理的変数を用いて、市場を細分化する作業を行う。

2 ターゲティング

セグメンテーションで用いた変数を使い、ターゲットを設定する。セグメント方針として一つに絞る「集中型」と複数とする「差別型」のいずれかを選択し、具体的なターゲットを設定する。ターゲットに有効なセグメントであるかを検討するため、「測定可能性」「利益可能性」「到達可能性」「実行可能性」の4つの観点で有効性を確認する。

3 ポジショニング

ターゲットに地域の観光地をイメージしてもらうためのポジショニングを行う。ポジショニングマップを用いて、イメージの軸を決定する。競合地域を挙げる。ポジショニングマップで自地域と競合地域の位置取りを検討する。競合地域と差別化できる「空き地」を見つける。



4 地域にふさわしいペルソナを設定する（ペルソナマーケティング）

上記1～3の手順で設定したターゲットをより具体化した「架空の人物像」を設定する作業である。ペルソナを設定することで、より具体的な観光動機や観光行動を想定し、観光商品や企画開発などに活

かすことができる。条件としては、実際に地域を訪れる観光客のデータを活用する（根拠）ことであり、個人の想像（イメージ）ではないということが求められる。



【まとめ】

参加者を4グループに分けて、各勤務校の地域資源を発見し、対象（ペルソナ）を設定することを目標としてワークショップを開催した。各班にファシリテーターとして専門委員を配置した。30分程度の時間設定であったため、班ごとに進捗度が違い、設定した段階までの発表を行った。

観光ビジネスは、観光の視点を持ち、地域資源の活用ができる生徒の育成に資する科目と位置付けられる。ビジネス基礎、マーケティングと年度ごとに専門性を高めながら、観光ビジネスに取り組むことで体系的な学びが実現される。今回の実習をとおして、授業展開のイメージをつかむことができたと考えられ、有用な機会となった。

【会計分野研究委員会】

第2分科会 「全商検定の変更点及び簿記会計科目の評価について」

司会者	青森県立大湊高等学校	教諭	藤田 匡 寿
発表者	青森県立八戸商業高等学校	教諭	田中 純 恵
	青森県立三沢商業高等学校	教諭	棟方 明日香
	青森県立六ヶ所高等学校	教諭	清水 舞 子
記録者	青森県立青森商業高等学校	教諭	吉岡 香 織
	青森県立三沢商業高等学校	教諭	村上 啓 子

1 学習指導要領改訂に伴う全商簿記検定の変更点について

(1) 改訂スケジュール

	令和4年度		令和5年度		令和6年度
	第94回	第95回	第96回	第97回	第98回
	R4.6	R5.1	R5.6	R6.1	R6.6
3級	※旧検定	新検定	新検定	新検定	新検定
2級	旧検定	新検定	新検定	新検定	新検定
1級	旧検定	旧検定	旧検定	新検定	新検定

(2) 3級について

①目標

令和4年3月12日付 公益財団法人全国商業高等学校協会 簿記研究部

「学習指導要領改訂にともなう検定試験の出題内容の変更について」より抜粋

- 複式簿記による記録・計算、整理を行い、資産、負債、純資産、収益、費用の基本的な概念及び貸借対照表と損益計算書の役割、構造を理解する。
- 取引の仕訳から勘定の記入を経て、決算に至る簿記一巡の手続きができる。
▷教科書の範囲（実教出版 高校簿記）p204までの内容が出題

②削除項目と追加論点

【削除項目】

繰越試算表

【移動項目3級から2級へ】

手形に関する論点（受取・振出・引受・支払・裏書・割引）

有価証券に関する論点（売買目的有価証券）

【追加項目】

会計ソフトウェアの活用

固定資産に関する論点（売却）

税金に関する論点

（所得税・住民税・固定資産税・事業税・印紙税・消費税・法人税）

帳簿に関する論点（受取手形記入帳・支払手形記入帳）

追加元入れ、引き出し

現金過不足の処理

当座借越契約

③出題形式

1 仕訳（4問）

- 2 入金伝票・出金伝票・振替伝票の起票（2問）
- 3 帳簿記入
 - ・仕訳帳の作成（取引12問程度、証票3問程度）
 - ・総勘定元帳への転記
 - ・売掛金（買掛金）元帳記入と締切
 - ・試算表の作成 ※合計試算表（96回）残高試算表（95回）
- 4 会計用語（英語表記含む）と計算
- 5 決算の問題
 - ・決算整理事項（3つ）
 - ・勘定の記入と締切
 - ・P/LとB/Sの作成

(3) 2級について

①目標

令和4年3月12日付 公益財団法人全国商業高等学校協会 簿記研究部

「学習指導要領改訂にともなう検定試験の出題内容の変更について」より抜粋

- 学習指導要領（及び同解説）の「簿記」の目標に準ずる。
 - ▷目標の（1）に関する部分であり、知識と技術を身につけさせることを目標としている。
- 株式会社の設立・開業、剰余金の処分、税金に関する記帳処理ができる
 - ▷第95回からは⑥で出題されている

②削除項目と追加論点

【削除項目】

社債に関する論点

【追加項目】

スライド6の3級移動項目
 クレジット取引
 電子記録債権・債務
 当期純損益の計上
 消耗品の処理

③出題形式

- 1 仕訳の問題（3問）
- 2 計算や用語（英語表記含む）、本支店に関する問題
- 3 伝票
 - ・仕訳集計表の作成と勘定記入
- 4 帳簿組織
 - ・総勘定元帳と補助簿の記入
- 5 決算の問題
 - ・B/SまたはP/Lの作成
- 6 株式会社の問題
 - ・95回、96回とも仕訳で出題

(4) 1級（会計）について

①目標

令和4年3月12日付 公益財団法人全国商業高等学校協会 簿記研究部

「学習指導要領改訂にともなう検定試験の出題内容の変更について」より抜粋

- 学習指導要領（及び同解説）の「財務会計Ⅰ」の目標に準ずる。

▷目標の（１）に関する部分であり、知識と技術を身につけさせることを目標としている。

②削除項目と追加論点

【削除項目】

割賦販売（回収基準、販売基準）
試用販売
未着商品売買
連結財務諸表の作成
委託販売（委託者側の処理）

【追加論点】

銀行勘定調整表の作成
税効果会計に関する会計処理
サービス業会計
外貨建換算会計
工事契約
税効果を含む処理〔決算〕
契約資産・契約負債
リース取引における利息の計算〔決算〕
リース会計（借り手の処理）
外貨建金銭債権の評価〔決算〕
課税所得の計算

③サンプル問題参考

- 1 会計に関する語句の問題
（従来の選択問題4つに英語表記の選択問題が2つ追加）
- 2 銀行勘定調整表、連結財務諸表の数字の穴埋め、財務諸表分析
- 3 決算の問題（追加論点も含みます）
- 4 仕訳（7問、追加論点も含みます）

※1の中に出てくる英語表記の問題については後程詳しく説明する。

※2で作表問題が増えたのに対して、3の決算の問題と4の仕訳のボリュームが減っていないため、問題量としては少し多めかと予想される。

（5）1級（原価計算）について

①目標

令和4年3月12日付 公益財団法人全国商業高等学校協会 簿記研究部

「学習指導要領改訂ともなう検定試験の出題内容の変更について」より抜粋

- 学習指導要領（及び同解説）の「原価計算」の目標に準ずる。

▷目標の（１）に関する部分であり、知識と技術を身につけさせることを目標としている。

②削除項目と追加論点

【削除項目】

特になし

【追加論点】

標準原価計算におけるシングルプラン

③サンプル問題

- 1 計算問題
- 2 総合原価計算
- 3 個別原価計算の一連の流れ
- 4 仕訳（5問）

※1計算問題が若干数増えているが、2総合原価計算と3個別原価計算の一連の流れのボリュームは変わっていない。

※4仕訳は1問減となっているため、全体のボリュームとしては変わらないのではないかと予想される。

(6) 2級・3級に出題されている英語表記について

学習指導要領より抜粋

基本的な会計用語については、英語表記に慣れ親しむことができるように留意して指導する（簿記、財務会計Ⅰ・Ⅱに共通）

教科書に記載されている英語表記

- ①簿記（実教出版 商業708）には43語
- ②財務会計Ⅰ（TAC出版 商業731）には68語
- ③財務会計Ⅱ（実教出版 商業742）には38語

(7) 95回・96回で出題された英語表記について

①3級

企業は経営活動をおこなうため、現金・商品・建物・備品などの財貨や、後日、一定金額を受け取る権利である売掛金・貸付金などの債権をもっている。このような企業の経営活動に必要な財貨や債権を資産といい、英語では（ ）という。

1. Liabilities 2. Assets 3. Net Assets

②2級

商品有高帳の記帳にあたり払出単価の計算について先入先出法を採用しているときに、物価が上昇し商品の仕入価格が高くなってくると、商品有高帳に記載される商品の次月繰越高は移動平均法を採用しているときと比べ大きくなる。

問 下線部を英語表記にした場合に当てはまる語を選びなさい。

1. balance sheet
2. moving average method
3. first-in first-out method

③1級会計のプレ問題に掲載されている英語表記

- 次の財務諸表に関する用語の英語表記を、下記の語群の中から選び、その番号を記入しなさい。

ア. 流動資産 イ. のれん

1. long-term debt 2. cost of goods sold 3. goodwill
4. interest expense 5. depreciation 6. current assets

- 次の会計基準を表す、もっとも適切なものを下記の語群から選び、その番号を記入しなさい。

ア. 国際財務報告基準

1. IFRS 2. IASB 3. ASBJ 4. IASC 5. ROE

【出題方針と審査基準について】

令和4年度に実施されました第94回、第95回の全商簿記実務検定試験の出題方針と審査基準、また全国の先生方からいただきましたご意見・ご要望につきましてご説明いたします。なお、いただいたご意見やご要望につきましては、基本的に原文どおりに掲載しておりますのでご了承ください。

① 出題の方針について

全商簿記実務検定は、日頃の学習の成果を測定するという面を持っており、学習指導要領に示された内容にしたがい学習していれば、ある程度の目標が達成できるようにという観点で作問しております。また、下位級については奨励級として位置づけ、基礎・基本に重点を置くことを踏まえながらも、次学年での学習につながるよう、一部ですが思考力を問う出題をいたしました。さらに、上位級については、上位級としての基本的な出題をしつつ、可能な限り新鮮みある問題を取り入れ、思考力・判断力を問う出題を心掛けました。

(1) 出題の範囲

出題の範囲については、現行の学習指導要領にもとづいて作成された「出題範囲表」にしたがい、一部に漏りが出ないよう配慮しながら、全般にわたって出題いたしました。

2. 3級に関しては94回については平成21年告示の学習指導要領に基づいて作成し、95回検定については平成30年告示の学習指導要領に基づいて作成しました。

(2) 出題の資料

教科書および過去に出題した全商簿記実務検定ならびに全国簿記教育研究協議会でのご意見を考慮し、作問の資料といたしました。また、新しい会計基準に関する最新文献・論文等も参考といたしました。

なお、全国から4名の道府県代表作問委員にご参加いただき、どのような問題を出題するか決定する「アイデア会議」をおこない、全体の骨組みを決定し、専門委員および道府県代表作問委員で各級を分担して作問しております。

《3級》

3級については、簿記の基礎・基本を対象としているので、簿記の基礎原理・仕訳・元帳記入・補助簿記入・伝票の起票・計算と用語の問題・決算など全分野にわたり出題いたしました。

出題の形式については、①は仕訳の問題、②は伝票の起票、③は帳簿記入、④は計算・用語の問題、⑤は決算の問題としました。奨励級として、基礎・基本を重視しながらも、一部、思考力を問う問題としました。

94回④⑤は仕訳帳と合計計算表の出題としました。⑤は決算整理仕訳から給料確定の記入・締め切りおよび損益計算書と貸借対照表の完成させる問題としました。

95回⑤新しい学習指導要領に基づいて出題しました。⑤は決算整理仕訳から備品確定と水道光熱費確定の記入・締め切りおよび損益計算書と貸借対照表の完成させる問題としました。

《2級》

2級については、94回に関して①は仕訳の問題、②は帳簿組織、③は伝票と計算問題等、④は決算の問題としました。95回に関しては新しい学習指導要領に基づいて作成し、①は仕訳の問題、②は計算や用語、本支店に関する問題、③は伝票、④は帳簿組織、⑤は決算の問題、⑥は株式会社の問題としました。

94回③(1)の本支店会計に関する問題は、12月30日における元帳確定残高と12月31日の本支店の取引から支店確定残高と本店確定残高の一致額と本支店合併後の当期純利益を求める問題としました。③(3)は資料から売上原価と期首の売掛金を求める問題としました。④は取引

【出題方針と審査基準について】

令和4年度に実施されました第94回、第95回の全商簿記実務検定試験の出題方針と審査基準、また全国の先生方からいただきましたご意見・ご要望につきましてご説明いたします。なお、いただいたご意見やご要望につきましては、基本的に原文どおりに掲載しておりますのでご了承ください。

① 出題の方針について

全商簿記実務検定は、日頃の学習の成果を測定するという面を持っており、学習指導要領に示された内容にしたがい学習していれば、ある程度の目標が達成できるようにという観点で作問しております。また、下位級については奨励級として位置づけ、基礎・基本に重点を置くことを踏まえながらも、次学年での学習につながるよう、一部ですが思考力を問う出題をいたしました。さらに、上位級については、上位級としての基本的な出題をしつつ、可能な限り新鮮みある問題を取り入れ、思考力・判断力を問う出題を心掛けました。

(1) 出題の範囲

出題の範囲については、現行の学習指導要領にもとづいて作成された「出題範囲表」にしたがい、一部に漏りが出ないよう配慮しながら、全般にわたって出題いたしました。

2. 3級に関しては94回については平成21年告示の学習指導要領に基づいて作成し、95回検定については平成30年告示の学習指導要領に基づいて作成しました。

(2) 出題の資料

教科書および過去に出題した全商簿記実務検定ならびに全国簿記教育研究協議会でのご意見を考慮し、作問の資料といたしました。また、新しい会計基準に関する最新文献・論文等も参考といたしました。

なお、全国から4名の道府県代表作問委員にご参加いただき、どのような問題を出題するか決定する「アイデア会議」をおこない、全体の骨組みを決定し、専門委員および道府県代表作問委員で各級を分担して作問しております。

《3級》

3級については、簿記の基礎・基本を対象としているので、簿記の基礎原理・仕訳・元帳記入・補助簿記入・伝票の起票・計算と用語の問題・決算など全分野にわたり出題いたしました。

出題の形式については、①は仕訳の問題、②は伝票の起票、③は帳簿記入、④は計算・用語の問題、⑤は決算の問題としました。奨励級として、基礎・基本を重視しながらも、一部、思考力を問う問題としました。

94回④⑤は仕訳帳と合計計算表の出題としました。⑤は決算整理仕訳から給料確定の記入・締め切りおよび損益計算書と貸借対照表の完成させる問題としました。

95回⑤新しい学習指導要領に基づいて出題しました。⑤は決算整理仕訳から備品確定と水道光熱費確定の記入・締め切りおよび損益計算書と貸借対照表の完成させる問題としました。

《2級》

2級については、94回に関して①は仕訳の問題、②は帳簿組織、③は伝票と計算問題等、④は決算の問題としました。95回に関しては新しい学習指導要領に基づいて作成し、①は仕訳の問題、②は計算や用語、本支店に関する問題、③は伝票、④は帳簿組織、⑤は決算の問題、⑥は株式会社の問題としました。

94回③(1)の本支店会計に関する問題は、12月30日における元帳確定残高と12月31日の本支店の取引から支店確定残高と本店確定残高の一致額と本支店合併後の当期純利益を求める問題としました。③(3)は資料から売上原価と期首の売掛金を求める問題としました。④は取引

全商簿記実務検定は、日頃の学習の成果を測定するという面を持っており、学習指導要領に示された内容にしたがい学習していれば、ある程度の目標が達成できるようにという観点で作問しております。また、下位級については奨励級として位置づけ、基礎・基本に重点を置くことを踏まえながらも、次学年での学習につながるよう、一部ですが思考力を問う出題をいたしました。さらに、上位級については、上位級としての基本的な出題をしつつ、可能な限り新鮮みある問題を取り入れ、思考力・判断力を問う出題を心掛けました。

《3級》

3級については、簿記の基礎・基本を対象としているので、簿記の基礎原理・仕訳・元帳記入・補助簿記入・伝票の起票・計算と用語の問題・決算など全分野にわたり出題いたしました。出題の形式については、1は仕訳の問題、2は伝票の起票、3は帳簿記入、4は計算・用語の問題、5は決算の問題としました。奨励級として、基礎・基本を重視しながらも、一部、思考力を問う問題としました。

2 会計分野の評価に関する内容について（グループ協議）

A班	松居 司 先生	青森商業高等学校	B班	飯田 奈緒子 先生	青森商業高等学校
	阿部 義光 先生	弘前実業高等学校		櫻田 篤 先生	三沢商業高等学校
	村上 啓子 先生	三沢商業高等学校		鈴木 佑 先生	黒石高等学校
	山下 恭平 先生	五所川原商業高等学校		横田 祐美 先生	五所川原商業高等学校
C班	吉岡 香織 先生	青森商業高等学校	D班	小野 公太郎 先生	青森商業高等学校
	寺沢 太一 先生	三沢商業高等学校		石澤 加津子 先生	三沢商業高等学校
	藤田 匡寿 先生	大湊高等学校		工藤 勝平 先生	大湊高等学校
	佐藤 勉子 先生	八戸商業高等学校		根城 寿 先生	八戸商業高等学校
E班	佐藤 雅哉 先生	青森商業高等学校			
	中村 礼奈 先生	三沢商業高等学校			
	太田 美千之 先生	六ヶ所高等学校			
	佐々木 郁子 先生	八戸商業高等学校			

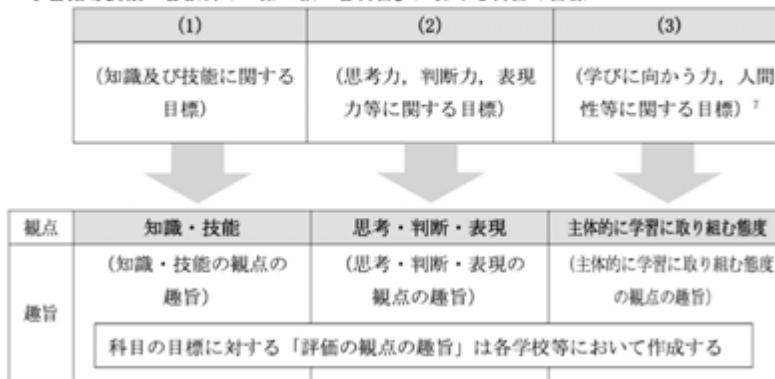
資料：評価の観点について

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より
各学科に共通する各教科における評価規準の作成及び評価の実施等について

図6

【学習指導要領「科目の目標」】

学習指導要領 各教科の「第2款 各科目」における科目の目標



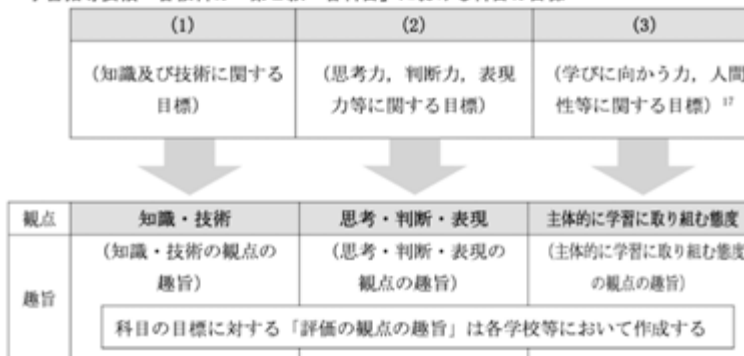
資料：評価の観点について

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より
主として専門学科（職業教育を主とする専門学科）において開設される各教科における評価規準の作成及び評価の実施等について

図8

【学習指導要領「科目の目標」】

学習指導要領 各教科の「第2款 各科目」における科目の目標



(1) 会計分野 (単元名 現金と預金) の評価に関する内容について (グループ協議)

現金出納帳の記帳法について、理論と実務とを関連付けて理解するとともに、現金出納帳の記帳技術を実身に身に付けることをねらいとしている。そこで、ワークシートを活用し、現金出納帳の記帳法について、訂正箇所と訂正理由を記述させることとした。さらに、月末時点の現金の帳簿残高を求めさせることにより、現金の正確な取引と記帳を理解しているかを見取っている。実際の答案を見て、A評価に導くための指導法を協議する。

- 指導法について協議する
 - ・ 答案は3つあります。
 - ・ 協議時間15分程度です。
 - ・ 協議内容はワークシートに記入してください。
- 協議内容を発表する
 - ・ 1班2分程度で協議内容を発表してください。

答案1 : B評価

(2) 上記取引を正確に行った場合、1月末日現在の帳簿残高はいくらか答えなさい。

(1)

訂正箇所	訂正理由
18月 支出 30,000	商品の仕入は現金ではなく買掛金だから。
25日 収入 20,000	郵便為替証券も現金となるから。

(2)

558,800	円
---------	---

答案2 : C評価

(2) 上記取引を正確に行った場合、1月末日現在の帳簿残高はいくらか答えなさい。

(1)

訂正箇所	訂正理由
15日 支出 30,000円	仕入は借方に書くので、貸方に書くのはおかしいから。

(2)

円

答案3 : ?評価

(2) 上記取引を正確に行った場合、1月末日現在の帳簿残高はいくらか答えなさい。

(1)

訂正箇所	訂正理由
1/2 高山商店から 商品仕入れ 30,000	まだ現金ではないから
1/25 高山商店へ 現金15万円 45,000	郵便為替証券も現金となるから

(2)

558,800	円
---------	---

- ①A班：答案1は、ほぼAの評価でもよいのではないかと。Aに近いBなのではないか。実務に照らし合わせて訂正理由が書ければもっと良い。意味は分かっている。言い回しを変えるとAの評価に近づくのではないかと。答案2は、そもそも現金勘定について理解できていないため、復習が必要である。理由のところは、現金と全く関係ないため、Aに持っていくことは厳しいがBに持っていくことに重点をおいて指導が必要である。答案3は、Bの評価でよいのではないかと。訂正理由のところは、まだ、現金ではないからと書いているが、ほぼ意味は分かっている。ただ、言葉足らずであり、現金の支出にはなっていないからとすればよいのではないかと。訂正箇所は二つ目、訂正箇所は20,000円というところは、40,000円ではなく20,000円という意見が出た。意味自体は分かっていると考える。
- ②B班：答案1の評価をBとするのであれば、答案3も評価Bが妥当なのではないかということで結論付けた。答案1は評価Bだが、A評価に導くためにはどうすればよいか話をしたが、指導する教員側の方でA評価に導くために何かアプローチをした方がよいのではないかと。例えば、問題の訂正箇所の解答欄をわかりやすく変えてみる。答案3の評価がBだが、相手に伝わる文章にする。例えば、まだ現金ではないと書いているが、この仕訳の意図は分かっている、理解しているというふうに推測されるため、相手に伝わる文章にするために、みんなでグループ討議し、伝わる文章にしてA評価に導いていくとよいのではないかと。答案2評価Cは、仕訳がそもそもできていないのが読み取れるため、まずは現金出納帳の仕組み、書き方などを再確認し、次に現金として扱うものを再確認し、全て一つずつ分解し生徒にわかりやすく伝えて指導していくことで次の評価に上がっていく。それでもだめなら、昼休み補習も考え、そこまで組み込んで底上げをしていけばよいのではないかと。実務として考えたときに、実際の企業は残高と実際有高を最後合わせて確認することも含めて、生徒に気付かせ摘要欄の記入の仕方を間違えにくくするように、教員側でアプローチや表現をしていけば、このようなミスがなくなるのではないかと考えた。
- ③C班：答案1はA。AとBの評価の境界線が「実務に関連付けて理解している」かどうかだが、では実務とは何かということだと思ふ。この現金出納帳の範囲からいうと実務とは何かは見いだせなかったが、答案1は理解できている。18日「商品の仕入れは買掛金だから現金という処理ではない」と読むことができる、更に訂正箇所も間違っていない。25日「郵便為替証書も現金となる」これも「簿記上」という言葉があるかないかというのは、1年生の表現のつたなさだからこれから指導していけばいいのではないかと。思うため、答案1についてはAではないかと思う。次に答案1をAと考えると答案3はBでも十分ではないかと思う。18日の訂正理由「まだ現金ではない」という表現だが、これも考え方によっては、買掛金はいずれ現金流出につながるものであり、まだ現金流出はできていないのでこの処理になるのだとなると、かえってこちらの方が実務に即していると捉えることもできる。Aでもよいのではないかと考えることもできるが、表現がつかないでB。答案2はかなり表現がつかない。何もなくてすべて文章で書かせるのではなく、() をうまく使い、言葉を単語で入れさせながら表現させていくことを積み重ねていくことが必要だと思ふ。
- ④D班：答案1と答案3はB。訂正箇所はしっかり理解できている。訂正理由を見ると、どちらも、掛けの仕入れで現金出納帳に書くものではないからということ、しっかり言葉として表現しきれていないため、Bの評価になると考える。答案2の評価Cについては、そもそも現金出納帳に書く書かないというところがまだ理解できておらず、まず知識・技術がたりないので、その部分を教える指導が必要。答案1・3は仕訳はできると思うが、それを自分の言葉で表現できるのかということところが足りない部分である。授業の中でそれを説明する機会を与えることや、グループワークで考えさせる時間を与えることが必要になってくる。検定で点数を取るだけでなくしっかりと簿記の中身を理解させるためにはそのようなことが必要なのではないかと考える。

⑤E班：評価AとBの違いが「実務に関連付けて理解している」かどうかのため、実務に即しているかどうかを読み取るしかない。これで実務に即しているかを読み取るのは難しいが、日々の取引は仕訳して転記するという流れであり、これをおさえているかどうか。問1の現金出納帳の残高欄が省略されているが、省略すると日々の取引の転記の流れが把握できず、模範解答の「現金実際有高が30,000円多い」の気づきに気づけないのではないかと。よって、表を作成するための問題というよりは、仕訳がありすべての表につながっていることを理解していることを求めたいのであれば答案1はB。Aにするためには、問題の尋ね方をAになれる生徒がAになれるように問うということも大事だと思う。答案3は、知識・技術は身につけているだろうが、実務に即した記載がないのでB。CをAまでいきなり引き上げることは難しいため、先にBの生徒達をAまで指導して引き上げ、グループワークでAの生徒をちりばめ、AとCの生徒が同じグループになるよう編成し、AがCをBまで引き上げるようなグループワークをし、それでも足りなければ、教員が指導すると良いと考える。

⑥発表者：この3つの答案でも考え方が様々あり、各学校の生徒の状況に応じて評価規準は設定すると思う。この取り組み内容をもとにして、各学校で評価の際は役立ててほしい。

(2) 定期考査などで、思考・判断・表現を評価するための問題を協議して作成する。

●問題作成と評価規準を協議する

- ・科目は簿記とします。
- ・時間は20分程度です。
- ・模造紙は自由に使ってください。
- ・余裕があれば評価の例なども記載してください。

●作成した問題を共有する

- ・1班3分程度で協議内容等を発表してください。

①A班：帳簿作成は知識・技術であるため、思考・判断・表現だけを見るとなると、例えば、日商の中によく出てくる補助簿の選択が入るのではないかと。定期考査で出題すると全部に○を書いたりする生徒もいると思うが、該当するところだけに入れるなどの注意書きを入れて、出題するのもいいのではないかと。

②B班：思考・判断・表現を評価するための問題として、例として、固定資産の問題を出した。問1として、減価償却費の定率法と定額法の計算をさせる。問2として、定率法と定額法の特徴を答えさせる。これは知識・技術に分類されるのではないかと考え、その上で問3は、定率法と定額法に適している固定資産の勘定科目ではなく、具体例、例えばパソコンなどあてはまるものと理由を答えさせる問題を出す。これは思考・判断・表現を図る問題になるのではないかと。評価の方法としては、Bの場合は、固定資産の場合は、具体例を挙げられて、理由が理論的であるか。Aの場合は、具体例を挙げられて、理由が特徴と関連付けられるか、Cの場合は、具体例を挙げられない。この問題は耐用年数が5年となっているが、耐用年数が5年だったら固定資産として適切ではないと考えるので、問題としての年数は改善していく必要がある。

③C班：定期考査で思考力・判断力・表現力を評価する問題というのは、定期考査の性質上、難しいと思っているので出題しない。定期考査では知識技術を見るところでとどめておくべきと思う。なぜかというところと新学習指導要領では、思考力・判断力・表現力が定義され、その「処理・記帳法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応している」力。そのような力・妥当性・課題はグループワークや授業の中で意見交換をして気づきながら、身につけていくものだと思う。そのために、問いとしては「現金に関する不正を防ぐためにはどのようにすればよいか」は出しやすい。複数人によるダブルチェックという答えが出てくれば十分だと思う。次に、「仕訳帳から総勘定元帳へ転記する時になぜ元丁欄や仕丁欄にページ数を記入するのか答えなさい」という問い。また、貸倒引当金は簿記会計の中でまだ

起きていないのに費用計上・負債計上する。通常簿記指導というのは、事象が起きてからそれを記録・計算すると指導するにもかかわらず、これだけがまだ起きていないのに先に計上する。でもこれは実務における課題で、いくら計上していいのか、一般原則で保守主義の原則があるのでそれが根拠となって妥当なのだとこのところまで導き出せる話し合いをしていくことが、まさに適した教材だと思う。今回、思考力・判断力・表現力の評価で、妥当性と実務における課題というところで非常に難しくなっているので、単純に考查では出題できないと思う。

- ④D班：定期考查で思考力・判断力・表現力を評価する問題は出題しない。表現力を評価するのは難しい。「次の仕訳となるような取引を連想し、問題文を作成しなさい。ただし、以下の語句をすべて使用すること。」という問い。途中経過をつつづくことは授業の中で考えさせてできるが、それを評価するのは、先生方によって見方が分かれ、ある程度はできると思うが表現を点数にすることは難しい。しかし、指導と評価は一体化するべきで何らかの形でやるべきだと思う。
- ⑤E班：思考力・判断力・表現力を見とる上で、やはり記述で見とるべきだろうという意見が出た。知識・技術を踏まえたうえでどう思考・表現しているかを見とりたい。そのために訂正仕訳が良いのではないか。その仕訳の形を知識としっかりとおさえ、間違いを直す、表現ととらえると良いのではないか。教科書では最後の方（決算Ⅲ）に出てくるが、決算の最初の方で教えればどの単元の仕訳をやってもこれをやれば表現は見とれるのではないか。定期考查で出題するならばそのような形しかないと思う。記述で出題すると、各クラスの指導方法によって生徒の記述に差が生まれるのではないかとということで、記述で定期考查に出題することは難しいのではないか。また、費用収益を勉強した後に、先日8月9日に実施した会計の研修で小島先生が出してくれていた財務分析の資料について金額の増減を見て考える、簡単すぎるかもしれないが、そういうものも思考・判断・表現になるのではないか。減価償却は費用だが現金支出しないというところから、少し学習内容を戻り、費用とはどんなものかと問いかけることもよいのではないか。

3 アンケートについて

アンケートへのご協力をお願いします。→ <https://forms.gle/ubJ96CiRZdgtELFFA>



【ビジネス情報分野研究委員会】

第3分科会 「大学入学共通テストに向けた情報提供」

発表者	青森県総合学校教育センター産業教育課	指導主事	新 堂 満 香
司会者	青 森 県 立 三 沢 商 業 高 等 学 校	教 諭	榊 祥 吾
記録者	青 森 県 立 三 沢 商 業 高 等 学 校	教 諭	山 田 真 菜

1 はじめに

令和4年度入学生が3年生になる2025年の令和7年度入試から「情報」が大学入学共通テスト（以下、共通テストとする）に導入される。その内容は、令和4年度入学生より必履修科目となった「情報Ⅰ」から出題される。商業科での共通テスト「情報」の取扱いについては所属校によって捉え方が違い、実際に合格を目指して受験で使う場合、これまでのように総合型選抜や指定校推薦を経て、大学合格後に受験するというような場合が考えられる。このような状況を踏まえ、共通テスト「情報」について、さらに「情報Ⅰ」の代替科目としての「情報処理」の指導についてどのような対応をしていかなければならないのか、学校事情や現在の各校の取り組みについて共有しながら考えていくことが必要である。

2 大学入学共通テストについて

(1) 大学入学共通テストの概要

大学入学共通テストは、大学入試センターと各大学とが協力して行う共通試験である。例年1月中旬に、1日目が文系科目、2日目に理系科目という2日間日程で行われている。令和3年から大学入学共通テストと名称変更されたが、大学入試センター試験の時から引き続き、情報に関する科目として専門学科の生徒が受験することを想定した「情報関係基礎」が数学②の枠で実施されている。今回の改訂により「情報」が出題されることに伴い、現行の「情報関係基礎」は経過措置問題「旧情報関係基礎」を経て廃止される。これまで実施されていた「簿記・会計」についても同様の流れで廃止されることが決定している。

(2) 共通テスト「情報」について

共通テスト「情報」は、2025年の令和7年度入試から実施され、令和4年度入学生から履修している必履修科目「情報Ⅰ」から出題、試験時間は60分で行われる。過年度生に対しては、経過措置問題として「旧情報」が用意されており、旧科目である「社会と情報」・「情報の科学」に対応した必答問題2問と、それぞれの科目に対応した選択問題4問の計6問で構成されている。インターネットに接続する家電、ChatGPT、AI予測など、ここ数年で非常に身近な技術となっており、このような社会の変化を前向きに捉え、身の回りや社会の問題の発見や解決に向けて、情報の科学的な見方・考え方を育成する科目として高等学校に必履修科目「情報Ⅰ」が設置されたこと、また、大学においては特に「データ」を重視し、「数理・データサイエンス・AI」をデジタル時代の「読み・書き・そろばん」として、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する流れとなっている。このような流れを踏まえ、高等学校教育・大学教育を連携しつつ、社会で必要な情報に関する資質・能力を育成していくために、大学教育を受けるために必要な基礎的な能力として「情報」が新設された。

(3) 問題の方向性について

共通テスト「情報」は、平成30年3月告示の高等学校学習指導要領「情報Ⅰ」において育成を目指す資質・能力を重視した問題となっている。探究的な活動、情報社会と人との関わり、情報の科学的な理解、問題の発見・解決に向けて考察する力などを問う方向性で検討され、試作問題が作成されている。プログラミングの問題については、公平性を担保し、初見でも理解しやすいとされる大学入試センター独自の言語であるDNCLが使用される。また、「旧情報」については、平成21年3月告示の高等学校学習指導要領に基づき、試作問題では、情報や情報技術が発達している役割や影響、活用するための知識と技能、

情報に関する科学的な見方・考え方を重視しつつ、「情報Ⅰ」と同じように、問題解決的な視点から考察する力を問うよう作成されている。現行の教育課程を履修している生徒が受験する場合は、「情報Ⅰ」で受験するが、過年度生が受験する場合は、「情報Ⅰ」と「旧情報」から選択できる。もし、「旧情報」を受験する場合には、先に触れたように選択問題への対応として、受験前にあらかじめ「情報の科学」・「社会と情報」のいずれかを決めておく必要がある。商業科のように専門科目で代替している場合には、どちらの科目で代替していたのかを生徒に伝えておかなければならない。

(4) 試作問題の大問構成

①②③④は、試作問題「情報Ⅰ」と「旧情報(仮)」で共通した問題となっている部分。()内は配点。

「情報Ⅰ」		「旧情報(仮)」	
第1問 (20)	問1 ① 問2 問3 問4	第1問 (35)	A (20) 問1 ① 問2 問3 問4 B (15) ②
第2問 (30)	A (15) ② B (15) ③	第2問 (15)	③ (「情報の科学」履修者向け)
第3問 (25)	プログラミング	第3問 (15)	(「社会と情報」履修者向け)
第4問 (25)	④	第4問 (25)	
第5問 (25)		第5問 (25)	④ (「情報の科学」履修者向け)
第6問 (25)	データ活用	第6問 (25)	(「社会と情報」履修者向け)

左図は、「情報Ⅰ」と「旧情報」の大問構成を比較したものである(出典：独立行政法人大学入試センター)。「情報Ⅰ」は第1問から第4問まで必答、「旧情報」は第1問と第4問が共通問題で必答で、第2問、第3問のいずれか、第5問、第6問のいずれかを選択し、計4問を解答する。グレーアウトしている部分は「情報Ⅰ」と「旧情報」で共通した問題となっていることを示している。

「情報Ⅰ」の第1問は4つの領域「(1) 情報社会の問題解決」「(2) コミュニケーションと情報デザイン」「(3) コンピュータとプログラミング」

「(4) 情報通信ネットワークとデータの活用」のそれぞれの内容を踏まえた独立した4つの小問による出題である。第2問は主に「(1) 情報社会の問題解決」「(2) コミュニケーションと情報デザイン」「(3) コンピュータとプログラミング」の領域を融合させた独立した2問となっている。第3問は主に「(3) コンピュータとプログラミング」の領域を踏まえ、DNCLを用いたプログラミングの問題である。ここではアルゴリズムとプログラミングの基本に関する理解を基に、示された要件を踏まえたプログラムを論理的に考察できるかを問う。プログラミングを学習した旧課程「情報の科学」履修者は、こちらの問題を選択することになる。第4問は「(4) 情報通信ネットワークとデータの活用」の問題である。データの活用と分析に関する基本的な知識から、最終的に結果を考察するところまでが問われている。試作問題では、箱ひげ図や散布図などが取り扱われているため、授業で触れていないと解答することができない。用語や知識を問う問題だけではなく、知識の活用から思考、判断、表現までを求める非常に高度な問題となっていることがわかる。

「旧情報」の試作問題は、情報機器や情報通信ネットワーク、情報セキュリティに関する知識と関連付けて、実践的な情報通信ネットワークに係る課題などに対して、適切に判断し考察できるかを問う内容となっている。また、「情報Ⅰ」と「旧情報」の間は得点調整の対象となり、同一教科内の科目間で極端な平均差が生じた際には、受験した科目によって有利不利が生じないように調整が行われる。

3 「情報Ⅰ」の代替科目としての「情報処理」の指導について

新学習指導要領における「情報Ⅰ」と「情報処理」の目標は以下の通りである。

「情報Ⅰ」の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技術を習得するとともに、情報社会と人とのかかわりについての理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

「情報処理」の目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
- (3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

共通して(1)～(3)とあるが、これは現行の学習指導要領において知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を3つの柱で再整理したものである。(1)は知識・技能(職業に関する専門学科においては知識・技術)、(2)は思考・判断・表現、(3)は学びに向かう力・人間性をあらわす。共通科目「情報Ⅰ」で示す「技能」と専門科目「情報処理」で示す「技術」の違いは、「技能」は個人を対象としたものと捉え、人が生きていくために一般的に身に付けなければならない能力と考えることができる。(2)で記したように、共通テスト「情報」が設置された経緯として、IoTやChatGPTなどの生成AIやプログラミング、データ活用が身近なものとして、我々の生活に入り込んでいる現状があることから、共通科目である「情報Ⅰ」で求められる資質能力として当然必要となり、これまで以上に高い能力を身に付けることが求められていることを理解しなければならない。それに対して「技術」は、職業として必要とされる知識をあらわすものとされ、このことは専門科目「情報処理」の目標はすべて「企業において」という言葉ではじまっていることからわかる。以下は、「情報Ⅰ」と「情報処理」の指導内容(指導項目)を示したものであるが、職業として必要とされる科目である「情報処理」には、(4)ビジネス文書の作成、(5)プレゼンテーションといった、コンピュータやアプリケーションのスキルを取り扱った部分が含まれているのである。

・「情報Ⅰ」の指導内容

- (1) 情報社会の問題解決
- (2) コミュニケーションと情報デザイン
- (3) コンピュータとプログラミング
- (4) 情報通信ネットワークとデータの活用

・「情報処理」の指導項目

- (1) 企業活動と情報処理
- (2) コンピュータシステムと情報通信ネットワーク
- (3) 情報の集計と分析
- (4) ビジネス文書の作成
- (5) プレゼンテーション

専門学科で「情報Ⅰ」の代替科目として「情報処理」を行う場合は、「情報Ⅰ」で取り扱う内容を抑えた上で、商業科として企業に入って必要とされる操作スキルを指導する必要がある。文部科学省のサイトでも、専門学科における代替科目の考え方として「機械的に代替が認められているものではなく、代替を行う場合は「各学校に説明責任が求められる」という記載がある。

4 まとめ

共通テストの出題からもわかるように、共通教科「情報Ⅰ」で求められる資質能力が非常に高度化していることを踏まえた上で、「情報処理」の指導を行う必要がある。今一度これまでの指導を振り返った上で、コンピュータやアプリケーションの操作スキルの指導に偏っている場合は「問題解決」や「データ分析」、「考察」の視点を授業の中に取り入れていくことを考えていかなければならない。このことは教育課程の編成にも大きく関わってくることから、各校の現状を踏まえ、代替科目としての「情報処理」の扱いについて検討する機会としてほしい。

5 グループディスカッション 発表内容

A班 班で出た意見としては、情報処理の授業というのは検定対応ではやっていないということ、また、情報Ⅰと情報処理の内容を比較すると、アルゴリズムやプログラミングの分野が少し薄いのではないかということである。そして、データに関する解析の部分も薄いと感じている。そのため、個人的な意見としては、例えば一年生で情報Ⅰを2単位、同時並行で情報処理を最低単位の2単位という履修の形を考える。

その他の意見としては、入学してくる生徒はスマホのフリック入力の方が多くなっており、キーボードに親しまない子たちがいるということだ。実習に入るとき、キー入力のトレーニングが今まで以上に必要になった。情報処理にしても、情報Ⅰにしても、情報モラルの部分については、詳しく指導して行く必要があるのではないだろうか。

B班 情報Ⅰの内容を踏まえると、共通テストの範囲全てを授業で行うということは、2単位だとなかなか厳しいという意見が出た。情報Ⅰと情報処理の中身を比べてみると、やはり情報処理の部分はアプリ操作が多くなっている。データサイエンスの領域や、アルゴリズムの部分などが、少し薄まっていると考える。情報デザインの方に関しても、情報Ⅰの方が深く描かれているように思う。弘前実業高校では、外部講師を呼んで情報デザインの授業を実施しており、今年度もやる予定だ。

また、もう1つ出た意見としては、情報処理の教科書を基本として、授業を行うということだ。共通テストはあまり意識しすぎないということのところも、大事な部分ではないだろうか。

C班 教科書の内容だけで、共通テストには対応することは、非常に難しいという意見が出た。例えば1年生で情報Ⅰを履修し、二年生で、学校設定科目などで、さらに深く学ぶという方法はどうか。私は商業の情報処理の授業を担当しており、今は教科書に沿って授業を進めている。しかし、生徒の反応を見ていると、あまり情報処理の楽しさを教え切れていないということや、楽しいところもっとあるのにとことを思いながら、授業を行っている。本当は実習の方が意欲的に取り組んでくれるが、どうしても教科書の通りやると座学が多くなってしまふのは仕方がないことだと考えている。

D班 本校は総合学科であるため、1年次で情報Ⅰを2単位、2年次には情報ビジネス系列で、情報処理を4単位履修している。1年次で情報Ⅰを履修し、2年次の情報処理では情報Ⅰで学んだ内容は、確認程度で、後は商業に特化したところを重点的に学んで行くという形で行っている。商業高校で行けば、やはり情報Ⅰも履修したほうがいいのかという意見も出た。例えば、情報Ⅰを2単位・情報処理を2単位という組み合わせにするなどである。

E班 現在担当している授業の状況や、授業での悩みを話し合った。まず高校に入学し、情報処理の授業を始めると、パソコンを使えないという現状がある。キーボードだけではなく、マウスもなかなか使用できない。しかし、情報処理で求めているものはやはりパソコンスキルである。そういった力をどのようにして習熟させる授業を行っていくべきなのか、どのようにして子どもたちが楽しめる授業を作っていくか、ということについて意見交換を行った。

F班 普通高校では情報Ⅰを行っているが、やはり2単位だと全然間に合わないという。情報Ⅰに加えて情報処理を履修、もしくは情報Ⅰと情報Ⅱを履修するという形でなければ、対応が厳しいのではないか。例えば普通高校においても、情報Ⅰをとり、次に情報処理を選ぶ生徒は、就職の子が多い。進学をする生徒は、進学コースに上がって情報処理を履修しないため、情報Ⅰでカバーしなければいけないという現状もある。ただ情報Ⅰの内容は、どうしても座学の時間が多くなってしまふ。検定ありきではないが、やはりコンピュータの操作方法もきちんと覚えてもらわなければならない。企業は、Word、Excelを使える人や、パソコン操作できる人を求めているのが現状である。現在は、一人一台タブレットの状態になっているが、キーボード操作を含めてWord、Excelの操作もまだまだ習熟できていないという生徒も多い。教科書の内容と、操作スキルの習得のどちらもやらなければならないとなると、やはり2単位では足りない。少なくとも座学だけではなく、コンピュータ操作を含めたPC分野のスキルを身に付けさせる必要があるという話し合いとなった。簿記の知識も含めて、会計ソフトの使い方なども学んでいかなければならない。そのようなスキルを身に付け、社会に対応できる人材を育成できるように指導をしていきたい。

G班 情報Ⅰを担当している教員がいなかったため、まず情報処理の授業をどのように行っているかを話し合った。技術の習得や資格取得を目的とする学校が多いという現状であった。主に、問題集を主体で取り組んでいる学校が多かった。

生徒は、情報処理の実技に関してはすごく意欲的である。しかし、用語などが出てきたり、プログラミングでも、流れ図などを見ると、苦手意識を持つ生徒が多い。以前であれば実業高校は就職をするためであったり、資格を取るために入学する生徒が多かったと思うが、現在は進学する生徒も多い。情報処理やプログラミングを生かした進学する子たちのことを考えると、操作スキルの習得や検定対応の授業ばかりではいけない。また、今はネットマナーモラルやセキュリティ知識の強化なども社会に求められる能力であるため、その部分を伸ばせるような方法について考えていく必要がある。

3 講演

「逆風を追い風に変える」

～北三陸の秘境から、世界ブランドを目指す～

発表者 株式会社北三陸ファクトリー

代表取締役CEO 下苧坪 之典 氏

司会者 青森県立八戸商業高等学校 教諭 畠山 行雄

記録者 青森県立八戸商業高等学校 教諭 三橋 壮大

まずは映像をご覧ください。

朝からムービーで申し訳ないですが、改めまして北三陸ファクトリーの下苧坪と申します。「皆さん、ウニはお好きでしょうか?」、今日はウニの話をしますが、やばい話からしたいと思っています。2010年に地元に戻ってきて会社を興す前は生命保険会社で仙台、東京、盛岡を起点に仕事をしていました。その前は青森ダイハツの店にも行ってダイハツの軽トラとかミラとかムーブとか今となっては漁師さんと意気投合して仲がよいですが、当時は漁師さんに「そろそろ替えた方がいいんじゃないですか」と、騙しながら話していたことを思い出します。

ここから、全国、世界に羽ばたいていこうと事業を13年間必死にやってきました。13年間必死にやってきたからこそ、今の日本に対して正直NOを突きつけたいと思っています。これが世界の最低賃金です。OECD、世界の先進諸国のなかで日本は最も低いです。これを見て皆さんどう思いますか。オーストラリア、ドイツ、イギリス、フランス、アメリカのサンフランシスコに関しては最低賃金2,600円です。1時間仕事をして、例えば商業高校を卒業した19歳の子供が1時間仕事をして960円しか貰えないです。方やアメリカ人は2,700円貰っています。買える物も違う、経験することの質も違う、安い物しか買えないということです。最後に初任給見ていきますが、スイス、アメリカ、ドイツ、オーストラリア、ノルウェー、シンガポール、なんと韓国に負けています。日本は、262万です。大卒の手取りで、15、16万です。何買えますかって話です。先にOECDの話をお伝えしますが、ドイツ、カナダ、イギリス、フランス、イタリア、日本が最低です。最も賃金が低い先進国に落ちてしまったということです。皆さん、どうでしょう。

商業高校だと私も親に大学まで奨学金を手配していただいて奨学金は自分で返しましたが、ほとんどの学生が奨学金で学校行って23歳から就職をします。就職をしてから安い給料のなかから家賃を支払って、食費を支払って、そして奨学金を返していく、そうすると僕ははっきりいって、現状、夢も希望もない国だと僕は思います。さらに深掘りしていくと、各国の平均年収、これは子供たちだけじゃなくて全体の平均年収です。日本最下位です。それから最低賃金も最下位です。さらに皆さん、ビックマック指数って分かりますか。実は、2000年いわゆる20年前は、日本は高い国でした。例えば、中国、台湾、香港、タイ、各アジアの地域から日本へ来て日本の物価が高く食べ物も高い、電気代それから電化製品、とにかく何でも高いというのが海外から見た日本のイメージでした。しかしながら20年たった今どうでしょう、ベトナムの次にビックマックが安い。さらにその下が、フィリピンです。ほぼフィリピンと一緒にビックマックの価格です。戻りますが262万しか初任給が貰えないなかで、ビックマックが買えないということです。アメリカに行くとビックマックが買えないということです。今僕はオーストラリアに住居を構えています。オーストラリアのビックマックのセット20ドルです、2,000円です。ランチで最低2,000円ですから、それが日本だと今単品で390円です。とにかく安い物しか買えない日本になっています。ここがすごくポイントで、ビックマックが安いということは商品の質を考えてみてください。牛肉、チーズ、安い物を私たちが買っています。安い物しかマクドナルドに払えないということは、畜産農家にも安いお金しか回らないのです。小麦、野菜を作る生産者、農家さんの収入も、ピクルス、レタスなども最低のランクの物しか日本に入ってきてないということです。添加物たっぷりの日本のビックマックです。オーストラリアのビックマック、めちゃく

ちやくオリティ高いです。ここがポイントで、従業員の給料、当然日本のマクドナルドで働く従業員の給料は、安い物しか私たちが買えないから安い給料しか払えないです。さらに購入者の生活基準、262万円の初任給ですから、安い物しか買えないような年収しか貰っていないということです。各国の平均年収、アメリカは730万円です。日本は408万円です。オランダ、オーストラリア、ベルギー、韓国ということで上げていくための努力をどうやっていくかを子供たちに教えていかなければならないのです。日本の農林水産物、食品を世界で一番輸入している国は香港です。香港はほぼ中国化していて、香港から隣国の中国の深圳からどんどん輸出されています。香港が日本からの輸出のもっとも大きい国です。

「皆さんお寿司大好きですか?」、「このお寿司はどこのお寿司か分かりますか?」、スシローです。八戸市のスシローは全国でも売上トップ5に入ります。海外の話を見せていただくと、香港にもスシローが15店舗あります。世界各国にスシローは100店舗あるのですが、弊社のウニは岩手県全域から購入していますが、スシローにも卸しています。比べてみますと、天然インド魷中トロは日本だと1貫190円です。香港だと318円ですから何%高いでしょうか。先ほどのマックと全く一緒です。ただ、スシローに関しては高品質、低価格というのを売りにしてしますので、品質はそんなに変わらないですが、スシローに入る利益率は香港の方が高いです。香港でビジネスした方がいいです。日本人に食べてもらわなくてもいいです、というように全ての業界が日本から離れていきます。安い物しか買えない日本、本当にこれは大きな問題だと感じています。

オーストラリアは世界で一番日本人がワーキングホリデーで31歳までの若者が出稼ぎに行っています。2023年4月までの1年でワーキングホリデーのビザでの渡航者が3倍ぐらいです、なぜでしょうか。先ほどの話に戻りますが、オーストラリアはとても綺麗で治安も良く、食べる物も美味しいです。物価は高いですが、給料もとても高いです。貰える給料が多ければ投資できる金額、使える金額、好きな物を買える自由なお金が沢山あります。その中で色んな選択肢が生まれると思いますが、月15万、18万しか手取りがないなかで、奨学金を払いながらどうやってそのような選択肢を作っていくか非常に難しいと感じています。弊社も大卒の新卒者、宮崎大、東海大の奨学金を払っている若者を4人くらい雇用していますが、給料上げてくださいと言われます。なぜ、オーストラリアにワーキングホリデーをしたのか多くの人に聞きました。「30年賃金が上がっていない日本では稼げない」、「国に期待してもだめだ」、自分の力で生きていくしかないと思っている若い人が非常に増えています。そして、円安が起きるとどうなるかということですが、同じチケットを倍出さないと買えないということで簡単に旅行も行けない時代になっています。円安により、円の価値が下がってしまう、これはしばらく続くだろうと言われています。将来「日本だけで働く」ことに危機感を感じているから、すごく分かります。アメリカ、オーストラリア、イギリスなどの同じ先進諸国でも、方や時給900円、方や時給3,000円近く貰っています。日本が先進国だと思っているのは現在50歳以上の方々ぐらいです。おそらくバブルの時代を経験された方々は、未だに先進国だと思っていますけど、日本は底辺です。最低の国にまで落ちてしまったことを今日は強くお伝えしたいのですが、一方で日本は素晴らしい国です。水道水がそのまま飲める国、アメリカもオーストラリアも飲めるエリアはあるのですが、例えば塩素がとて入っていたり、タイもそうですが飲み続けると、発がん性を有したものを摂取し続けるということで、安心して水が飲める国は世界で9カ国しかないです。その中でアジアは唯一日本だけです。素晴らしいことももちろん沢山あります。食も人も治安も何もかも素晴らしい日本ですが、経済が圧倒的に落ちてしまったことで、今日は先生方と一緒に次の世代を担う子供たちがどうやって次の世代の経済を作っていくかということを私の事例をもとに伝えていければと思っています。

私は、今グローバルに展開しています。1980年、旧種市町で生まれました。母親は宮城県の古川市出身で、父親は種市町出身で八戸市で出産しました。いまだに八戸市に住居を構えて長い間八戸市に住んでいます。今まで生まれ育った地域を発信し続けてきましたが、グローバルに世界に伸びるためにしたいと思って事業をさせていただいています。Regenerativeというのが再生型の水産業ということを意味しています。2010年、創業当時は天然わかめを生産者のところに行って直接買い付けて、自分で加工をして1人で全国の百貨店を回って1人で事業を始めました。2010年から2016年までひたすら1人で行っていました。パートを2人雇っていました。KITA SANRIKU FACTORYという会社をひろの屋の100%子会社として2018年に創業して今オーストラリアにも今年4月に会社を作り、子供

たちの教育、いわゆる海洋教育を主体とした次世代の育成を今行っています。具体的には、水産高校としては水見高校とか洋野町にある種市高校とか色々な子供たちに次の水産を背負ってもらいたい思いからNPOを立ち上げて子供たちの教育を行っています。

冒頭にウニの動画をみていただいてウニを提供できなくて申し訳なかったですが、洋野町には世界で唯一が存在します。それが海牧場です。全長18キロ、沖200メートルに渡って存在する海牧場という呼ばれる漁場があって、約100人の漁師さんたちが海牧場を活用した海産業を行っており、本州水揚げ1位となっています。私が始めたのが、2010年に創業して2016年に取りかかりました。

「漁業権や入札権はご存じですか?」、水産業というのは、かなり高齢化が進んでいます。組合長の平均年齢が75歳です。イニシアティブをとっているのがお爺ちゃんです。僕らがイノベーションを起こしたい、新しい事業を作りたいということをお爺ちゃんたちに交渉してもなかなか受け入れてもらえないのです。お爺ちゃんが作る政治や水産業に未来があるか、僕はそれをぶち壊したいのです。そのような人たちの意識をこの13年変えまくってきました。今では好きなことをやらせてもらっていますが、13年前は漁業権や入札権をとることができませんでした。それを約7年かけてウニの入札権を岩手県で約16年ぶりに新規取得をすることができました。それくらい新しい人を受け入れない、そんなビジネスが高級食材なのです。例えば、青森県のホタテも新規参入できないです。岩手県のアワビも新規参入できないです。サケの漁、これも新規参入できないですが、新規参入できない事業ほどイノベーションが広いです。場合によって先生方の教育の部分も変わりつつあると思いますが、新しい風が入らないとその業界は変わらないです。イノベーションというのは、これまでであったものとこれまでであったものを足して新しいものを創ることです。先進的なフードテックやフィンテックなどの先進的なことをやることだけがイノベーションではなく、これまでであった既存のものを組み合わせて新しい物を創っていく、まさに新しい風を入れていくことが僕たちにとってイノベーションだと思っておりますので、このウニにイノベーションをこれまで約8年与え続けてきました。どういったイノベーションを創ってきたかという、全国の水産業で1位が北海道、岩手県が2位、青森県が3位です。青森県でいうと下北、八戸もあります第3位です。市町村別で見ると、ウニの漁獲量の全国ランキングとしては1位は函館、2位が礼文町、3位が根室、4位が利尻です。5位が岩手県洋野町。僕が生まれ育った地域です。

ちょっと余談ですが、carbon neutralityの話です。先生方も何か取り組んでいますか。30年前の中学2年の頃、父の会社が倒産しました。それまでBMWやクルーザーが有りとても裕福な生活をさせていただきました。父も水産業を行っていましたが、曾祖父、祖父、父の3代で潰れてしまいました。小遣いすらもらえませんでした。弟が2人いて、弟を連れて海に潜り、何を行ったかというと密漁です。大量の海藻をかき分けてウニやアワビにたどり着いて、それらをキャンプなどに来ている人たちに売って小遣いを稼いでいました。それは漁師さんたちが結構許していました。30年前と同じ場所には現在海藻はゼロです。

皆さん、ブルーカーボン聞いたことがありますか。ブルーは海、グリーンは森林です。森林に関してはグリーンカーボンと言われますので、森林いわゆる植物が水を吸収して太陽から光合成をすることで成長します。二酸化炭素を吸収してくれますが、実は海の中の二酸化炭素の吸収源があります。地球の7割は海です。3割が陸ですから、実は海の中の海藻は海中に溶け出したCO₂を吸収してくれる非常に大きな役割を果たしています。そして、海藻が枯れた後も海底に蓄積して炭素を貯留することで、温室効果ガスが空気中に溶け出すのを防いでくれる役割を果たしています。それが海藻です。すごくありがたい存在です。私たちも生活の中でスーパーに行くと、わかめやめかぶを皆さん食べます。それはブルーカーボンには入りません。なぜなら空気中に揚げられて私たちが食べることで、一度二酸化炭素が吸収された海藻から弾けてしまいます。私たちが言っているブルーカーボンは、この海底に切れて貯留した海藻のことをブルーカーボンと呼んでいます。2022年の実績だと日本最大級の海藻を有しているエリアです。昨年、全国のブルーカーボン、二酸化炭素を吸収してくれる海藻の量は3,733トンのうち3,106トンの約8割は洋野町が吸収してくれるということで日本最大級のブルーカーボン造成エリアにもなっており、かなり注目を浴びています。弊社の工場は動画で見いただきましたが、国際規格を有していますので何時でも、どの国にも輸出できます。

ウニを始めて7年ですが、当時はまだ70歳代だった高齢のお母様方が徐々に辞めていきました。ウニを始めた7年前40人近くいたお婆ちゃんたちが今20人くらいまで急激に減ってしまい、若手を育てていません。若い力が日本の国力としてどんどん失われていっていることをすごく感じています。若手の育成、高卒の採用に力を入れています。

お婆ちゃんたちが作ってくれる最高品質のウニを商品のブランディングやマーケティングで全国に販売しております。商品としては、殻付きウニや塩水ウニとか生だけではなくて冷凍のウニやウニバターというのが農林水産大臣賞をいただきました。農林水産祭りというのが年1回皇居で行われ、天皇陛下に2回献上しています。天皇陛下が食べたかは分かりませんが、一応天皇陛下には献上させていただきました。

一度海の話はおいておき、2013年12月に実は日本の食品に大きなインパクトがありました。和食がユネスコの無形文化遺産に登録されました。何が登録されたか、皆さんご存じですか。実は日本は自然を尊ぶという日本人の気質に基づいた食に関する習わしというのは、日本古来の伝統的な食文化いわゆる普段僕たちが食べている物は、まさに自然の尊重という日本人の精神を体現した食に関する社会的慣習ということです。これがユネスコの無形文化遺産に登録された内容です。日本人は古来の米も食べ、日本の食は深いです。海藻だったり、納豆だったりしかも体に良くて、ストレスを軽減したりだったり、子供たちも肉食も増えています。伝統的な日本食が世界でもトップオブトップと認定を受けました。

震災の翌年、ある一枚の写真を見つけました。ユネスコの無形文化遺産に登録されたのと紐付いているのかと思いましたが、これは1950年の写真です。真ん中の背の高い男性が僕の祖父ですが、東日本大震災の翌年に祖父とめっちゃくちゃになった祖父の家を掃除していたときにこの写真が出てきました。1950年の時点で創立60年だったということも初めて知りました。アワビを三陸、岩手県から香港にもっとも輸出していたということで、当時私の曾祖父は船で横浜から香港に渡ってアワビを現地の商人と取引していたそうです。香港のドルに替えて、それを日銀に持って行き換金してトラックで東京から岩手県に帰ってきて一年分の配当をしていたと聞きました。これがまさに僕のDNAだと思いました。当時なにもない時代にパイオニアとして香港に渡る行動力、地域を背負っているそのような曾祖父の思いを感じながら行っています。

この写真は三陸ですが、三陸はいま危機的状況を迎えています。八戸もイカ、サバが獲れないです。サンマも揚がらないということなんでなぜ揚がらないかということ黒潮（日本海流）、暖かい潮がどんどん上に上がっています。親潮、冷たい潮、千島海流というのが北海道のオホーツク海の方から流れて来ますが、潮目がどんどん上に上がっています。北海道の道東、襟裳岬まで上がって来て普段北海道では絶対に獲れないブリやフグが大量に獲れるということになっています。さらに私の曾祖父の時代、1950年2,000トンの水揚げだったそうです。これが岩手県だけを見ても今年は100トンにも満たないということで、日本の水産が本当に危機的状況を迎えています。これは干しアワビです。これを香港に輸出するのですが、本当に危機的状況を迎えています。

今日は皆さんにウニを食べていただけないのがとても残念ですが、ぜひオンラインで買って自宅で食べて欲しいと思います。では、ウニの話を見せてください。ウニの深い話をもう1度させていただきます。実は皆さんが普段食べているホッケやイクラ、数の子、たらこ、ウニはロシアから輸入されている物が殆どです。今ロシア、ウクライナ問題で日本というのはほぼほぼ水産物以外は禁輸しています。北方四島と日本の関係は深すぎて、商売ですがやらないといけないのが水産です。ロシアからの水産物輸入額は過去最高になっています。これまではヨーロッパ、アメリカ、アジア諸国にロシアからウクライナ戦争の前までは輸出されていたが、ほぼどの国も今は禁輸になっています。日本だけが北方領土の関係で水産物が多く入ってきています。そうすると日本の相場は下がってしまいます。ウニも下がってしまいます。なぜなら、豊洲市場にロシア産のウニが溢れてしまって我々のようなこだわりをもった水産物が仮に市場に行ったとして1パックあたりロシア産のウニが500円です。うちは2,500円で売っています。そうすると、安い国日本だとロシア産のウニを買ってしまいます。それをなんとか阻止したい。生産者を守りたいという意味でトレーサビリティ、いわゆる何時、誰がどこで獲ったか分かる仕組みを自社で経済産業省の事業で行わせていただいております。QRコードを読み込むと何時どこで誰が獲ったか分かるということを生産者を守るために行っています。これまで豊洲市場、当時築地ですが、百貨店、スーパーマーケット、ミシュランのレストラン、寿司屋さん

直接営業をしてまいりました。東京の紀尾井町に福田家さんというお店があるのですが、産地の味を使ってお客様に提供する創業80年のミシュラン二つ星です。ここにも弊社のウニが入っており、定期的にお客様に食べていただくというを行っております。ミシュラン二つ星で客単価がお酒別で5万円ですが、こういったところに洋野町で獲れたホヤやウニ、ホタテを入れて洋野町のウニの魅力をミシュランのレストランのお客様に発信していただきたいということで、国内のみならず世界を回らせていただいて、前例のない仕事のためゼロから道を作って拓けて参りました。

ここからは少し暗い話をしたい訳ではないのですが、漁師さんは担い手もいない、資源も管理されていない、産地偽装もあり、漁価も安い、魚食離れ、コンビニ等で切れた焼き魚を売っていて家のガスを使ってサケや銀ダラを焼くことも、もしかしたら相当減っているのかも感じています。当然地球温暖化によって色んな問題があり、DXもすごく遅れていて生産性が低いというのも当然あります。一番の問題は僕が30年前密漁していた時代、海藻がありましたと同じ場所に海藻がないことです。海藻がないということは、ブルーカーボン、二酸化炭素を吸収するための海藻がないということだけではなく、実は小魚が隠れたり、親魚が海藻に卵を産んだり、いわゆる沿岸漁業の魚の水揚げも減っていきます。写真のようにウニが食べる物もないです。ウニはSea Urchinですが、海のギャングという意味です。だからなんでも食べるので、当然このようなどころにいるウニは実が悪いです。ウニは先ほどミシュランの資料を見ていただいたとおり、人を幸せにするものだと私は思っていました、実はこういうウニは人を不幸にしまいます。これを私がウニを始めた当時、2016年からずっとどうにかしたいと思い、洋野町は良かったのですが、そのほかのエリアのウニをなんとかしたいと思い、北海道大学に通い始めました。水産学部に研究者として受け入れていただいて8年間ウニの研究開発、地球温暖化、色んな研究開発を水産学部と一緒にやらせていただきました。全く実入りが悪いウニの餌を開発して、ウニは木とかプラスチックを何でも食べてしまいますから、籠なんかも食べてしまいます。ウニが食べないような籠を開発して全て特許をおさえて北海道から沖縄にかけて、全く実が入っていないウニに餌を与えて太らせるという仕組みを作りました。この写真は北海道の八雲町の若手の漁師の皆さんに行っていたのですが、一緒になって生産者の収入を増やしていこう、そして海の中の海藻を増やしていくためにウニを駆除して、駆除されたウニを捨てるのではなくて餌を与えて太らせることで2ヶ月の給餌期間で100倍の価値を生み出す、そんな事業を洋野町の天然のウニとは別に全国で展開をさせていただいております。左側のウニは水揚げすると1個あたり5円かけて廃棄するだけですが、2ヶ月の給餌期間で皆さんが大好きなウニに生まれ変わります。長い間放置された磯焼けしてる海域に放置されたウニはほとんどが公害です。10年、20年、30年たっているのですがそういった公害ウニというのは昆布やわかめを食べても二度と実入りも良くならない、色も改善しないという研究データも出ました。そこを全て改善できる餌を私達と北海道大学とコンソーシアムを含めたチームで開発して、こういった取り組みを日本全国のベンチャー企業のピッチコンテストで総なめしてきました。今日、皆さんには大分柔らかくお伝えしていますが、もっとスピーディーに7分のプレゼンの時間で伝えなくてはいけないICCという日本で一番大きなピッチコンテストです。来月京都に行って審査員をします。これは東北で行われたソーシャルインパクトアクセラレータプログラムという言いますが、右側の写真の真ん中の方、竹内先生はハーバード大学の教授です。こういった方が審査員ですから、とにかく海の中というのは先生方もそうかもしれませんが、普段考えることはないです。よって私たちは啓蒙活動をすることで、少しでも海の中のことに関して触れていただくことで日本のローカルから世界の海を豊かにできるということで、私は事業をさせていただいております。

日本ではなく、世界の水産はでどうなっているかということ、上からアフリカ、次にアメリカ、アジア、オセアニア、そしてヨーロッパと世界の水産はすごい成長産業です。でも、日本だけが衰退産業になっています。さきほど様々な問題を皆さんと共有しました。漁師の皆さんは収入が低い、どんなに頑張っても評価が上がらない、子供に継がせる事ができない、そして廃業を待つだけです。未来が全く見えない中でも僕は諦めてはいないです。世界のウニを皆さんと勉強させていただくと、世界には20数種類の食用ウニがあります。オーストラリアにも2種類食べられるウニがあります。

まずはドバイからです。今年1月にドバイに行ってきました。左側はドバイの王族で、総資産1兆円の方

もいます。半端ではない金持ちですが、左から2番目はパキスタンの格好の僕です。ドバイの王族達と商談をしてきました。日本のウニを食べていただいて皆さん欲しいと言って、プロモーションの前日にドバイの市場に行ってきました。そしたら、アラビア湾で獲れるウニですが、全く実が入っていませんでした。私たち日本と同じ課題をUAEでも抱えています。アラビア湾は横にすごく長いのですが、死ぬほどウニがいます。そこで私たちの技術が転用できると思い彼らに相談したところ、やろうということで、ゆくゆくはドバイでも日本食を行っていきます。今ウニは現地では食べられないため、洋野町からウニを輸出しています。客単価20万円の超高級レストランですが、そこに日本の食材が運ばれています。

翌月の2月1日にタスマニア島に行ってきました。タスマニア島はオーストラリアの東南にある北海道くらいの島です。そこに行ってNational Centrostephanus Workshopという世界のウニを、世界的な議題を解決するための会議があり、世界中から研究者が200人集まったなか、日本人は僕だけでした。今のような話を英語で伝えたところ、タスマニア島も深刻だということでした。元々海藻が豊富にあった海域に全くない状況です。シドニー、メルボルンともに海藻をウニに食い尽くされてしまいました。世界の海藻の7割はオーストラリア周辺にあって95%がウニに食い尽くされてしまいました。これは、UNIs Universal Agendaだなということでは何とか解決したいと思い、ビジョンとしては私たちが培ってきた北大とコンソーシアムと作ってきた研究でいわゆる再生養殖事業で世界とつながって、そしてサステナブル(Sustainable)持続可能な水産物の未来を創っていくということ、商業高校を卒業した一学生で、ただのおっさんが世界で戦えるわけです。何を言いたいかというと、商業高校の国際経済科でしたが、ハワイにホームステイしました。大学の時に6ヶ月くらいアメリカのシアトルに短期留学しました。30歳の時に半年間、サンフランシスコに短期留学しました。世界を見るということがものすごく大切だと今思っています。特に若いとき、特に幼少期、中学校、高校、とにかく若ければ若いほど、世界を見るスピードがどんどん早ければ早いほどいいです。なぜなら、30年で日本の経済がどんどん下回ってしまったわけで、今子供たちが見る世界が10年後、20年後のビジョンに変わっていきますが、私が高校、大学の時にアメリカ、ハワイで見た絵はまさにこういった人たちと仕事をしたいという漠然とした思いでした。たまたまオーストラリア、ドバイに行きましたが、やはり若いときにいかに海外に出るかということが大切だと先生方に伝えたいと思っております。

具体的にオーストラリアでどういうビジネスしてるかといえば、左側の小さなウニはショートスパインと呼ばれ、美味しいです。右側のロングスパインと呼ばれるウニは、不味いです。僕の顔くらい大きいです。タスマニア島で死ぬほど生殖しています。激不味です。実はウニは世界の水揚げ量の3位はオーストラリアです。激不味のウニがほとんどなので95%以上捨てられています。ビジネスにならないというのがオーストラリアの判断でした。ただ私は、北大で研究員として研究して参りましたのでビジネスにできる確信がありました。だからメルボルンにKSF Australiaという会社を作りました。この1年間、事前調査をおもいっきり行ってきました。そんな中でいまはベンチャー企業とタッグを組んでいます。彼はシンフォレストという会社のサブなんですが、サブは何をやっているかという環境です。このカゲキノリという海藻を東京ドーム16,000個分のタスマニア島周辺の海岸で養殖をしてここからオイルを抽出して、そのオイルを牛の餌に混ぜることで牛のゲップから出るメタンガスを98%削減するというベンチャーを行っています。そこからこのようなカスが出ます。上がオイルでこれを牛の餌に混ぜます。下にカスが出るので、このカスを餌に変えてオーストラリアの短い針のウニに与えていくことで循環をつくっています。オーストラリアで生まれた海藻でオーストラリアの実入りの悪いウニを実入りを良くするというので、オーストラリアの循環ビジネスを今まさにスタートしました。右側のタツミ先生、彼はドクターですが大学1年生からタスマニアに移住してタスマニア大のドクターまで取って、このベンチャー企業に就職してますがめちゃめちゃ優秀です。彼も若いとき、高校の時にオーストラリアに留学して、いつかオーストラリアでビジネスがしたいと思っていたそうです。僕の事例と一緒に。早ければ早いほど世界で戦える日本人になると確信しています。

4月にオーストラリアに会社を作ってメルボルン、タスマニア、シドニー、こういったところで拠点を構えていくわけですが、今ヴィクトリア州、メルボルン大学、ニューサウスウェールズ州、タスマニア大、タ

スマニア州、様々な連携を作って、こういったダイバーさんとも連携を図りウニを捕獲していただいています。左側のウニは美味しいです。右側のウニは不味いです。では、左側のウニは陸上養殖で2ヶ月の給餌で美味しくして太らせて出荷しますが、養殖は皆さんあまり馴染みがないと思います。例えば、陸奥湾のホタテは50年前は行っていませんでした。ということは、養殖すれば市場も広がって食べる人も広がって、そして地域で産業が創られていくということは潤っていくということになります。新たにビジネスを創るということは地域経済を潤していくことになります。養殖でどのように潤していくかというのを見ていきます。オレンジのラインが天然の漁業です。そして、ブルーのライン、1950年からちょっと養殖をしています。ですが、1970年から一気に養殖産業が広がって特に日本だとむつのホタテとか三陸のわかめ、サーモン、カキ、ホタテ、養殖産業で作れば食べる人が増えて需要が生まれていき、それが地域に根ざしたビジネスになっていきます。さらにそこに雇用が生まれて、子供たちの受け皿になっていくということです。いかに0から1を創るか、そして1から2、2から5、5から10へと事業を拡大していけるかということが、地域経済へ与えるインパクトがいかに大きいかということです。そのためには私たちが北大と連携協定を結んでますが、これはタスマニア大です。タスマニア大のIMASという、こういった研究所とも連携してオーストラリアのウニに与えるための餌を開発しようとしています。また、これはメルボルン大です。メルボルン大は世界ランキングでは東大より上です。メルボルン大の先生とも一緒に研究をしていて、私たちのファームが広大な土地にあります。メルボルン大の先生と一緒に研究を行って、いかに美味しいウニを作るか、しかもオーストラリアの海藻を使った美味しいウニを作るか行っています。ということで、美味しいショートスパインは私たち日本人の誇りいわゆる和です。ユネスコの無形文化遺産に登録されるくらい私たち日本の文化は非常に強いものだということで、MADE BY JAPANのオーストラリア産のウニを世界に出しているということで養殖をスタートしています。ロングスパインは本当に信じられないくらい不味いです。皆さんもお寿司屋さんに行って、不味そうなウニは分かると思いますが、それより不味いです。本当にやばいくらい不味くて、これをどうしようかとなったときに、僕は北大で8年間研究をしてきました。これが生きました。ウニは水産物で葉酸が最も豊富です。

次はウナギです。ウナギは淡水魚ですけど女性、妊婦さんの場合は一日あたり480マイクログラムの葉酸を摂取できることによって胎盤が強化されたり、子供が健康に育っていくためにはなければならぬのが葉酸と実はビタミンAです。ビタミンAも水産物で最も豊富です。これも僕は北大で研究してました。日本だとウニというのは高級食材なのでサブリになるわけがないです。まさかオーストラリアで不味いウニがサブリになるなんて8年前には夢にも思ってなかったです。だから少しグローバルなビジョンを持ちつつ、目の前のことを必死にやっていくことで磨かれていきます。それが5年後、10年後に生きてくると感じました。実際に妊活サプリメントグローバル市場は世界に3600億円あります。今は中国の少子化、当然日本も少子化、韓国も少子化です。アフリカはどんどん人口が増えていって葉酸がいくらあっても足りないそうです。色々なマーケットが世界にあることを、僕はコソコソ学びの中で生み出していくことができました。これが先週の13日、オーストラリアの経済新聞、いわゆる日本経済新聞のオーストラリアバージョン、皆さんに配っていますが、良かったら訳して読んでください。私がやろうとしていることがオーストラリアの経済にもすごくインパクトを創れるということを取り上げていただきました。こういった取り組みはNPOもやっていると先ほどお伝えしましたが、海の問題は普段、陸よりも機会は少ないと思っていました。洋野町で開催されたウニサミットが今年の7月です。先月ウニサミットというのを開催させていただいて、今日のような話をすれば様々なシェフ、研究者、大学の先生、経営者、起業家、様々なステークホルダーの皆さんが集まり徹底的に議論する場を洋野町に作って、こういった話を1対1で100人くらいの場でウニサミットを作って、当然オーストラリアからもゲスト呼んで、来年には鎌倉でもウニサミットを開催して全世界から研究者を集めてやろうと思っています。僕はビジネスに挑戦してますが、私の息子は高校3年です。小さい方は5歳なんですけど、なんのために仕事するかはこのためです。この次の世代を彼らがいい感じで継承してもらいたいなと思っています。このままだとどんなアクションを起こしたとしても、僕は彼らが水産業に就くことは絶対はないと思っています。だから、先生方にぜひ一つお願いしたいのが、投資です。私たち、郵便貯金とか生命保険などを使って貯蓄をしていますけど、全部ノーです。僕は生命保険会社に4年勤めていたの

で分かりますが、アメリカは小学生から投資の勉強をしています。商業はまさにビジネスですから、いかに投資をしてリターンを得られるかを学びの中に取り入れていくことで、少しずつグローバルな頭はできていくと思います。子供たちへの教育でこういうことを言っています。「お金は何に使いますか？投資をしよう」、では投資を何にしようかと考えたときに何でもいいです。例えば、ウニを一個買いたいです。これも投資です。ウニを一個食べることで海藻がそこに戻ってくるかもしれない。海藻が戻ってくることで二酸化炭素を吸収するための海藻が増えて、私たちのカーボンニュートラルに寄与するかもしれない。これが投資です。必ずしも投資をするというわけではなく、皆さんが、子供たちが持っているリソースを何に投資したら社会や地域が豊かになるかということをお子たちに伝え続けています。これをやり続けていくことで、きっと彼らが水産をやりたいと思ったときに一投資家として水産に投資してもいいような人材に10年後、20年後なっているようにそれを祈りながら、願いながら、私はビジネスをして全ての事業を得たキャピタルゲインを彼らに投資をしたいということで、今全国でオーストラリアと日本国内で事業をさせていただいております。最後になりますが、私はたいした人間でもなく、八戸商業を出て良かったと思っています。ただ一つのことを集中してやり続けてきただけですので、ぜひ先生方に次の世代を担う子供たちの未来を託したいと思います。最後、もう一つだけお伝えしたいのが、今の風張教育長、大谷真樹幹事と仲がいいです。先生方から直接言えないことも伝えられる役目も果たせますので、今日大谷先生にはこの話を言ってきましたので、青森の教育をどうにかしたいということをお私経由でも大谷先生でも風張先生でも、もし何か青森県教育変えたいというのがあれば私に伝えていただければ何かしら皆さんのお力になれると思います、この場に来させていただきました。ご清聴ありがとうございました。

研究委員会報告

令和5年度 マーケティング・マネジメント分野研究委員会報告

事務局当番校 青森県立八戸商業高等学校

1 第1回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日時 令和5年4月27日(木) 13:00~15:30

場所 青森県総合社会教育センター(第3研修室)

参加者 鈴木有紀(青森商業)、長谷川善弘・西舘大輔(弘前実業)
秋田健二(三沢商業)、鍋倉哲章(七戸)、向谷地史拓(大湊)
野宮大嗣(五所川原商業)

小出健太郎・下田幸大・岩間由香子・鈴木 瞳(八戸商業)

計11名

- 内容 (1) 令和5年度年間計画について
(2) 令和5年度の研修会について
(3) 令和5年度高教研・東北商研の発表について
(4) その他

2 第2回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日時 令和5年6月29日(木) 13:00~15:30

場所 青森県総合社会教育センター(第3研修室)

参加者 中村 至(三沢商業教頭)

鈴木有紀(青森商業)、長谷川善弘・西舘大輔(弘前実業)
秋田健二・浅水伸之(三沢商業)、鍋倉哲章(七戸)、向谷地史拓(大湊)
小出健太郎・下田幸大・岩間由香子・鈴木 瞳(八戸商業)

計12名

- 内容 (1) 令和5年度高教研・東北商研の発表について
(2) 令和5年度教員対象研修会について
(3) 令和5年度高教研分科会について
(4) その他

3 第3回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日時 令和5年9月26日(火) 10:00~12:00

場所 青森県総合社会教育センター(第6研修室)

参加者 鈴木有紀(青森商業)、長谷川善弘(弘前実業)
秋田健二・浅水伸之(三沢商業)、鍋倉哲章(七戸)、向谷地史拓(大湊)
小出健太郎・下田幸大・岩間由香子・鈴木 瞳(八戸商業)

計10名

- 内容 (1) 令和5年度高教研分科会運営について(総括)
(2) 令和5年度東北商研分科会について(総括)
(3) 令和5年度教員対象研修会について
(4) その他

4 令和5年度 教員対象研修会「起業家による講演会及び座談会」

日時 令和5年9月26日(水) 13:00~15:00

場所 青森県総合社会教育センター(第6研修室)

参加者 17名(うち専門委員8名)

鈴木有紀・飯田奈緒子・今 成哲・榊 晃太（青森商業）
長谷川善弘・須藤典子（弘前実業）、志田直樹・秋田健二・浅水伸之（三沢商業）
鍋倉哲章（七戸）、向谷地史拓・工藤勝平（大湊）布施正太郎（大間）
小出健太郎・下田幸大・岩間由香子・鈴木 瞳（八戸商業）

計 17名

演 題 「地域ビジネスにチャレンジ」
～道の駅ビジネスの事例～

講 師 株式会社A-WORLD
代表取締役 古 里 宣 光 氏

5 第4回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日 時 令和5年11月30日（木）13:00～15:30

場 所 青森県総合社会教育センター（第6研修室）

参加者 中村 至（三沢商業教頭）

鈴木有紀（青森商業）、長谷川善弘（弘前実業）
秋田健二・浅水伸之（三沢商業）、鍋倉哲章（七戸）、向谷地史拓（大湊）
小出健太郎・下田幸大・岩間由香子（八戸商業）

計 10名

内 容 (1) 令和8年度高教研・東北商研の発表について
(2) 令和5年度の活動について（総括）
(3) 令和6年度の活動について（計画）
(4) 令和6年度の研修会について（計画）
(5) その他

【総 括】

今年度は、専門委員会4回と教員対象研修会を1回実施した。県高教研および東北商研での発表が割り当たっていることもあり、第2回の専門委員会までは発表者である長谷川善弘先生と西舘大輔先生を中心に、主にその発表に向けての準備、確認作業をおこなった。令和3年度から先行実施で取り組んできた「観光ビジネス」の内容はいずれの研究大会においても、今年度から開講する学校への貴重な情報提供となった。第3回、第4回の専門委員会では、今後研究する内容について協議し、研究する方向性についての確認がなされ、次年度から実際に各専門委員が授業で実践していく計画となっている。

また、商業科教員を対象とした研修会は、今年度も「起業家による講演会及び座談会」として実施した。「地域ビジネスにチャレンジ～道の駅ビジネスの事例～」と題して、株式会社A-WORLD 代表取締役古里宣光氏より講演をしていただいた。起業に至った経緯からコロナ禍を経ての現在の取り組み状況についての講演後、座談会を開催した。終了後に参加者に対して実施したアンケートでは、「STPについて具体的に知る、考える良い機会になった」「マーケティングに関する話であったが、会計分野やビジネス情報分野に関する知識がないと経営していけないと思った。大変勉強になった」など、とても参考になったという感想が非常に多かった。

ただ、参加者の少ないことが課題であり、より多くの先生方に講演を聴いていただきたいと考え、次年度は県高教研の分科会の中で実施する方向で検討している。

次年度も、専門委員の先生方と協力しながらマーケティング・マネジメント分野関連科目の指導力向上につながるような調査・研究をおこなっていききたい。

令和5年度 会計分野研究委員会報告

事務局当番校 青森県立弘前実業高等学校

1 第1回会計分野専門委員会

日時 令和5年4月27日(木) 13:00~15:30

場所 青森県総合社会教育センター(第2多目的研修室)

参加者 飯田奈緒子・吉岡香織・小野公太郎・佐藤雅哉(青森商業)、平山学(弘前実業)
田中純恵(八戸商業)、棟方明日香(三沢商業)、鈴木 佑(黒石)、清水舞子(六ヶ所)
藤田匡寿(大湊)、山下恭平(五所川原商業)、阿部義光(事務局) 計12名

内容 案件

- (1) 令和5年度年間計画について
- (2) 令和5年度の研修会について
- (3) 令和6年度東北商研大会の発表等について
- (4) その他

2 第2回会計分野専門委員会

日時 令和5年6月27日(火) 13:00~15:30

場所 青森県総合社会教育センター(第2多目的研修室)

参加者 中村 至(三沢商業教頭)
吉岡香織(青森商業)、平山学・小中喜貴(弘前実業)、田中純恵(八戸商業)
棟方明日香(三沢商業)、鈴木 佑(黒石)、清水舞子(六ヶ所)、藤田匡寿(大湊)
長谷川善弘・阿部義光(事務局) 計11名

内容 案件

- (1) 研究内容検討について
- (2) 教員対象研修会について
- (3) 県高教研分科会について
- (4) その他

3 令和5年度 教員対象研修会 「日商簿記指導力強化セミナー」

日時 令和5年8月9日(水) 10:00~15:30

場所 青森県立青森商業高等学校

参加者 飯田奈緒子・吉岡香織・佐藤雅哉・今 成哲・榎 晃太(青森商業)
佐々木郁子・小出健太郎・田中純恵・鈴木 瞳(八戸商業)
石澤加津子・村上啓子・棟方明日香・上野雄太(三沢商業)
鈴木 佑(黒石)、工藤勝平(大湊)、布施正太郎(大間)
山下恭平・横田祐美・萩原勘汰(五所川原商業)
小中喜貴・阿部義光・長谷川善弘(弘前実業) 計22名

内容 日商簿記検定指導力強化のために

- ・日商簿記検定の動向について
- ・青森県Haul-A協定について
- ・中学校の「会計教育」について

講師 日本商業教育振興会 代表理事 小島 一富士 氏

4 第3回会計分野専門委員会

日時 令和5年9月27日(水) 13:00~16:00

場所 青森県総合社会教育センター(第2多目的研修室)

参加者 中村至(三沢商業教頭)

飯田奈緒子・吉岡香織・小野公太郎・佐藤雅哉(青森商業)、小中喜貴(弘前実業)

田中純恵(八戸商業)、棟方明日香(三沢商業)、清水舞子(六ヶ所)

藤田匡寿(大湊)、山下恭平(五所川原商業)、長谷川善弘(事務局)

計12名

内容 案件

(1) 令和5年度の教員対象研修会について(総括)

(2) 令和5年度高教研分科会について(総括)

(3) 令和6・7年度県商研・東北商研全体発表について

(4) その他

5 第4回会計分野専門委員会

日時 令和5年11月24日(金) 13:00~15:30

場所 青森県総合社会教育センター(第2研修室)

参加者 飯田奈緒子・吉岡香織・小野公太郎・佐藤雅哉(青森商業)

平山 学・小中喜貴(弘前実業)、田中純恵(八戸商業)

村上啓子・棟方明日香(三沢商業)、鈴木 佑(黒石)、清水舞子(六ヶ所)

藤田匡寿(大湊)、山下恭平(五所川原商業)、阿部義光(事務局)

計14名

内容 案件

(1) 令和5年度の活動について(総括)

(2) 令和6・7年度県商研・東北商研全体発表について

(3) 令和6年度の活動について(計画)

(4) 令和6年度の教員対象研修会について

(5) その他

【総括】

今年度は、計4回の専門委員会と教員研修会を1回実施した。研究テーマを「主体的で深い学びを実現させる指導と評価の一体化」とし、主に令和6年度の東北商研大会の発表を見据えた研究内容検討、商業科教員を対象とした研修会の実施と内容検討、県高教研分科会の内容検討をおこなった。今年度より導入したリーダー制を生かし、前向きな研究委員会となった。

研究発表の方向性が定まり、今年度中に各校でワークシートを用いた授業を展開し、アンケートをまとめることになっている。いよいよ準備に取りかかる段階となった。

「生徒を主語とし、会計分野を通して我々に何ができるか」を議論・検討できる委員会活動ができるよう引き続き取り組んでいきたい。

令和5年度 ビジネス情報分野研究委員会報告

事務局当番校 青森県立三沢商業高等学校

1 第1回ビジネス情報分野専門委員会

(1) 日 時 令和5年4月25日(火) 13:00～15:30

(2) 会 場 青森商業高等学校 会議室

(3) 出席者 ビジネス情報分野専門委員および事務局

名久井農業高校：教頭 下道しゅ美

青森商業高校：教諭 伊藤陽子 教諭 山内宗尊 教諭 伊藤大貴

弘前実業高校：教諭 小田桐正巳 教諭 西舘大輔 教諭 柴崎健太郎

八戸商業高校：教諭 藤ヶ森誠司 教諭 三橋壮大

七戸高校：教諭 須藤慎二

鱒ヶ沢高校：教諭 奈良靖宏

大間高校：教諭 布施正太郎

三沢商業高校：教諭 榊 祥吾 教諭 山田真菜

事務局：教諭 太田菜穂子(三沢商業)

出席者 15名

(4) 内 容

(ア) 令和5年度年間活動計画について

(イ) 教職員対象研修会の研修内容について

(ウ) 地区別情報処理技術者試験対策講座について

(エ) 令和6年度全国商研、東北商研発表について

(オ) その他

2 第2回ビジネス情報分野専門委員会

(1) 日 時 令和5年7月3日(月) 13:00～15:30

(2) 会 場 三沢商業高等学校 情報処理室

(3) 出席者 ビジネス情報分野専門委員および事務局

名久井農業高校：教頭 下道しゅ美

青森商業高校：教諭 伊藤陽子 教諭 山内宗尊 教諭 伊藤大貴

弘前実業高校：教諭 西舘大輔 教諭 柴崎健太郎

八戸商業高校：教諭 藤ヶ森誠司 教諭 三橋壮大

七戸高校：教諭 須藤慎二

鱒ヶ沢高校：教諭 奈良靖宏

大間高校：教諭 布施正太郎

三沢商業高校：教諭 榊 祥吾 教諭 山田真菜

事務局：教諭 太田菜穂子(三沢商業)

出席者 14名

(4) 内 容

(ア) 令和5年度教職員対象研修会の研修内容について

(イ) 情報処理技術者試験対策講座の講義内容について

(ウ) 令和6年度全国商研、東北商研について

(エ) その他

3 令和5年度ビジネス情報分野科目指導法研修会

- (1) 日 時 令和5年9月29日(金)
- (2) 場 所 青森県立弘前実業高等学校 2階「プログラミング室」
- (3) 内 容 テーマ『プログラミング室活用』
- (ア) 既存環境の理解
- (イ) 座学で知識を習得
- (ウ) 実際にPCで設定作業を実習してみる
- (エ) インシデントの対応
- (オ) テスト
- (4) 講 師 株式会社ビジネスサービス弘前支店 玉熊 圭一 氏
- (5) 参加者 7校22名(うち専門委員13名)
- 名久井農業高校:教頭 下道しゅ美
- 青森商業高校:教諭 伊藤陽子 教諭 山内宗尊 教諭 菊地礼剛
教諭 伊藤大貴 実習講師 下山優莉
- 弘前実業高校:教諭 都谷森宗一 教諭 小田桐正巳
教諭 西舘大輔 教諭 柴崎健太郎
- 八戸商業高校:教諭 畠山行雄 教諭 天羽英紀 教諭 三橋壮大
- 七戸高校:教諭 須藤慎二 教諭 笹倉正子 教諭 西股 舞
- 大間高校:教諭 布施正太郎 実習講師 畑 東明
- 三沢商業高校:教諭 榊 祥吾 教諭 山田真菜 臨時講師 上野雄太
- 事務局:教諭 太田菜穂子(三沢商業)

4 第3回ビジネス情報分野専門委員会

- (1) 日 時 令和5年11月14日(火) 13:00~15:30
- (2) 会 場 青森県総合社会教育センター(第6研修室)
- (3) 出席者 ビジネス情報分野専門委員および事務局
- 名久井農業高校:教頭 下道しゅ美
- 青森商業高校:教諭 山内宗尊 教諭 伊藤大貴
- 弘前実業高校:教諭 小田桐正巳 教諭 西舘大輔
- 八戸商業高校:教諭 藤ヶ森誠司 教諭 三橋壮大
- 七戸高校:教諭 須藤慎二
- 鱒ヶ沢高校:教諭 奈良靖宏
- 大間高校:教諭 布施正太郎
- 三沢商業高校:教諭 榊 祥吾 教諭 山田真菜
- 事務局:教諭 太田菜穂子(三沢商業) 出席者 13名
- (4) 内 容
- (ア) 令和5年度の振り返りについて
- (イ) 令和6年度の活動内容について
- (ウ) その他

【総括】

3回開催された専門委員会では委員で情報を共有することができ、充実した活動を行うことができた。高教研分科会では共通テストの「情報」についての内容と、専門科目である「情報処理」を比較した。不足している内容はあるのか、代替科目としての意味はどこにあるのか、教科書の内容を実施できているかなど、商業科としてやるべきことについて新堂指導主事よりご講義いただいた。グループディスカッションでは、普通高校の「情報Ⅰ」と商業科目「情報処理」の差をどうつけていくのか、専門科目「情報処理」の社会に求められる学習内容と活用についてKJ法を用いて発表を行った。

また今年度はビジネス情報分野科目指導法研修会を弘前実業高校で実施し、科目「ネットワーク管理」で示されている情報セキュリティ管理や情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理に関する内容を株式会社ビジネスサービス弘前支店の玉熊圭一氏にご講義いただいた。実習室の設計に携わった方から、ネットワーク設定作業について一から教わる事ができたこの研修会は、とても貴重な体験であり、参加された先生方から好評であった。今後、生徒にしっかりと落とし込めるよう、指導に役立てたい。

さらに高度資格取得に対する生徒のニーズに柔軟に対応するため、津軽地区と県南地区で開催している生徒向けの情報処理技術者試験対策講座を実施した。講義内容はITパスポートとセキュリティマネジメントの内容をそれぞれ県南地区と津軽地区で分けて行い、計算問題をはじめ生徒が間違いやすい分野を取り入れ、実施することができた。

来年度はさらに情報スキルを高めるための研修会を実施したいと考えており、情報活用能力育成のため、RESASやe-Statなどを活用するための内容を検討している。専門委員会の中で情報処理教育に携わる人材が不足しているという声が多かったため、できるだけ多くの方々に興味を引くような魅力のある研修を展開し、指導できる教員の裾野を広げていきたい。

令和6年度の発表に向けて、各校にアンケート調査や実習の記録等を依頼し、資料として使っていく予定である。令和7年も県商研の発表と東北商研の全体会の発表があるが、令和6年の発表を受けてブラッシュアップしたものを作成したい。



令和5年度 教育課程等研究委員会報告

事務局当番校 青森県立青森商業高等学校

1 第1回教育課程等研究委員会

日 時 令和5年6月22日(木) 10:00～12:00

場 所 青森県立青森商業高等学校(プログラミング室)

参加者 委員長 阿部靖彦(八戸商業高校 教頭)

谷村 学・菊地礼剛(青森商業高校)、太田菜穂子・平野博文(三沢商業高校)

岩間由香子・藤ヶ森誠司・岩藤充宏(八戸商業高校)

都谷森宗一・長谷川善弘・西舘大輔(弘前実業高校)

計11名

内 容 (1) 年間計画について

(2) 情報交換

①令和6年度教育課程表について

②学習評価の校内規程について

③賢者について

(3) 指導・助言

青森県総合学校教育センター

産業教育課 指導主事 新堂満香 氏

(4) その他

【総括】

今年度より事務局が変更となったが、昨年同様に研究テーマを「指導と評価の一体化のための学習評価」とし、1回実施することができた。当初の予定では2回実施予定であったが、各校との情報交換がメインとなる委員会であるため、委員と検討した結果、今年度は1回のみ開催とした。今後も状況に応じて年1回程度の開催で実施したいと考えている。

今回の情報交換では、教育課程表や学習評価において、各校の実情や商業科としての今後の方向性について内容の濃い議論を深めることができた。

指導主事からは、毎時間ワークシートを評価している学校があるが、単元指導計画を作成することで、進度に応じて適切なタイミングで実施することが望ましいといった、評価・成績等についての助言を得ることができた。

今回の委員会で情報共有した内容について、全国の指導主事等に聞いていただけることとなった。来年度の教育課程等研究委員会で評価や成績のつけ方等について、情報共有できたらと考えている。

各校との情報交換等を通して、各校の実態に即した「指導と評価の一体化のための学習評価」の改善につながる研究活動ができたものとする。来年度は、学習指導要領改訂から3年が経過するため、今後の教育課程表についての検討、単元の指導と評価の計画や、総合的な探究の時間における単元配列表等について情報交換等ができればと考えている。

令和5年度 総合的科目研究委員会報告

事務局当番校 青森県立青森商業高等学校

1 第1回総合的科目研究委員会

日時 令和5年4月20日(水) 13:30~15:30

場所 青森県立青森商業高等学校(会議室)

参加者 委員長 土岐 一行(三戸高等学校教頭)

長谷川善弘・西館大輔(弘前実業高校)、石澤加津子・太田菜穂子(三沢商業高校)

天羽英紀・岩間由香子(八戸商業高校)、鎌田吉雄(黒石高校)

谷村 学・高橋恭一・飯田奈緒子・菊地礼剛・榊 晃太・鈴木有紀(青森商業高校)

計14名

内容 (1) 年間計画について

(2) 昨年度の確認について

(3) 令和5年度研究内容について

(4) 令和5年度県及び東北高教研分科会発表について

(5) その他

2 第2回総合的科目研究委員会

日時 令和5年6月22日(木) 13:00~15:00

場所 青森県立青森商業高等学校(会議室)

参加者 委員長 土岐 一行(三戸高等学校教頭)

長谷川善弘・西館大輔(弘前実業高校)、秋田健二・太田菜穂子(三沢商業高校)

天羽英紀・岩間由香子(八戸商業高校)

谷村 学・高橋恭一・飯田奈緒子・菊地礼剛・榊 晃太・鈴木有紀(青森商業高校)

計13名

内容 (1) 県生徒商業研究発表大会について

(2) 令和5年度研究内容について(各校進捗状況確認)

(3) 令和5年度県及び東北高教研分科会発表について

(4) その他

3 第3回総合的科目研究委員会

日時 令和5年11月17日(金) 13:30~15:30

場所 青森県立青森商業高等学校(会議室)

参加者 長谷川善弘・西館大輔(弘前実業高校)、浅水伸之・太田菜穂子(三沢商業高校)

天羽英紀・岩間由香子(八戸商業高校)、川守田凜(日本旅行東北青森支店)

高橋恭一・飯田奈緒子・榊晃太・鈴木有紀(青森商業高校)

計11名

内容 (1) 令和5年度東北商研大会報告について

(2) 令和6年度県生徒商業研究発表大会について

(3) 令和5年度ベンチャー事業台湾研修について

(4) 令和6年度活動計画について

(5) その他

【総括】

研究委員会は計画通り3回実施することができた。研究テーマを「総合的科目の学びをとおしたグローバル人材の育成」とし、青森商業高校の庁内ベンチャー事業「青商ビジネスチャレンジwith台湾事業」の中で、県内各商業高校が連携しながら、グローバルな感覚を有した人材を育成することを目的に活動した。

研究委員会では、県内各商業高校が連携して取り組むために、商業高校ビジネスプロジェクトの具体的な取組として7月の「台湾祭」、12月の「海外研修」等の具体的な内容について情報共有を行い、生徒による実践を行った。また、それらの内容について、県高等学校商業教育研究大会及び東北六県商業教育研究大会分科会にて高橋教諭に発表していただき、本研究委員会の活動内容について広く周知することができた。

今年度でベンチャー事業は終了するため、来年度は新たな研究課題を設定し、研究を進めていく予定である。今年度の実践活動を生かし、各校の特色を活かしながら引き続き研究活動に取り組んでいきたい。

令和5年度 研究誌編纂委員会

事務局校 青森県立青森商業高等学校

1 第1回研究誌編纂委員会

日 時 令和5年6月8日(木) 13:30~15:30

場 所 青森商業高等学校 会議室

参加者 西舘大輔(弘前実業)、鈴木 瞳(八戸商業)、山田真菜(三沢商業)
奈良靖宏(鯨ヶ沢)、向谷地史拓(大湊)、山田博規(千葉学園)
榊 晃太(青森商業)、高橋恭一(青森商業)

計8名

内 容 (1) 令和5年度研究誌の編集方針について
(2) 「青森商研NEWS」の発行について
(3) 中学校向けパンフレットについて
(4) その他

2 第2回研究誌編纂委員会

日 時 令和5年11月9日(木) 13:30~15:30

場 所 青森商業高等学校 会議室

参加者 西舘大輔(弘前実業)、鈴木 瞳(八戸商業)、山田真菜(三沢商業)
奈良靖宏(鯨ヶ沢)、向谷地史拓(大湊)、山田博規(千葉学園)
榊 晃太(青森商業)、高橋 恭一(青森商業)

計8名

内 容 (1) 中学校向けパンフレットについて
(2) 商研ニュースについて
(3) 研究誌MERCURYについて
(4) その他

3 発行物について

- (1) 「君の未来をひらく商業教育」 令和5年7月21日発行
- (2) 「青森商研NEWS」
 - ア 夏号 令和5年7月19日発行
 - イ 秋号 令和5年11月10日発行
 - ウ 冬号 令和6年1月31日発行
- (3) 「2023青森商業教育MERCURY」 令和6年3月末 発行予定

【総括】

多くの先生方のご協力のお陰で、県内の商業教育に関する情報、生徒・教職員から貴重な原稿を快く提供いただいたことに心から感謝申し上げます。

中学生向けのパンフレット「君の未来をひらく商業教育」について、起業家への取り組みの内容を最新情報で掲載することができた。予算の関係で発行部数を昨年度より600部数減して、2,500部数を発行した。

商研NEWSについて、年3回発行した。秋号の内容であるインターンシップの感想について、全ての県立商業高校を掲載した。発行日を決定しているが、各自が日々の校務があり編纂だけの仕事をしている訳ではないので、発行日はあくまでも目安としている。

研究誌MERCURYについて、予算の関係で発行部数を昨年度より50部数減して、240部数を発行した。

中学生向けパンフレット及び研究誌MERCU R Yの発行部数は、予算によって発行部数の減数が必要になってくる。

今後も既存のスタイル、新しい表現方法を織り交ぜながら情報発信を続けていきたいと考えている。また、新しい情報はできるだけタイムリーに提供できるように対応していきたい。多くの先生方からのアイデアや必要に応じて生徒の意見も取り入れながら、より一層商業教育のPRに努めていきたいと考えている。

令和5年度 高大連携推進事業の取り組み

令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立青森商業高等学校
事 業 担 当 者 名	教諭 平川 正晃
事 業 (連 携) 名 称	情報処理科3年生「課題研究」における青森大学との連携事業

事業報告

1 目的

・情報処理科の課題研究におけるICTを活用した研究活動として、Webデザインに関する情報ビジネスについて、大学教員と地元情報ビジネス企業のエンジニアより、直接、生徒が取り組んでいるWebサイトの効果的な運営方法やWeb技術の利用方法について指導をいただくことで、生徒の研究活動の課題解決につなげる。

2 実施日時・内容

○実施日時

- ・7月19日(水) 13:35～15:25 情報実習室3 (ZOOMで実施)

講義: Webビジネスの実情とWeb技術による課題解決について

青森大学ソフトウェア情報学部 教授 角田 均 氏
ハコレコドットコム株式会社 山田 晴香 氏

- ・9月13日(水) 13:35～15:25 青森商業高校 選択教室2-A

協議: 課題研究Webサイト運営班の検証活動への助言指導

青森大学ソフトウェア情報学部 教授 角田 均 氏
ハコレコドットコム株式会社 山田 晴香 氏

○実施内容

- ・情報処理科(生徒4班、23名)に対して、を青森大学ソフトウェア情報学部(角田教授)より地元企業の情報ビジネス担当者を招いてWebデザインビジネスについて実情からWeb技術についてリモート講義で学ぶ。



(紹介されたWebビジネス紹介のスライド)

- ・情報処理科の課題研究サイト運営班が、CMSによって編集したWebサイトについて、閲覧者目線での情報の配置や戦略的なデザイン、コンテンツとして充実した掲載内容が必要であることを学んだ。さらに、Webページ閲覧状況の検証についてデータの解析から向上させる指標について助言をいただいた。



(課題研究サイトの説明)



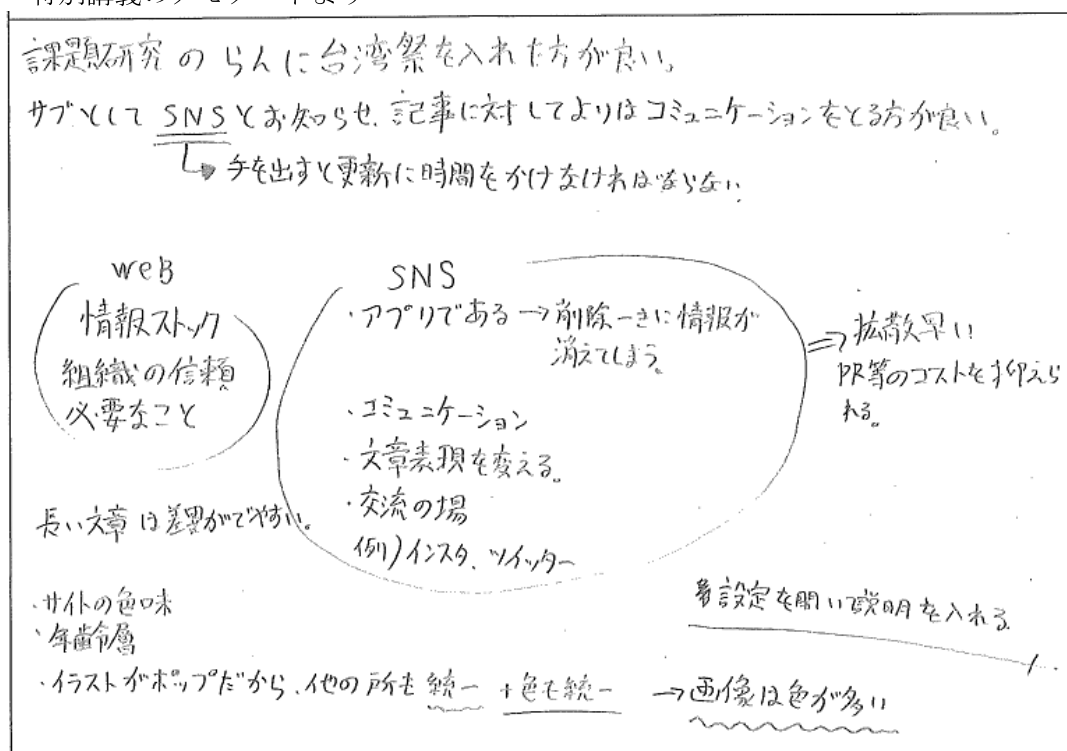
(データ解析の解説と事例紹介)

3 成果（生徒の反応や効果・課題など）

・1回目の特別講義では、情報処理科の4つの班がWebビジネスの実情を知ること、情報ビジネスの学習との関連を理解でき、必要な情報技術を身につけたいと感想を残した生徒が多かった。特に、Webサイトを運営している2つの班が研究活動のヒントを得ようとWeb技術に関する質問を投げかけるほど、積極的であった。

・2回目の特別講義では、作成したWebサイトを説明して、今取り組んでいる中での課題をプレゼンした。説明内容を検討して、現状での課題を設定して、プレゼンテーション資料を作成して説明することで、研究活動を見直すことができた。できること、したいこと、できていないことを区別ができるようになった。また、いただいたアドバイスの要点を次のように記録できた生徒がいた。



～特別講義のメモノートより～



今回の特別講義によって、生徒が課題研究を進めるにあたり、情報処理科として情報ビジネスの活動をすることや職業スキルを高めることなどを感じた生徒が多かった。そして、課題解決の具体的な行動をすることが具体的にイメージできたと思われる。

次年度に向けて、情報処理科の生徒が、情報処理の学習を高めるためにも、高大連携で生徒の研究活動への支援を継続いただけるようお願いしたい。

令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立青森商業高等学校
事 業 担 当 者 名	三浦 万蔵
事 業 (連 携) 名 称	課題研究における青森中央学院大学との連携事業
<p>事業報告</p> <p>1 目 的</p> <p>高大連携協定を締結している青森中央学院大学の教育資源を活用させていただき、普段の高校の授業ではできない経験を積み、多くの気づきを得ることで、主体性と学習意欲の向上を図り、より深い学びへとつなげる。青森県にいながら世界とつながるグローバルな視点を持ち、将来は青森県の産業の発展に貢献できる人財を育成する。</p> <p>2 実施日時・内容</p> <p>6月16日 青森中央学院大学留学生との意見交換</p> <p>6月29日 第1回オンライン交流 「県産品スイーツのプレゼンテーション」</p> <p>8月31日 第2回オンライン交流 「県産品スイーツの感想及びタイスイーツのプレゼンテーション」</p> <p>11月2日 第3回オンライン交流 「タイスイーツの感想及び両校の文化祭について」</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>留学生からの事前指導の様子 青森商業校（商業実習室）</p> </div> <p>タイと日本のスイーツについて様々なデータを収集し、タイの高校生とオンラインで交流し、大学生や留学生にアドバイスをもらいながら、タイへの輸出商品や日本への輸入商品の検討会を実施した。今年度は青森中央学院大学木田先生、佐川先生の協力でタイ・チェンマイのレジーナ・シェリー・カレッジとのオンライン交流会を3回実施することができた。また、スイーツ選定のアドバイス及び基本的タイ語についてタイからの留学生から指導を受けることができ、交流会の場面でも通訳をしていただきスムーズに交流会を実施することができた。サンプルスイーツを相互に交換することができたが、販売までは実現することができなかった。</p> <p>3 成果（生徒の反応や効果・課題など）</p> <p>タイについて調べたり、オンライン交流会で実際にタイの高校生と交流することによって、生徒がタイに興味を持ち、外国へ目を向けるきっかけとなった。国際交流の楽しさや難しさを実感したようである。また、海外への荷物の発送方法や手順などを学び、生徒自身が積極的に班員同士で考察しながら、より良いものを作成できるように工夫していた。次年度もレジーナ・シェリー・カレッジとの交流をしながら、今年度実施できなかったタイへの輸出およびタイからの輸入そして販売までを実施できるように一歩進んだ活動にしていきたい。また今年度生徒自身が壁にぶつかった海外から商品を輸入するための手続きや手法等についての講義を聞きたい。今後は今年度のプログラムを振り返り、より質の高い高大連携を目指して計画的に活動を進めていきたい。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>オンライン交流会の様子 青森中央学院大学（2号館）</p> </div>	

令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立弘前実業高等学校
事 業 担 当 者 名	小田桐 正巳
事 業 (連 携) 名 称	弘前大学 (りんご／さくら和紙研究会) 紙漉体験

事業報告

1 目 的

りんご剪定枝を使用した和紙を作成する紙漉体験をとおして、地域資源について学び、紙製品を活用したビジネスについて考えることができる。また、青商ビジネスチャレンジ with 台湾において、現地でこの和紙を使用した卓上カレンダーを試作品としてPR活動を行う。

2 実施日時・内容

令和5年8月8日(火)～10日(木) 情報処理科3年(7名)

国立大学法人弘前大学教育学部技術教育講座 木材加工研究室 准教授 廣瀬 孝 氏

国立大学法人弘前大学 研究・イノベーション推進機構 URA 室 特任講師 山科則之 氏

- ①パルプ浸水／ビーター&打開／ネリ準備&説明
- ②りんご剪定枝パルプの攪拌、ネリ材準備、準備完了後、試し漉き開始、乾燥
- ③紙漉～脱水～乾燥

《 紙漉体験の様子 》



3 成果 (生徒の反応や効果・課題など)

3日間、班員7名で紙漉きを行い、今回の体験をとおして、紙の性質や弘前藩と紙の歴史、長慶天皇の潜幸伝説について知ることができ、紙の魅力や可能性を強く感じる事ができた。今年度は青商ビジネスチャレンジ with 台湾において、この和紙を使用した卓上カレンダーを試作品として現地でPR活動を実施する予定であり、印刷についてはアサヒ印刷様に依頼している。卓上カレンダーのデザインのデータ作成では津軽地方の四季折々の画像などを使い、青森県に来る海外の方が一人でも増えるよう、生徒が試行錯誤してデータ作成に取り組んだ。

令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立弘前実業高等学校
事 業 担 当 者 名	西 舘 大 輔
事 業 (連 携) 名 称	情報処理科特別講座
<p>1 目 的</p> <p>大学での学びに繋げるため、情報に関するこれまでの学習内容がどのように発展していくのかを体験し、さらに最新の情報技術やトレンドに触れることで、生徒の主体的な学びの促進及び進路決定の一助とする。</p> <p>2 実施日時・内容</p> <p>令和6年2月22日(木) 8:50～15:15 情報処理科2年生(37名)</p> <p>講師：青森大学ソフトウェア情報学部 教授 角田 均 氏 教授 黒田 茂 氏 (リモート) 教授 下條 真司 氏 (リモート) 准教授 大島 和裕 氏 (リモート) 准教授 藤澤 日明 氏</p> <p>1 時間目 ガイダンス(角田教授)</p> <p>2 時間目 大学ミニ講義体験 生成 AI の利活用について + 実習・演習(藤澤准教授)</p> <p>3 時間目 大学ミニ講義体験 生成 AI の利活用について + 実習・演習(藤澤准教授)</p> <p>4 時間目 最新の話、トピックス(下條教授)</p> <p>5 時間目 統計学、データ解析、ビッグデータの实習・演習(大島准教授、黒田教授)</p> <p>6 時間目 統計学、データ解析、ビッグデータの实習・演習(大島准教授、黒田教授)</p> <p>3 成果 (生徒の反応や効果・課題など)</p> <p>これまでは1つのテーマを深掘りする講義を依頼していたが、今年度より実施内容を大幅に見直し、上記内容にある幅広い視野に立った講義をして頂いた。また、進路決定が近づいている時期に、大学でどのような学びをするのかを知る貴重な機会となった。</p> <p>大学ミニ講義体験では、生成 AI について講義をして頂いた。使用するに当たってのメリットとデメリットについての説明があった。広告の実際事例を取り上げ、身近に生成 AI 技術が使われていることや実習を通して、生成 AI 活用時に注意すべきことなどを学ぶことができた。</p> <p>インターネットと科学の最新動向では、そもそも「インターネットとは何か」から始まり、最新の情報技術がビジネスシーンでどのように活用されているのかを知ることができた。</p> <p>統計学、データ解析、ビッグデータの实習では、来年度の『課題研究』を見据え、データ処理や分析について Google Forms を使ってアンケート調査を実施。アンケート結果を集計することで対象者の特徴や傾向を把握できることを学んだ。グループワークでは、ある町に関わるテーマに基づいて、RESAS を活用したデータ分析を行った。</p> <p>特別講座を通じて、これまでの学習の繋がりとこれからの学習にどう取り組めば良いのか、理解するとともに情報処理に関する幅広い知識・技術を身に付けることができた。</p>	



《特別講座 生徒のメモ用紙より抜粋》

Aさん (2・3時間目 生成AIの利活用について)

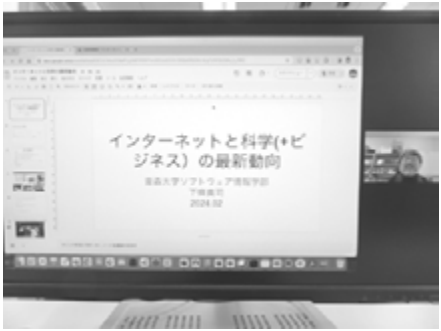
AI (人工知能) が目指すもの。
 大抵の事人間と同じ答えを機械的に自動的に出してくれる。
 一時的な意見・常識的なルールを学習。
 人間の代わり、人間の上回りが理想。
 (人間を超えるものを生み出すのは理想外)

AIを作業的に重要な学習データが要する。
 自分の使いやすいシステムを選ぶ+組み合わせる。
 △文章作成やプログラミングは得意、調べもの(リサーチ)は苦手。
 AIは明確に答えがない質問が苦手。
 自信満々に答えても正しいか分からない。→疑いの目を向け。
 だから私たちのヒントになれば良いと答えて、
 きっかけづくりをする。
 ・個人情報を書けない。

Bさん (4時間目 最新の話、トピックス)

インターネットの特徴
 パケット交換 + 電話 = 宅電便
 アドレス、ドメイン名、URL
 標準化 = プロトコル
 米国の大学、研究所の研究から始まった
 オープン、ベストエフォード

すべての人がインターネットを使っている
 ところまで切り離せない
 ↓
 だから上手く活用しよう!



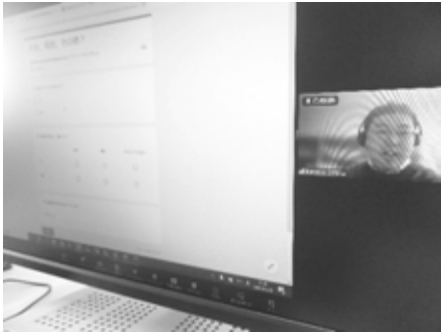
C君 (5時間目 統計学、データ解析、ビッグデータの実習・演習)

誰もが無意識にデータを解析している
 データのように利用するの
 調査票 → 生データ → 集計表 → グラフ

I 企画
 内容の決定
 対象の決定

II 実施
 実査
 ↓
 データ作成

III 評価
 集計・分析
 ↓
 調査報告の作成







D君 (6時間目 統計学、データ解析、ビッグデータの実習・演習)

データ解析 → なぜ? → 別の角度でデータを分析
 ↓
 これを繰り返すことで新たな発見があった
 全体像の把握に近づく。
 ↓
 データサイエンスの面白さ


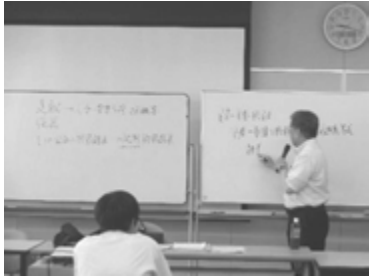



実習では、生徒同士でグループ学習する場面もあり活発な授業となった。処理結果をお互いに見せ合ったりすることで、意見の共有や他者の考えに触れる時間にもなった。
 次年度以降も情報技術の進展に注視しながら、その時々に応じた最新トレンドや実例を取り入れながら生徒の「主体的で対話的な深い学び」に繋げていきたい。




令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立弘前実業高等学校
事 業 担 当 者 名	阿部 義光
事 業 (連 携) 名 称	弘前大学との高大連携推進事業 (学生による特別授業)
<p>事業報告</p> <p>1 目 的</p> <p>商業科目『簿記』の指導法について、大学で「商業科教育法」を学ぶ学生が、その学習成果として実際に高校の現場で授業を実践することを通して、教科の目標である「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」一助とする。</p> <p>2 実施日時・内容</p> <p>日 時 令和6年2月20日 (火) 4時間目 (11:50～12:40)</p> <p>テーマ 1年間の学習を振り返る ～簿記すごろく～</p> <p>対 象 商業科1年 40名</p> <p>内 容 弘前大学2年生、3名の学生による特別授業を実施した。「1年間の簿記の学びを振り返る」というテーマのもと、学生が作成したすごろくを使った学習を4人1組で行った。スタートの仕訳は4人共通で、以降は一人ひとりが出た目に沿って取引を仕訳し、ゴールした順に最後の仕訳を行い、財務諸表を完成させるという展開だった。</p> <div style="float: right; text-align: center;">  </div> <p>3 成果 (生徒の反応や効果・課題など)</p> <p>初めての取り組みだったため、最初は戸惑いを感じていたようであったが、お互いにわからないところを相談したり、学生に積極的に質問するなど、生徒は意欲的・主体的に取り組んでいた。生徒からは「本当に楽しかった。間違いもあったので、きちんと解けるようになりたい」「難しかったけど、協力してしっかりと考えることができた」「難しい問題も教えてもらいながら真剣に解くことができた」「復習をしっかりとしようと思った。学生の方が丁寧に教えてくれたので正しい仕訳ができた」などの感想が挙げられ、興味を持ち積極的にグループワークに取り組んだことがうかがえた。また、学生にとっても教材の改善点に気づく機会となった。</p> <p>今年の学習内容を振り返ることができ、来年度の学習に向けてよい刺激となり、学生、生徒両者に実りある時間になったと感じている。</p> <p>【授業の様子】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	

令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立八戸商業高等学校
事 業 担 当 者 名	教諭 鈴木 瞳 教諭 佐々木 郁子 教諭 岩間 由香子
事 業 (連 携) 名 称	財務会計Ⅱ選択者 (21名) の財務会計論の学習
<p>事業報告</p> <p>1 目 的</p> <p style="padding-left: 20px;">未来のスペシャリスト育成のため、大学と連携を図ることでより高度な専門知識を学ぶとともに、地域産業に貢献できる人財育成を図る。</p> <p>2 実施日時・内容</p> <p style="padding-left: 20px;">対 象 : 財務会計Ⅱ選択者 (21名)</p> <p style="padding-left: 20px;">内 容 :</p> <p style="padding-left: 40px;">8月 2日 (水) 9 : 00 ~ 12 : 00 「キャッシュ・フロー計算書」 八戸学院大学 准教授 幸田 威久矢 氏</p> <p style="padding-left: 40px;">8月 3日 (木) 9 : 00 ~ 12 : 00 「連結財務諸表の作成」 八戸学院大学 教 授 田中 哲 氏</p> <p>3 成 果 (生徒の反応や効果・課題など)</p> <p style="padding-left: 20px;">1日目はキャッシュ・フロー計算書について学んだ。キャッシュ・フロー計算書の必要性について、企業が黒字計上にもかかわらず倒産している理由から分かりやすく説明していただいた。キャッシュ・フロー計算書を作成する演習では、直接法と間接法での表記の違い、調整計算の構造等、キャッシュ・フロー計算書が作成できるだけではなく、どのように関連しているのかを理解することができた。講義後半ではキャッシュ・フローの類型を基に、実際の企業のキャッシュ・フロー計算書から優良企業なのか、成長企業であるのか、衰退企業であるのかを実際に確認することができた。キャッシュ・フロー計算書を見るだけでその企業がどのような状態なのかを判断できることに、生徒は感心している様子だった。</p> <p style="padding-left: 20px;">2日目は連結財務諸表について学習した。連結財務諸表は昨年度「財務会計Ⅰ」で基本的な内容を学習しているが、苦手意識を持っている生徒が多い単元である。講義の冒頭では連結財務諸表の必要性について身近な企業を例に用いて説明していただき、支配獲得日、1年目、2年目と段階的に説明をしていただいたことで、理解を深めることができた。</p> <p style="padding-left: 20px;">今回の講義でキャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表それぞれの財務諸表が果たす役割や作成方法、そして活用のしかたについても学ぶことができ、大変有意義な講義であった。</p> <p style="margin-top: 20px;">《活動の様子》</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>	

令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立八戸商業高等学校
事 業 担 当 者 名	教諭 鈴木 瞳 教諭 岩間 由香子
事 業 (連 携) 名 称	商業科「広告と販売促進」における八戸学院大学との連携事業
<p>事業報告</p> <p>1 目 的</p> <p style="padding-left: 20px;">商品の特性を効果的に伝え、理解してもらうための方法を学び、商品と顧客のミスマッチを防ぐためにどのような準備をするべきかを習得するため八戸学院大学の教授を招聘する。</p> <p>2 実施日時・内容</p> <p style="padding-left: 20px;">対 象 : 3学年商業科 広告と販売促進 受講生徒(67名)</p> <p style="padding-left: 20px;">内 容 : 講師 八戸学院大学 教授 堤 静子 氏</p> <p style="padding-left: 40px;">第1回 令和5年 9月 5日(火) 5、6校時 「4Pステートメントとポジショニングマップについて」</p> <p style="padding-left: 40px;">第2回 令和5年 9月12日(火) 5、6校時 「商品販売までの具体的準備計画の策定について」</p> <p>3 成 果 (生徒の反応や効果・課題など)</p> <p style="padding-left: 20px;">今年度も、八戸学院大学地域経営学部の堤教授にマーケティング関連の特別授業を実施していただいた。どのような視点で商品開発を行う必要があるのか、開発した商品をどのように流通させていけばよいのかを、理論に基づいて講義をしていただいた。</p> <p style="padding-left: 20px;">1回目の講義では商品販売に向けたマーケティング理論について学んだ。特に、開発商品の特性を4Pのフレームワークに当てはめ、類似商品との比較を通して商品の位置づけをポジショニングマップというグラフ上に表示した。位置づけを行うことによって、視覚的に開発商品の強みを明確にすることができた。この考え方は実際の商品開発の際、企画案の説明や消費者への対面販売の際に有効であると生徒は実感していた。</p> <p style="padding-left: 20px;">2回目の講義では、1回目の4Pステートメントによる商品評価の結果を基に、商品販売に向けた準備計画について講義をしていただいた。また、4Pと4Cの違いやプロダクトアウトとマーケットインの関係性についても教えていただいた。生徒はグループの班員と協力し、他の商品との違いから、どのように販売促進していけばよいのか試行錯誤していた。</p> <p style="padding-left: 20px;">特に、今回はターゲットの絞り方や商品の特性を引き立たせる販売手段、ターゲットへのアプローチのためのキャッチフレーズの作り方を説明していただいた。ターゲティングによって、商品の効果的な販売を行うためにはどのような手段が必要なのかを考える機会となった。今回の講義も生徒が効果的な販売促進を考えるうえでとても有意義な講義となった。</p> <p>《 活動の状況 》</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>	

令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立八戸商業高等学校
事 業 担 当 者 名	教諭 藤ヶ森 誠司
事 業 (連 携) 名 称	情報処理科 I T 講座

事業報告

1 目的

未来のスペシャリスト育成のため、大学と連携を図ることで、IT業界における職業理解を深め、情報化社会において必要な知識と技術について学ぶとともに、地域産業に貢献できる人材育成を図る。

2 実施日時・対象・講師・内容

日時：1回目 10月24日(火) 8:55～10:45 ※リモートで実施

2回目 11月 7日(火) 8:55～10:45 ※リモートで実施

対象：情報処理科 2年(39名)

講師：八戸工業大学 工学部工学科システム情報工学コース 教授 小久保 温 氏

内容：1回目「IT業界の職業と今後の動向」

(1) ITのトレンド (2) メタバース (3) 生成AI (4) 情報系の進路

2回目「web技術」

(1) WWW (2) 検索エンジン (3) ネットで稼ぐ (4) データ活用と倫理

3 成果(生徒の反応や効果・課題など)

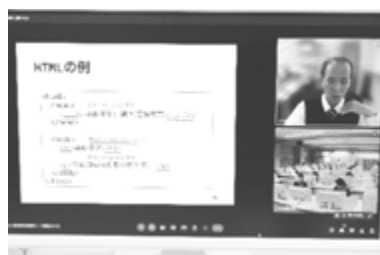
本校情報処理科の進路において、情報系の進路を選択する生徒が少ないという課題があることから、情報分野の最新の知識を学ぶことで情報系の進路を選択する生徒を増加させたいと考え、情報処理科の2年生を対象に「IT講座」と題して講義を2回実施した。

講座の内容は、メタバースやAIのできる未来と負の部分、検索エンジンやネット広告の仕組みなど、情報分野の最新かつ多岐にわたる内容をご紹介いただいた。本校の情報処理科では、2年生から課題研究を履修し、グループ単位で学科の特色を活かした独自のテーマを設定して取り組んでいることから、最新の情報に触れることができた講義内容は、特に興味を持って聞き込む生徒の様子が見られた。




講義後の生徒のアンケートから、「学校の授業では学ぶことができないようなWEBの知識、IT業界の出来事、ネットワークやコミュニケーションのスキルなどを学ぶことができた」、「IT業界の流れは他の業界に比べ段違いに早く、今後どのような変化していくのか興味を持った」という感想があった。

今後も地域の大学や企業との連携をより一層深めながら、地域産業の将来を担う生徒の興味関心を高められるように、生徒が最新の知識を学ぶ機会を設けていきたい。

<活動の様子>



令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	青森県立八戸商業高等学校
事業担当者名	教諭 藤ヶ森 誠司
事業（連携）名称	情報処理科データサイエンス講座
<p>事業報告</p> <p>1 目的</p> <p>未来のスペシャリスト育成のため、大学と連携を図ることで、IT業界における職業理解を深め、情報化社会において必要な知識と技術について学ぶとともに、地域産業に貢献できる人材育成を図る。</p> <p>2 実施日時・内容</p> <p>日時：1回目 令和5年12月12日（火）10：55～12：45 ※オンライン 2回目 令和6年 1月30日（火）10：55～12：45 ※オンライン 対象：情報処理科 1年（39名） 講師：青森大学 ソフトウェア情報学部 教授 黒田 茂 氏 ソフトウェア情報学部 准教授 大島 和裕 氏 内容：1回目「データサイエンスの基礎」 ・データサイエンスとは ・データの利活用 ・データサイエンスに必要な力 2回目「データサイエンスの活用」 ・オープンデータの利用 ・データサイエンスの実際の流れ ・グループワーク RESAS の演習（滞在人口率、From-to 分析、流動人口メッシュ）</p> <p>3 成果（生徒の反応や効果・課題など）</p> <p>本校の情報処理科では、2年生から課題研究を履修し、グループ単位でテーマを設定し、調査研究に取り組んでいる。そのことから、データサイエンスの知識を用いて客観的なデータを分析し、その分析結果を課題研究に活用させたいと考え、データサイエンス講座をお願いした。</p> <p>1回目は、データサイエンスに必要な力として、「データを読む力・説明する力・扱う力・分類する力・法則を見つける力・予測する力」などを紹介していただき、それぞれの過程で注意すべき点や考えなければならないことを学ぶことができた。2回目は、RESAS の演習を行い、データを分析する過程で、「なぜ」を自問し、別の角度から分析を行うことを繰り返すことで、理解が深まり全体像を把握することができるようになることを学んだ。</p> <p>受講した生徒の様子から、データ分析によりどのような結果を導き出せるかを考えながら取り組むことで、新たな発見があることに興味を持った生徒が多かったと感じた。今回の講座の内容をひとつのきっかけとして、課題研究のテーマ設定及びその後の活動にも繋がるよう指導を継続していきたい。</p> <p><講座の様子></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>	

令和5年度 高大連携推進事業報告

学 校 名	青森県立三沢商業高等学校
事 業 担 当 者 名	教諭 平野博文
事 業 (連 携) 名 称	課題研究における八戸工業大学との連携

事業報告

1 目 的

情報処理科の「課題研究」において、学習した情報処理やプログラミング、データベースやネットワークの知識を活用して、情報処理科としての地域活性化を目標とした研究活動に取り組ませている。この研究活動では、ICTイベント企画運営、Webサイト製作、動画コンテンツ作成、商品企画、広報活動等に関係する課題を設定して活動を行っている。そこで、生徒の課題研究活動の支援のために、八戸工業大学の教授より指導・助言をいただくことで、研究活動の改善を図り、研究発表でのコミュニケーション力を養う。

2 実施日時・内容

(1) 課題研究指導 I 【課題研究事前指導】

日時 令和5年4月25日(火) 13:20～15:10

対象 情報処理科2年(38名)

講師 八戸工業大学 教授 藤岡 与周 氏

内容 情報処理科2年生に対して、ICTを活用して地域活性化のための課題研究に取り組ませるための事前指導としての特別講義を実施した。

課題設定、仮説立案、検証方法などを解説していただくとともに、大学の研究を紹介していただいた。



(藤岡先生の講義資料より)

(2) 課題研究指導 2 【研究活動報告指導】

日時 令和5年10月26日(木) 13:20～15:10

対象 情報処理科3年(32名)

講師 八戸工業大学 教授 藤岡 与周 氏

内容 情報処理科の計5班による研究活動報告を実施した。5つの班に対しての研究内容や提示した資料について個別に助言をいただくとともに、講評として研究報告の姿勢や資料提示方法、研究活動の進め方についても指導をいただいた。



(3) 課題研究指導3【校内課題研究発表会審査】

日時 令和5年12月14日(木) 10:30~15:30(予定)

対象 校内研究発表5班

講師 八戸工業大学 教授 藤岡 与周 氏

内容 各部会(市役所・農協・漁協・商工会・観光ICT)の代表5班による校内の課題研究発表会となる。

来年7月実施の県大会の学校代表となる2つの研究発表を選出する審査をお願いしている。

(※写真は昨年度の様子)



3 成果(生徒の反応や効果・課題など)

一昨年、新たな試みとして実施した情報処理科2年生への課題研究事前指導は今年度で3回目となった。今年度は2学年にも課題研究の授業が1単位設定されたこともあり、4月に計画されていたが、2学年の課題研究では「あおり創造学」に取り組んでいることもあり、この講義を情報処理科の課題研究の導入とするためにも実施時期は再検討する必要がある。

その昨年度の前指導を受け、研究活動をしてきた現3年生への報告指導では、藤岡先生が各班生徒と意見交換を活発に行いながら、生徒へ多くの気づきを与えていただいた。

当初は地域活性化という目的の一手段としてアプリを開発したい、として活動を始めた班も、いつしかアプリ開発そのものが目的となってしまった班があった。また、自分たちの研究活動がどれだけ地域活性化に影響があったのかを検証できない班もあった。藤岡先生から「手段と目的が混同している」「テーマ設定と到達目標の結びつきがわからない」「数値目標の根拠は何か」など厳しい指摘を受けながらも、その後の活動において自分たちが作成した発表スライドのどこがわかりにくいのかに気づき、顕著な改善が見られた。

講義後の生徒の感想の中には「自分たちが調べたことを理解してもらうために、話し方やスライドの表記に工夫をし、聞き手を飽きさせないようにしたい」との意見もあり、研究発表でのコミュニケーションについて大切な事に気づくことができた。

最後に、今年度のご指導に感謝をするとともに、これからも協力しながら生徒の研究活動を支えていく高大連携の関係を継続していきたい。

令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	五所川原商業高等学校
事 業 担 当 者 名	教諭 山下 恭平
事 業 (連 携) 名 称	商業科3年生(進学コース)「課題研究」における青森中央短期大学出張講義

事業報告

1 目 的

鶴田町の社会問題として、高齢化と若者の就農離れがあるという点に着目した。そこで主に20歳代前後をターゲットとして、地元特産物である「スチューベン」の栽培に興味を持ってもらい、新規就農者数を増やそうという目的で、若者に人気のスイーツの原料の一部にスチューベンを用いて製造、販売することを考え、その設計図を生徒自ら考案し、近隣の洋菓子店である「クー デ ラパン」様に営業活動を行い、商品開発のご協力を依頼した。その設計図の商品コンセプト等を考えるにあたり、ぶどうの栄養価について学習する目的で、昨年度から出張講義でお世話になっている青森中央短期大学様に「スチューベン等の地元特産品の効能等に関する講義」の依頼をした。最終的な目的は、もう一方の社会問題である高齢化対策として地元老人ホーム「さくら荘」様の経営を助けるために商品販売で得た利益を寄付する活動も行うこととした。

2 実施日時・内容

令和5年6月16日(金) 13:30~14:20

「スチューベン等の地元特産品の効能等に関する講義」

講師：教授 清澤 朋子 氏



3 成果(生徒の反応や効果・課題など)


ぶどうの効能等について以下のように講義を頂いた。

- ・可食部100g当たりのエネルギーはおよそ50kcal
- ・ピューレのように皮ごと利用する場合の栄養価と皮を使用しない場合の栄養価の違い。
(特に食物繊維やカリウム、カルシウム、マグネシウム、鉄が皮に多く含まれる)
- ・果実の糖(ブドウ糖、果糖、ショ糖)のうち、多く含まれるのはブドウ糖
- ・スチューベンは他のブドウと比べ糖度が高く、特有の香がする特性がある。
- ・一般的なブドウと比べスチューベンはアントシアニン含有量が2倍(学生の研究結果より)
- ・抗酸化作用を持つポリフェノール含有

以上から、昨年度の3年生が開発販売したスチューベンを原料とする「ジャムっとスチューベン」の試作段階であるスチューベンを皮ごと使用した「ピューレ」を原材料の一部に使用することに決定した。栄養価の高い商品の設計図を完成させることにより、地元洋菓子店に対しても若者に売り込むことのできる商品であるという点をアピールする根拠ともなり、自信を持って売り込みを行うことができた。10月上旬に「津軽ぶどう村」様に直接お伺いし、スチューベンを仕入れ、翌日「株式会社大鰐食品加工」様にその加工を依頼してスチューベンピューレを制作して「クー デ ラパン」様に後日持ち込み、結果として商品化を実現することができた。また文化祭で2日間の販売実習を行った。



令和5年度 高大連携推進事業報告書

学 校 名	五所川原商業高等学校
事 業 担 当 者 名	野宮 大嗣
事 業 (連 携) 名 称	(課題研究) 出前講座【観光事業の動向】とモニターツアーの実施
<p>事業報告</p> <p>1 目 的</p> <p>本年度、旧鶴田高校校舎へ移転し、課題研究で鶴田町の地域資源を活用した観光活性化に向けた活動に取り組んだ。それに伴い観光業界全体の現状や動向への理解を深めるために、出張講座を実施。コロナウイルスが5類になったことによる観光への影響、また、地方の観光業界について理解を深めることを目的として実施した。</p> <p>2 実施日時・内容</p> <p>令和5年6月12日(月) 13:30～14:20</p> <p>テーマ：地域観光×インバウンドーインバウンド振興とこれからの青森観光ー</p> <p>講 師：青森中央学院大学 経営法学部 竹内 紀人 氏</p> <p>内 容：青森県における観光事情やアジア地域からの観光客推移や消費傾向などについて学んだ。</p> <p>令和5年12月13日(水) 13:50～15:40</p> <p>内 容：鶴田町観光モニターツアー</p> <p>行 程：鶴田八幡宮⇒鶴田町歴史文化伝承館⇒津軽富士見湖パーク⇒道の駅つるた</p> <p>参加者：青森中央学院大学在籍の留学生4名 (出身：中国 台湾 タイ ベトナム)</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> <p>3 成果(生徒の反応や効果・課題など)</p> <p>コロナウイルスが5類になり、観光客(国内外)の変化、オーバーツーリズムによる地域対応の課題など、迎え入れる側の視点に立って考えることで、観光業の奥深さを感じ得ることができた。また、鶴田町が観光面で活気づくために必要なことは何か?を各生徒が考えるきっかけとなった。</p> <p>12月に生徒自身が作成したプランをもとにモニターツアーを実施。観光地点の選定は、鶴田町役場の協力を得て現地の事前視察を行った感想と事前アンケート(回答数227)の結果を踏まえて決定した。時間の都合上、短い時間でのツアーとなったが、しおり作成やコミュニケーションの取り方など、生徒達なりに学習し、ツアー本番に生かすことができたと思う。ツアー終了後のフィードバックでは、外国人を案内するポイントとして、日本の歴史を話すときには、同時に参加者の国の時代にも触れながら話すと分かりやすいといった点、また、外国人は写真を撮ることが好きなので、そのポイントの紹介があれば良かったなど、町を紹介する際の心得としてとても勉強になった。</p> <p>そして、教科横断的な学びにもつながられると思ったが、今回はその連携が出来なかった部分が課題点として挙げられる。事前アンケートでは、鶴田八幡宮と鶴田町歴史文化伝承館の2地点があまり周知されていない回答だったが、事後アンケートではこの2地点が特に印象に残った場所としてあがり、一定のPR効果は得られたと感じた。</p>	

県商研主催事業報告

令和5年度 第15回全国商業教育指導者研修会

県立弘前実業高等学校 教諭 須藤典子

- 1 期 間 令和5年8月8日（火）～8月10日（木）3日間
- 2 会 場 全商会館（東京都）
- 3 研修概要

	午 前			午 後	
8日 （火）	開講式	理事長 講話	ワークショ ップ説明・ 情報交換	文部科学省講話	ワークショップ
9日 （水）	ワークショップ	文部科学省講話		講演	ワークショップ
10日 （木）	講演	ワークショップ		ワークショップ 結果発表	閉講式

4 研修日程

1日目 8月8日（火）

- 9：30～ 9：40 開講式
- 9：40～10：10 理事長講話（東京都立芝商業高等学校長 大林 誠）
- 10：10～10：40 ワークショップ説明（東京都立大田桜台高等学校長 石山 智典）
- 10：40～11：00 写真撮影
- 11：10～12：10 ワークショップ「各県情報交換」（グループ別）
- 13：10～14：10 文部科学省講話「商業教育の現状・課題」
（文部科学省初等中等教育局 視学官 田中 圭）
- 14：20～17：00 ワークショップ「商業教育の課題」（グループ別）

2日目 8月9日（水）

- 9：00～10：30 ワークショップ「商業教育の魅力」（グループ別）
- 10：40～12：10 文部科学省講話「教育関係法規」
（文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
教育公務員係専門職 大坪 彩子）
- 13：10～14：40 講演
「商業科におけるアントレプレナーシップ教育の重要性とポイント」
ー地域活動の「成果」を高めるメカニズムー
（中小企業基盤整備機構起業家教育アドバイザー
高崎商科大学准教授 高見 啓一）
- 14：50～15：50 ワークショップ「商業教育の魅力」（グループ別）
- 16：00～17：00 ワークショップ発表「商業教育の課題×商業教育の魅力」（全体会）

3日目 8月10日（木）

- 9：00～10：30 講演「生徒たちが働く未来 急速に変容するワークスタイル」
（日本経済新聞総合解説センター 編集委員 石塚 由起夫）

- 10:40～12:10 ワークショップ「商業教育の良さを伸ばすため明日から商業高校は何をすべきか」(グループ別)
- 13:10～13:50 ワークショップ「商業教育の良さを伸ばすため明日から商業高校は何をすべきか」(グループ別)
- 14:00～15:30 ワークショップ発表「商業教育の良さを伸ばすため明日から商業高校は何をすべきか」(全体会)
- 15:40～16:00 閉講式

5 成 果

【理事長講話】「今後の全商協会の事業改善について」

公益財団法人全国商業高等学校協会では、課題検討委員会から示された令和5年3月18日付の答申「社会全体のデジタル化・オンライン化、DXの進展に対応した検定試験の在り方について」に基づき、事業改善を検討している。全商協会は全国商業高等学校長協会と公益財団法人全国商業高等学校協会の2つの総称になっているが、今年度のみ理事長を分けて改革を進めている。

公益財団法人全国商業高等学校協会は収益事業として様々な検定試験を運営している。また、商業教育の活性化を図る支援事業として、教員研修会や全国競技大会の運営、各県における商業教育を支援する商業教育振興助成事業を行っている。前述した答申では、ビジネス情報分野の検定試験の再編成と検定試験のCBT化の試行、全商新WEBシステムの稼働が検討事項として盛り込まれている。

ビジネス情報分野の検定試験の再編成の目的は、「①多様化するビジネス情報系科目への対応」と「②必修科目『情報Ⅰ』の代替科目としての担保」である。まず、①多様化するビジネス情報系科目への対応については、試験範囲を3級・2級・1級で分けるのではなく、原則として科目ごとに対応した検定を設ける方向性で考えている。1科目合格で3級、2科目合格で2級、3科目以上合格で1級とする。また、②必修科目『情報Ⅰ』の代替科目としての担保については、多くの学校で情報処理を教科情報の代替科目としているが、本当に教科情報の内容が取り扱われているのか、文科省に疑問視されている。そこで、「情報処理」で学ぶ内容のうち「情報Ⅰ」と共通している内容を問う『情報基礎(仮称)』と、「情報処理」のみで学ぶ内容を実技中心で問う『情報処理(仮称)』を組み合わせ、『情報処理』、その他、『ソフトウェア活用』、『プログラミング』、『ネットワーク活用』と「ネットワーク管理」に関する内容(選択問題を含む)を問う『ネットワーク(仮称)』の科目構成で検討中である。多様な生徒のニーズに対応できる科目構成になることを期待したい。

検定試験のCBT化の試行の目的は、「①様々なニーズに対応した受験機会の複数化の推進」と「②採点・集計に関わる学校並びに教員の負担軽減」である。ただ、デメリットとして、実施に伴う検定料の値上げや、なりすまし防止に向けた学校における受験環境の整備等があげられているが、実施時に監督者が適切にトラブル対応できるかどうか不安は残る。令和6年度内に希望する学校を募り、簿記実務検定3級とビジネスコミュニケーション検定で試行し、その状況を踏まえて本格実施の可否や実施科目・級、実施方法などを具体的に検討することとしている。

全商新WEBシステムは令和6年度から稼働する。新WEBシステムは、「①個人コードによる合格情報の一元化」、「②個人や団体申込時の検定料の直接入金」、「③試験場校経費の後日請求払いや手当の個人口座への直接振り込み」、「④試験場校制度の見直しと分会場制度の廃止」といった改善が盛り込まれる予定である。煩雑な処理が簡略化されることで検定担当者の負担が軽減されることは喜ばしいことであり、今後の動向を注視していきたい。

【文部科学省講話】「商業教育の現状・課題」

学習指導要領の趣旨と内容を踏まえた教育活動がなされているのか。今回の学習指導要領は、指導項目だけではなく、どのような資質・能力を育成すれば良いのかといった視点の変化により、コンテンツ(何を学ぶか)ベースから、コンピテンシー(何ができるようになるか)ベースの学習指導要領に変わっている。

よって、先生方の指導も変えていかなければならない。

変化の激しい時代だから、今、知識や技術を身に付けても、将来そのまま使えるわけではない。社会に求められる資質・能力を見据えて、それぞれの指導項目で育成しなければならない。NTTドコモのCMで「スキルはダウンロードする時代」とのキャッチコピーがあるが、自分にはない知識や技術があっても、補助的な機器を装着すれば補ってくれる時代が到来する。指導項目にある知識や技術だけを身に付けても、将来は簡単に手に入れられるようになる。手に入れることに時間をとられるよりは、使いこなす思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度の方が重要視される。つまり、自分で調整しながら物事を作り上げていく力を育成するのが大切である。今までのように検定試験に合格するために用語や計算を教えるのではなく、それを実際に使って何ができるようになるのか、新しいものをどうやって生み出すのか、先生方が支援する時代に变化している。

今後はデジタル教科書の導入が進むと思われるが、一般的な説明内容となり、「分かりやすい」、「分かりにくい」と感じる生徒が出てくるものと想定されるが、それを分かりやすく教え、個別最適な学びを支援するのが教師である。生徒の学習の状態を評価し、一般的な説明を聞いて分からなかった部分を支援することや、授業後に協働的な学びをすることでフォローをしながら深い学びに導くような授業をコーディネートする役割を担っている。これまでは短期間で効率よく知識を身に付けさせることがスーパーティーチャーだったが、これからは、生徒を支援し、個別最適な学びに導いてあげられるのがスーパーティーチャー、個別指導できるのがスーパーティーチャーである。これから先生方の在り方が変わってくる。

商業教育における最大の課題は、教育課程の編成だと思っている。資質・能力を身に付けさせるための学習指導要領が変わったにも関わらず、教育課程は従来と変わっていない。ビジネス社会で必要な資質・能力を育成する科目の設置が少なく、設置していても単位数が少ない状況となっている。本当に生徒の資質・能力を育成する教育課程になっているか確認する必要がある。社会で必要な資質・能力が身に付いていないから、社会に出ても商業科の生徒は評価されない。商業教育を取り巻く環境を見ると、産業別では、商業科の生徒が卒業して最も多い就職先は第3次産業である。この第3次産業は情報産業の発達により、サービス産業がどんどん拡大している。職業別でも、商業科の生徒の事務職の求人は減っている印象があるが、全体的には事務職の求人は増えてきている。事務職の求人が増えているはずなのに、学校の求人は減っている印象がある。これは、事務職はほしいが、商業科の生徒でなくても良いという考えから、商業科への求人が減っているものと推測される。企業の求める人材を育成できていないためだと考えられる。年々卒業者の事務職の割合が減ってきて、ものづくりをしない商業科で生産工程に就職する生徒が増えている。

示されたデータから、簿記と情報処理を中心に教育課程を編成しても、ビジネス社会が求める資質・能力が身に付いていないことが分かり、商業の4分野についてバランス良く学ぶことができる工夫が必要だと実感した。商業科目を学ぶことで「何ができるようになるのか」を意識しながら、今後の商業教育の在り方を模索していきたい。

【文部科学省講話】「教育関係法規」

法令の基礎知識に関する講義では、法律を学ぶ理由や法体系について改めて確認する機会となった。法律は正しさの一定の基準であり、常識で考えたことが正しいかどうかを見極める拠り所になることを学んだ。また、法令が効力を持つタイミングや法令読解の留意点等に関する講義も大変参考になった。

次の教育公務員制度に関する講義では、我々教員の教育活動は様々な法律に則って行われているとともに、学校を取り巻く多くのスタッフに支えられながら学校が運営されていることを再認識することができた。その教育活動を充実させることは我々教員の使命であることに間違いはないが、その一方で学校における働き方改革は喫緊の課題である。我が国における教員の1日当たりの在校等時間は長く、世界的に類を見ない長時間勤務大国と言われている。小・中学校の部活動においては、技術指導等を地域の指導者に委ねる移行が進み、顧問の週当たりの活動日数は減少しているが、高校ではそのような環境がまだ整備されていない状況である。まずはICTを活用した校務の効率化に取り組むなど、在校等時間の削減に取り組む工夫が必要だと実感した。

その他、児童生徒性暴力等の防止や人事管理行政に係る留意事項についても講義があり、公務員として服務規律を遵守し、気持ちを新たに生徒・保護者をはじめ、地域から信頼される教育活動に取り組んでいきたい。

【講演】「商業科におけるアントレプレナーシップ教育の重要性とポイント」

ー地域活動の「成果」を高めるメカニズムー

商業教育の課題解決と魅力化に向けて、商業教育は何をすべきかについて講義があった。普段取り組んでいる地域との関わりや様々な探究活動の成果を高めていくメカニズムについても説明があった。アントレプレナーシップ教育（以下、EEという）は起業家になるための教育ではなく、新しいことを行うことに価値を見出したり、変化を機会として利用するなどの視点を養うことが目的である。EEは生活や社会の全ての分野に広く関係し、全生徒にとって重要な能力であるとされている。

商業科を取り巻く様々な課題として、求められる「検定偏重」からの脱却、普通科でも広がる探究学習、脱商業科の動き等があり、商業科の存在感が薄れていくことへの危機感がある。予測不能な世界を生き抜くために、探究活動や社会に開かれた教育活動に取り組んでくださいという動きがある。地域活動は商業高校だけではなく、大学でも重視する社会的傾向があり、検定偏重から脱却したい商業科にとってはチャンス到来である。ただし、「体験しただけ学習」になっていないか、特に探究なき探究学習になりがちな課題研究は、地域活動の「軸」「ゴール」を改めて考える必要があり、普通科の探究学習と何が違うか明確に答えられないといけない。

EEの領域は今、研究分野でも広がりを見せている。国の動向としても起業家をどんどん育成する動きがあり、高校向けの教育も支援している。日本は諸外国に対して起業家精神が低い傾向があり、EEと商業科教育は親和性が高い。日本の起業家教育の課題を解決できるのは商業科であると考えている。複数科目で「起業家精神」を学ぶよう設計されており、ビジネス基礎、ビジネス・マネジメントなど、起業家教育を導入しやすい教育課程が編成しやすい。

商業高校EEにおける育成能力は、「①機会（課題）を発見・設定し、解決策を創造する行動力」と「②課題解決に向けてリソースを獲得し、他者と協働できるネットワーク創出スキル」の2つである。商業科の教育は学校で完結しないため、あるテーマに関する関心や問題、熱意等を共有し、その分野の知識や技能を、持続的な相互交流を通じて深めていく人々の集団（以下、実践共同体という）とつながりを持った活動が必要である。実践共同体は3つの基本要素「領域・コミュニティ・実践」がうまくかみ合っ、初めて理想的な社会的枠組みになる。

実践共同体を機能させるためには、先生方はコーディネーターになる必要がある。コーディネーターに求められることは、「①コーディネーターとしての任務に時間を割く」、「②私的空間の重視」、「③人脈づくりの能力」、「④テーマに関する専門知識」の4点である。EEの成功事例では、コーディネーター役の教員が中心となって、地域や企業と互酬的なテーマ設定を行っている事例が多い。

アントレプレナーシップを高めるためには、越境学習（拡張的学習）が大事である。その越境学習をしやすい場づくりとして、居心地の良い交流の場所を指す「サードプレイス」も重要な要素である。そのサードプレイス特性を高めるためには、傾聴、共感や親近性等の特徴を持つサーバンド・リーダーシップを教員自身が身に付けることが望まれる。越境学習を通して、「この活動をしていなかったら友達にならなかった」、「先生にも正解がないので、大人とも対等に意見を言い合えた」などの効果が見られたとの紹介があった。

地域と企業と連携したEEの取組として、「①教員も地域も正解が分からない曖昧な領域に生徒を挑ませる。」、「②学校内外の多様なステークホルダーと関わる機会を生徒に与える。」、「③生徒・地域双方にとって互酬的な場をコーディネートするため、教員自身の地域内外との人脈や信頼関係を増やす。」、「④参加者間の交流の時間を重視した居心地の良い活動にする。」、「⑤生徒の興味関心に基づきラフに参加できる場をデザインする。」、「⑥教員は高邁なビジョンを持ちつつも、生徒にとっての親近性を高めることを重視する。」ことなどが求められる。この講義を通して、我々教員も「答えのない問題を探究しているか」、「多様な人・新たな知見と出会っているか」、「自身の居心地はどうか」、「活動を楽しめているか」など、ときには立ち止まって自身を振り返る必要があることを学んだ。

【講演】「生徒たちが働く未来 急速に変容するワークスタイル」

生徒がこれから先、働いていく社会はどのような社会になるか。企業や国や行政はどういった働き方を考えているのか。今までとは働き方が変わり、会社と個人の関係性も変わってくることも明らかである。時代に合わせた働き方をしないと、長く働くことが難しくなる。

多くの企業で初任給を上げているが、日本経済新聞の調査によると、30%初任給が上がった企業もある。新卒初任給大卒で50万円というところもある。今年に入って一気に引き上げた理由としては、人材確保のためである。

次に、終身雇用前提の年功序列、時間と場所を拘束するという日本型雇用が変わってきている。例えば、多くの会社で副業も認めるようになってきている。これまでの副業は収入を補填するための位置付けであったが、キャリア形成のために社外で働くことを認めるようになってきている。時間の拘束といった点では、社員の定着率を上げるため、週休3日の企業が増えてきている。休んでいる時間は子育てや介護だけでなく、大学で学び直すことや地域活動に取り組んでいる。次に場所の拘束といった点では、転勤そのものを見直そうという動きがあり、家族の環境まで壊してしまうのは社員のためにならないため、転勤制度の廃止に向けて検討を進めている。働く場所を会社に限定せず、自宅でテレワークにすることで、転勤廃止の動きにもつながっている。現在は大手企業が中心であるが、今までの雇用形態を見直そうとする動きは、今後地方の企業や中小企業に広がっていくものと思われる。

これまでの日本型雇用は不自由であったが、日本型雇用の限界、人口減少やコロナ禍の構造変化が重なったため働き方を見直す動きが加速している。日本型雇用は「①時間、②職務、③場所」の3つの制約がある働き方である。①時間は、終身雇用を前提としているため、ピークの働き方に併せて従業員を雇うことができず、仕事が増えると残業することになる。②職務・配置転換は、会社が新しい職務を与えることによって、雇用を守るという考え方から行われる。③場所・転勤は、会社の状況が変わった時に別の仕事することになる。専門性を持たせるよりも、満遍なく仕事ができる社員が求められ、これらが正社員として働くための条件であった。ところが、自分がやりたい仕事ができるわけではなく、いつ転勤させられるか分からない状況で、残業や長時間労働が前提で健康を害するかも知れないといった日本型雇用は問題となってきた。さらには、性別役割分担を前提に機能した働き方であり、外で働くのは男性、家庭を守るのは女性といった役割があったため、男性が仕事に集中しても生活できていたが、夫婦共働きが家庭が増えてくると、制約のある働き方に限界が出始め、正社員として働き続けることが窮屈になってきた。

企業側も日本型雇用に限界を感じ、非効率な働き方になっていたことに気付き始めた。当時はまだ物やサービスが人々に行き渡っていなかったため、企業はいかに物やサービスを早く安く提供することができるかが重要であり、そのためには一致団結する集団が必要であった。会社は同じような働き方ができる人たちがいることが都合良く、社員は我慢さえすれば安定した生活が保証される。しかし、現在は物が足りない時代ではなく、先行き不透明な時代となり、多様なアイデアを持った人たちが必要になった。

日本は2010年以降少子化問題が顕著になってきた。2001年から減ってきた子どもたちが成人する2020年に入って、国や企業が働き手不足に慌て始めた。生産年齢人口である15歳から64歳までの人口は、これから先どんどん減少する一方であり、新卒を採用するためには給料を上げないと確保できない状況にある。女性やシニア、外国人を活用してもまだ不足すると思われる。

また、コロナ禍の影響によりテレワークが普及し、感染リスクを減らす非対面の働き方から、ビジネススタイルも変化した。それと同時に、なぜ働くのかなど、人生の価値を見つけ直すきっかけにもなり、やりたくない、やりがいのない仕事はやめてしまおうといった、個人の意識にも変化を与えた。

このような現状に対して、国や企業はどのような働き方を導入しようとしているのか。岸田政権は新しい資本主義を掲げ、最低賃金の引き上げを行った。成長と分配の好循環で分厚い中間層の復活、さらに人への投資を拡充することで、さらに成長が加速すると考えている。貢献に応じた適正な収入アップ、消費喚起を促して経済成長、稼げるスキルを支援することにつながることをしている。しかし、新しい資本主義の考え方は昔からあり、最近になって人的資本経営を企業も口にするようになってきた。人を賃金が発生するコストとは捉えず、価値を打ち出す資本とみなし、教育や訓練、福利厚生などの投資を行えば個人も企業も繁栄

するという考え方である。日本の企業はその人材投資も怠ってきたため、企業と個人の Win-Win サイクルをつくるのが、国と企業が想定している大きな流れである。

また、人手不足対策として、女性活躍推進にも取り組み始めたが、これからが正念場である。ここ10年間で働く女性が増えているが、L字化といった年齢を重ねれば非正規となり、正社員が減っている問題がある。まだ、女性活躍推進をやめてはいけない。若年男性は急激に減っているため、体力のある若手男性に頼る職場は維持が困難になってきた。若くて働きざかりの男性はどこにもいないため、女性も働ける環境を整備しないとこれからの社会は維持できない。

今後生徒のキャリアについて考える時に気に掛けてほしいことは、個人に雇われる力があるか、雇われ続ける力があるかということである。人生70年間、組織・社会・会社から必要とされるだけの力を身に付けていないと働き続けることは難しくなるのではないかということである。会社自体も存続していくか分からない状況であるため、自分の人生を会社に任せるといのはリスクが高すぎる。中小企業で人手不足倒産が相次いだり、好業績でも早期退職を募る黒字リストラが起こっている。また、AI/ロボットテクノロジーに奪われる仕事が出てくるため、消滅する職種や人手不足でも失職のリスクがある。その他、即戦力を求めて、新卒ではなく、中途採用比率を増やそうという企業も出てきた。そこで、国は新たな時代に合わせた学び直しを行うリ・スキリング、日本型の職務給の導入、成長分野への円滑な労働移動、この3つを三位一体の改革として進めていくこととしている。高卒の第二新卒に特化した職業紹介をする会社が成長するなど、高校でのキャリア教育も変化してきている。

高校生には「仕事は生活のため」という意識があり、仕事よりも自分の自由な時間を大切にしたいという生徒が増えている。困難があっても挑戦したいという生徒は減ってきている印象がある。「何がしたい」、「何ができる」、「何をすべきか」の三つの視点が重なり合っている仕事に就けると理想だが、それは難しいため、できるだけ三つに重なるように導いてあげることが大切である。

この講義を通して、生涯働き続けるためには、「エンプロイアビリティ＝雇われる能力」が必要であることを再認識するとともに、人生設計を含めてどのようなキャリア指導を行うかが、ますます大事になると実感することができた。今後の教育活動に生かしていきたい。

6 おわりに

3日間に渡る研修であったが、各都道府県の現状や抱える課題等について情報共有し、課題解決に向けてワークショップを行ったことは大変有意義であった。また、様々な分野の専門家からご講義いただいた内容は、これからの商業教育の在り方を考える上で大いに参考となるものばかりであった。その他、他県の先生方とつながりが持てたことも大きな収穫であった。今回の研修で得た知識や情報を活用し、本県の商業教育の活性化に向けて、自分ができることを考え、新たな取組につなげていきたいと考える。大変有意義な研修の機会を与えていただきありがとうございました。

各 種 大 会 報 告

青森商研

NEWS

令和5年度 夏号

R5. 7. 19 発

第70回全国高等学校ビジネス計算競技大会

日時：令和5年6月3日(土)
会場：青森商業高校

【珠算の部】

●団体

優勝 三沢商業高校
準優勝 八戸商業高校

●個人

第一位 三沢商業高校 新 館 倅幸和
第二位 三沢商業高校 松 林 晴 幸和
第三位 三沢商業高校 野 崎 ひらり
第四位 三沢商業高校 下 田 優 里馬
第五位 三沢商業高校 成 田 香 里
第六位 三沢商業高校 佐 藤 瑠 香



【電卓の部】

●団体

優勝 三沢商業高校
準優勝 三戸高校
第三位 八戸商業高校

●個人

第一位 三沢商業高校 明 戸 樹 紀奈
第二位 三沢商業高校 沼 田 琉 杏
第三位 三沢商業高校 中 野 渡 望 愛
第四位 三沢商業高校 新 山 菜 々 美
第五位 青森商業高校 佐 々 木 美 羽
第六位 三沢商業高校 馬 場 美 妃



青森県高等学校商業教育研究会

研究誌編集委員会 発行

編集者 青森県立跡ヶ沢高等学校 奈良 靖宏

青森県立八戸商業高等学校 鈴木 健

青森県立大湊高等学校 向谷地 史 拓

第70回青森県高等学校ワープロ競技大会兼
第70回全国高等学校ワープロ競技大会県予選会

日時：令和5年6月10日(土)
会場：弘前実業高校

●団体

優勝 三沢商業高校
準優勝 八戸商業高校
第三位 青森商業高校

●個人

第一位 三沢商業高校 長 谷 川 陽 大
第二位 三沢商業高校 中 村 理 玖
第三位 三沢商業高校 根 岸 な な か
第四位 八戸商業高校 西 村 美 字
第五位 三沢商業高校 播 磨 董 子
第六位 三沢商業高校 瀧 澤 悠 仁



第35回全国高等学校情報処理競技大会青森県予選会

日時：令和5年6月10日(土)
会場：三沢商業高校

●団体

優勝 八戸商業高校
準優勝 三沢商業高校
第三位 青森商業高校

●個人

第一位 三沢商業高校 小 笠 原 明 音
第二位 八戸商業高校 沼 澤 獅 音
第三位 八戸商業高校 大 石 安 璃
第四位 三沢商業高校 澤 下 佑 良
第五位 八戸商業高校 畑 中 美 穂
第六位 三沢商業高校 吉 田 咲 樹



全国大会への意気込み

<ビジネス計算競技>

三沢商業高校 新 館 倅幸和

私たち珠算部は7月25日に横浜武道館で行われる第70回全国高等学校ビジネス計算競技大会に出場します。珠算・電卓の両競技ともに全国優勝を目標とし日々の練習に取り組んできました。昨年度は珠算の部で団体8位となり悔いの残る結果となりました。この思いを晴らすために、チーム一丸となって練習に励みます。本番で実力を十分に発揮することができるよう、残りの期間は常に本番さながらの緊張感を持って練習することを意識し、自信を持って全国大会へ臨みたいと思います。

今まで支えてくださった先生方や仲間への感謝の気持ちを忘れず、精一杯頑張ってきますので応援よろしくをお願いします。

第39回全国高等学校簿記競技大会青森県予選会

日時：令和5年6月17日(土)
会場：八戸商業高校

●団体

優勝 弘前実業高校
準優勝 三沢商業高校
第三位 青森商業高校

●個人

第一位 弘前実業高校 下 山 瑞 聡 姫
第二位 弘前実業高校 葛 西 瑞 聡
第三位 三沢商業高校 和 田 優 結 菜
第四位 三沢商業高校 吉 田 優 月
第五位 三沢商業高校 長 内 涼 介
第六位 青森商業高校 福 田 涼 介



<ビジネス計算競技>

八戸商業高校 上 沢 春 華

私が全国大会で大事にしたいことは全力を尽くすということです。大きな会場の雰囲気にもまれてしまわないよう、自信がつくまで練習をしようと思います。今の私の実力では全力を出し切ることができて入賞には届かないかもしれませんが、大会までに1つでも解ける問題が増えれば、自信に繋がり、更に高い目標を持つことができると思います。そのため、他の選手を意識しすぎず、自分の点数と向き合いながら全国大会まで落ち着いて練習していきたいです。個人総合競技の普通計算や応用計算と並行して、種目別競技の読上算にも力を入れ、入賞することを目標にします。自分が掲げた目標を必ず達成し、悔いの残らない大会にしたいです。

八戸商業高校 佐 藤 小 春

私は全国大会に向けて2つのことを意識して練習していきます。1つは乗算の正答率を上げることです。県予選会のときはミスが目立つ結果となりました。これを踏まえて集中して乗算に取り組むようにし、どんな状況でも100点をとれるようにします。2つ目は応用計算競技で難しい問題に取り組むことです。全国大会の問題は文章が難しく、読み取るのに時間がかかってしまいます。だからこそ基本のやり方や解式の意味をしっかりと理解し、解ける問題を増やしていきます。全国大会に向けてやるべき課題は数多くありますが、毎日の練習時間を大切にし、大会では自己ベストを出せるように全国大会当日までの練習に励んでいきます。

青森商業高校 佐々木 美 羽

私は高校に入学してから3年間商業研究部の電卓班に所属し、毎日1問でも多く問題が解けるように一生懸命活動してきました。そして6月3日に行われたビジネス計算競技大会青森県予選会の個人総合で入賞し、7月に行われる全国大会に出場することになりました。今までの先輩方も全国大会に出場されていて、1年生の頃から夢だった場に出られることが嬉しく、後輩にも良い姿を見せることができとても良かったです。全国大会までに自分が苦手な問題を1問でも多く身に付け、答えを書いた分しっかりと点数を取れるよう練習を頑張っていきたいです。引退まで残り僅かの時間を大切にし、後悔が残らないよう最後まで諦めず取り組んでいきたいと思っています。

<ワープロ競技>

三沢商業高校 中 村 湊 玖

私たちは6月10日に行われた第60回青森県高等学校ワープロ競技大会で、団体優勝し、個人でも5名が入賞することができました。全国予選へ向け、自分たちで各々目標を立て、練習を重ねたことで確実に成長することができました。また、大会が終わり様々な課題も見つかりました。この大会は私たちにとって、まだまだ通過点です。全国大会にはこの課題を克服して大会に臨みたいと思います。

8月3日に行われる全国大会に向けて、支えて下さった先生方、家族、部員全員に感謝の気持ちを忘れず、目標である全国大会団体3位、個人の部優良賞・佳良賞に入れるよう日々の練習に励んでいきたいと思っています。応援よろしくお願いします。

八戸商業高校 西 村 美 宇

今回、全国大会に出場が決まりとても嬉しく思います。今回は、初参加ですので全国レベルがどのようなものなのかをしっかりと見てきたいです。これまでの大会は、団体戦の中に個人戦がありましたが、今回は個人戦のみです。これまでの練習の中では、練習問題により打数のばらつきがありました。全国大会では、たとえどんな問題が出題されたとしても、目標打数以下にならないように頑張ります。あわせて自分の成長の幅を広げていきたいと思っています。8月の全国大会まであまり時間はありませんが、どれだけ打数を伸ばせるかが課題です。日々の練習の1回1回を大事にして「練習は本番の気持ち」で頑張りがながら本番を迎えたいと思います。

青森商業高校 長谷川 惺 奈

全国高等学校ワープロ競技大会での目標は正確賞をとることです。そのために、部活動に真剣に取り組み、まずは「1500文字以上エラー0」を目指して、頑張りたいと思います。

全国大会には、個人で出場するので、部のメンバーがいない分、緊張も大きくなると思います。しかし、周りのペースに飲まれることなく自分の中の最高の記録を出せるよう、精いっぱい頑張ります。

ワープロ部のメンバーや顧問の先生方の期待に応えられるように全力を尽くして、青森県の代表として恥じない結果を出し、自分の目標を達成できるように競技に挑みたいと思います。

<情報処理競技>

八戸商業高校 沼 澤 獅 音

6月10日全国情報処理競技大会青森県予選会が三沢商業高等学校で行われました。私たちは、この大会での優勝を目指し、練習を連日行ってきました。結果としては団体優勝を勝ち取り、全国大会への切符を掴むことができましたが、成績を見てみれば2位との差はわずか4点だけでした。全国大会で良い結果を残すためには、今までとは比べ物にならないほどの努力が必要になると感じました。

東京で行われる全国大会では、私たちが想像している以上のレベルで競い合うことになると思います。全国大会までの残された短い期間でさらに多くの知識を蓄え、全国大会という舞台上、青森県の代表として、団体での10位以内入賞を目指してがんばりたいと思います。

<情報処理競技>

三沢商業高校 小笠原 明 音

私たちは、7月23日に日本大学で行われる第35回全国高等学校情報処理競技大会へ出場してきます。予選の結果は、団体2位という悔しい結果でした。目標としていた団体優勝はかないませんでした。全員が一生懸命取り組み、過去最高点数を取ることができました。個人の方では全国大会の出場権をいただけたので、これからは本番に向け、実力を思う存分発揮し、上位入賞を目指して勉強を続けていきたいと思ひます。

これまで応援して下さいました皆さん、先生方、ありがとうございます。そして、これからも一生懸命取り組んでいきますので、応援よろしくお願ひします。

<簿記競技>

三沢商業高校 和田 愛結葉

今回の大会では団体が2位という悔しい結果でした。しかし、2名が個人で全国大会に出場することになりました。全国大会へ向けて、今回の大会で見つかった課題を、残りの時間を有意義に使って改善をしたいと思ひます。全国大会に出場できるということへの、感謝の気持ちを忘れず、全力を出せるように頑張りたいと思ひます。応援よろしくお願ひいたします。

弓道女子団体インターハイ出場

青森商業高校 3年 柿崎 七 彩

私たち弓道部は優勝を目指し、高校総体に臨みました。練習した成果が無事発揮され、優勝することができました。そして、インターハイ出場の権利を獲得しました。支えてくれた仲間や応援してくれた方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

インターハイは8月3日から6日にかけて北海道にある真駒内セキスイハイムアイスアリーナで行われます。上位に残るのが、私たちの目標です。昨年は予選を通過し、トーナメントに上がることができましたが、1回戦で敗退となりました。昨年と異なるメンバーとなりますが、あの悔しい思いを晴らすべく、チーム一丸となって日々の稽古に取り組みたいです。

レスリングインターハイ出場

青森商業高校 2年 浅田 心 穂

私は、インターハイという大会に初めて参加します。インターハイは自分よりレベルの高い人が集まっていて、勝つことがとても難しい大会だと思います。しかし、インターハイ出場の切符を得たからには、まずは1回戦突破を目標に頑張ります。インターハイに向けては、自分が不得意なタックルに入られてからの守りや、相手の投げ技への対処をしっかりと確認して試合に臨みます。また、約1年間練習や大会で積み重ねてきた経験を活かして、全力で相手にぶつかります。そして、今年のインターハイを充実した内容にし、次の大会に繋げていきます。

インターハイ出場

卓球女子インターハイ出場

青森商業高校 3年 新山 暖 華

今年度のインターハイは、学校対抗ベスト4、ダブルスベスト8、シングルベスト16を目標に戦いたいと思ひます。昨年は思うような結果が出せず、悔しさを味わったので今回こそは強豪校を倒して良い結果を残せるように頑張りたいです。そのためには、チーム全体の実力を挙げていく必要があると感じています。日々の練習で切磋琢磨し合い技術を高めていくのはもちろん、チーム内でコミュニケーションをしっかりと取り、チームの団結力もつけていきたいと思ひます。インターハイまで残された時間は多くないので、全員が自信を持って自分たちらしい最高のプレーができるように、部員同士で励まし合いながら練習を一生懸命頑張ります。

各校での取組

青森商業高校

青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業

昨年度より市内ベンチャー事業「青商ビジネスチャレンジ with 台湾事業」がスタートしました。今年度は7月28日(金)・29日(土)に日本販売実践「台湾祭」を実施します。台湾祭は県内の商業高校と連携して実施します。台湾祭に向けて生徒実行委員会をオンラインで2回実施し、各校の進捗状況の報告や意見交換を行い活発に活動しています。また、台湾祭への出店商談など生徒自らの主体的な学びへと結びついていると思ひます。台湾祭まで残り少なくなってきましたが、各校と協力して成功させて欲しいと思ひます。



八戸商業高校

SE(システムエンジニア)講座 6月15・16日

八戸市でアプリ開発やWebコンサルティングを行っている(株)アイティワークの方から今年度もご協力をいただき、情報処理科2、3年生を対象に実施しました。情報処理科の課題研究では地域住民がより良い生活を送れるよう、アプリの開発やWebサイトの制作を行っています。本講座を通じて、つまづきを解消するためのご助言をいただきました。



「あおもり創造学」講演会

6月7日

八戸市で活動されている建築家・高砂充希子氏と「トセノイエ」オーナー・鈴木美朝氏から本校2年生が「好きなことでまちづくり」と題してご講演いただきました。八戸市の現状と課題に対してのアプローチの方法や視野を広げる重要性などを教えていただきました。



青森県高等学校商業教育研究会
研究誌編集委員会 発行

編集	弘前実業高等学校	西館 大輔
	三沢商業高等学校	山田 真菜
	青森商業高等学校	梶 晃太

全国大会の感想

令和5年度第七十四回
全国高等学校ビジネス計算競技大会
七月二十五日

三沢商業高等学校 三年 新館 侘幸和

私たちは七月二十五日に横浜武道館で行われた第七十四回全国高等学校ビジネス計算競技大会に出場してきました。今年度も昨年度に引き続き、珠算・電卓の両競技ともに全国優勝を目標とし、日々の練習に取り組みできました。目標には届きませんでしたが、珠算の部団体5位、電卓の部団体7位という成績を残すことができました。両競技ともに昨年度を上回る成績を残せたことが嬉しかったです。私が三年間競技に集中できていたのは、応援してくれた先生方や支えてくれた仲間のおかげです。一、二年生には支えてくれる方への感謝の気持ちを忘れず、高みを目指して練習に取り組み、東北大会や全国大会等で活躍できる選手になってほしいです。



八戸商業高等学校 二年 上沢 春華

私は今回の全国大会に向けて、「三つある競技の中で一つ以上入賞する」という目標を掲げていました。結果、応用計算競技と読上算競技の二つで入賞することができました。しかし、無事目標を達成することができ安心したのとは裏腹に、あまり満足のいく結果だったとは思っていません。総合競技はあと一問というところで入賞を逃してしまい、種目別競技でも、まだ粘ることができたのではないかと思います。悔しい気持ちを糧にし、今後一年間の練習に臨んでいこうと思います。来年も必ず全国大会に出場し、今年以上の結果を残します。



令和5年度第七十四回
全国高等学校ワipro競技大会
八月三日

三沢商業高等学校 三年 中村 漣玖

今回の全国大会では、団体の部第6位、個人の部では佳良賞二名、正確賞一名という成果を残すことができました。全国大会を経験していた部員が二名いたこともあり、準備も滞りなく進めることができました。また、強豪校の打ち方も見学することができたので、今後に繋げることができると思います。たくさんの方が周りで打っていましたが、それでも自分たちの方が強い、と自信を持って自分らしいタイピングをすることができました。個々で反省するべきところは自分で分かっていると思います。その反省点を活かして、更なる活躍を願っています。



八戸商業高等学校 二年 西村 美宇

今大会は、全国の子選大会を勝ち抜いた団体および個人の235名が参加しました。そのため、会場の雰囲気がいつもと違うことが分かりました。私の周りの人たちも練習の時から打つスピードが速く圧倒されてしまい、一番力を発揮しなければならぬ本番では思うように打つことができませんでした。今大会平均純打数が1,375打に対して、私は平均打数に届かず1,252打でした。持てる力を十分に発揮できずとても残念でしたが、この悔しさをバネに平常心を忘れずに本番に挑めるように常にどの問題でも本番だと思っ練習に取り組みたいです。今回の経験は、今後の就職・進学活動に向けても十分に活かされると思います。貴重な経験ができたことへの感謝と反省をして、来年度の全国大会も必ず出場するという意気込みで頑張ります。応援ありがとうございます。



令和5年度第三十九回
全国高等学校簿記競技大会
七月十六日

弘前実業高等学校 三年 下山 瑞姫

私が初めての全国大会で感じたことは、緊張すると普段通りにはできないということです。とても広い教室にたくさんの方がいる中で問題を解くことがなかったため、とても緊張していました。その上、周りの人の電卓で計算する音が早く焦りがあり、数カ所計算ミスをしてしまいました。終わった後に、落ちついて考えると解ける問題が数問あったので悔しかったです。学校で問題を解くよりも集中力が続かなかったため、環境の変化が結果に大きな影響を与えることを感じました。

普段よりも点数が低かったし、目標には届かなかったが、予想よりも順位が高かったため日々の努力が報われたように感じました。初めてのことが多く、良い経験になりました。

三沢商業高等学校 二年 吉田 優月

私たちは、七月十六日に東京都の日本大学で行われた第三十九回全国高等学校簿記競技大会に出場しました。普段とは違う慣れない環境でとても緊張し手がうまく動きませんでした。それでも、これまで頑張ってきたことを思い出し、目標としていた「入賞」はできませんでしたが、最後まで全力を尽くすことができ、良い経験になりました。

私たちは二年生なので来年も全国大会に行くチャンスがあります。今回の全国大会の反省や気づいたことを生かし、来年、もう一度全国大会に行けるように日々の練習を頑張っていきたいと思っています。



全国大会の感想

令和5年度第三十五回
全国高等学校情報処理競技大会
七月二十三日

八戸商業高等学校 二年 沼澤 新音

私たちは七月に東京都の日本大学を会場に行われた、第三十五回全国情報処理競技大会に青森県代表として団体で出場しました。結果は団体26位で、目標としていた10位入賞には届かない結果となりました。結果を振り返ると、自分たちの力不足により、他県との実力の差を大きく感じました。来年に行われる情報処理競技大会に向けて、さらに研鑽を積み、今回の結果を大きく上回るような成績を残すことができるように努力していきたいと思っています。

三沢商業高等学校 二年 澤下 侑良

私たちは予選優勝だったため、団体出場ではなく個人として出場しました。常連校、強豪校がそろう中、緊張でメンが震えていましたが、今までやってきたことを思い出し自分の実力を出し切ることができました。目標は半分以上に入ることでしたが、参加231人中67位という成績を残すことができました。今回の経験をもとに来年は県大会を準備優勝ではなく優勝で通過し、団体で全国大会に行きたいと望んでいます。

また、全国問題は県大会問題とは比較にならないほど難しいので一年生、二年生ともに知識を合わせ、困ったときには先導者である先輩を頼り、文殊の知恵を作り個人としても団体としても全国大会で良い結果を残したいと思っています。



令和5年度第四十回

全国高等学校英語スピーチコンテスト
九月十七日

八戸商業高等学校 三年 坂本 こころ

私は目標にしていた全国大会に出場し、私のスピーチを大きな会場で多くの人に聞いてもらえてとても嬉しかったです。多くの人の前で話すことが苦手な私は本番前、緊張で不安に押しつぶされそうでした。

いざ壇上になると思っていた風景とは違い、みんなが私の意見を真剣に聞いてくれ、スピーチ後に壇上から見た景色は今までに見たことのない景色で感銘を受けました。その時の拍手の音、光景はずっと忘れることはないと思います。結果は報われませんでした。春からずっと一緒に練習してくれたスーザン先生、この貴重な経験をする機会を下さった前田先生、そしてスピーチのテーマにもなり、辛い時にも私を支えてくれた母に感謝しながら生活していきたいです。

令和5年度
全国商業高等学校
英語スピーチコンテスト



運動部の活躍

令和5年度全国高等学校総合体育大会ソフトテニス競技大会



弘前実業高等学校 三年 樋口 拓海

今年の北海道インターハイは4年ぶりに制限のない中で行うことができました。去年のインターハイと比べ、チームの応援による盛り上がりや、選手の一点一点の喜びが印象深く残りました。そして、制限のない中でスポーツができることへの楽しさと喜びを感じました。

私は残念ながら勝つことはできませんでしたが、指導、サポートして下さったたくさんの方へ勝って恩返しすることができなかつたことへ悔しさを感じました。

弘実で三年間ソフトテニスができて、とても幸せでした。充実した三年間はとても楽しかったです。恵まれた環境でできることに感謝しています。



弘前実業高等学校 三年 清水 里帆

私は、今年の夏に最初で最後のインターハイに出場してきました。全国レベルの選手と戦うことができ、とても貴重な経験になりました。結果は初戦敗退でしたが、三年間で自分がやってきたことを全力でやりきったので悔いはありません。インターハイを終えて振り返ると、一緒に練習してきた部活の仲間の存在の重要さに気づきました。部員全員で切磋琢磨しあったことでインターハイに出場できたと思います。実業のチームと一緒に三年間テニスができることも良かったです。指導して下さった先生方やコーチの方々、そして応援してくれた両親にとても感謝しています。

台湾祭

青森県立弘前実業高等学校

三年 棟方 修幸

私は、課題研究の一環で七月二十七日から二十九日の三日間台湾祭に参加しました。私たちのグループは中華味というキッチンカーで小籠包などを販売しているお店に協力していただき出店しました。そこで私は、会計を担当することになりました。台湾祭では、日本円をT.N.\$というお金に換金して使うというユニークな方法で運営しました。私はそのT.N.\$を数えて、売上計算の仕事をしました。ミスが許されない仕事だったので、何度も何度も枚数をチェックしました。他のみんなが接客やお客様の呼び込みなど表の方で頑張っている中、私は裏方の仕事に徹しました。普段は絶対に経験できない貴重な事をしていいるなど実感しながら、台湾祭を終えることができました。

青森県立弘前実業高等学校

三年 山内 彩

私が台湾祭で学んだことは、売る側の販売の工夫次第でお客様の行動が変化していくことです。私たち弘前実業高校が工夫したことは、写真付き値札をテントの屋根に貼り、お客様が遠くからでも商品の写真が見られる工夫をしました。その結果、この工夫をした日としていない日とでは一日の売上金額に大きな差がでました。様々な工夫をしてみても、成功しただけでなく、たくさん失敗したことから新しい知識を得られました。また、各店舗でそれぞれの取り組みがあって勉強になることも多かったです。二日間出会った人たち、経験したことは私にとって忘れられない思い出になりました。台湾祭に参加できて本当に良かったです！

昨年度から取り組まれていた台湾事業ですが、今年はいよいよ青森市で台湾祭が開催されました。たくさんの方の協力のおかげで、台湾料理などの提供がされました。普段の青森駅前とは一変し、まるで台湾にいるかのような演出で、賑わいを見せていました。活動をした生徒たちは、販売実習を通して、ビジネスの魅力や大変さを感じたようです。

青森県立八戸商業高等学校

三年 土知 那緒

私は台湾祭の活動を通して販売活動を行う楽しさを味わいながら、臨機応変に対応する力を向上させることができたと思います。台湾祭を開催するまでの準備では積極的に意見を出し、活動をスムーズに進めることができました。しかし、「点心工房」の出店依頼の高談の際に誰がどの説明をするかの役割分担ができていなかったため、自分たちで企画の説明をすることができませんでした。そのため「Chiao Chiao Taimon」の高談では反省を活かし役割分担を決めたことで、うまく説明することができました。台湾祭当日は多くのお客様に来ていただきとても盛り上がりました。接客をする際に、ゆっくりはきはきと話すことや注文を繰り返して確認するなどを意識して取り組むことができたと思います。この台湾祭での経験を八商バザーにも活かしていきたいと思えます。

不安もありましたが、スムーズに進んでいきました。販売の仕方について現金でいるところがあったので改善が必要と感じました。お客様に「来年もあるといいのね」と言ってくれた事が、私達の活動を認めてくれた気がしました。また、今までにない沢山の思いの詰まった、ありがたうございました」という言葉を言う機会が多かったのは準備と沢山の学校からのご協力のおかげです。コロナ禍で今まで沢山の学校行事をすることができなかった私達への学校からの大きなプレゼントだと感じました。最後まで掛けそうになっても諦めない事を台湾祭で学ぶことができて本当に良かったです。

青森県立青森商業高等学校

三年 大山 莉奈



青森県立三沢商業高等学校

三年 古林 詩愛

昨年、三年生で履修する課題研究の班編成についての説明時に、台湾に関する研究をする班があることを聞き、海外に興味があった私は、迷うことなく台湾班を希望しました。私を含めた七名が四月から台湾と三沢の特色を機渡りする事を目標に活動しています。その最初の活動が青森商業が中心となり、県内の商業生が参加のもと青森市の駅前公園で実施された台湾祭への取り組みでした。台湾祭において私たちの役割は、台湾に関する商品を販売するため、二日間実施される台湾祭で実際に販売して頂ける企業を探す事と販売に必要な諸活動を行うことでした。協力して下さる企業を探すとあり、他校の情報も参考に、三沢市の飲食店をターゲットとして協力依頼をしました。しかしながら、どのお店の方からも良い返事を頂くことができず、焦りを感じた事を思い出します。台湾と三沢の架け橋となる事を目的にしていたのですが、範囲を広めたいところ、十和田市で台湾の雑貨や料理を提供している株式会社様から詳しい話しを聞きたいと、初めて可能性を感じたお言葉を頂きました。そこから露伴とのやり取りを重ね、当日は露伴と共に露伴の商品四種類を台湾祭において販売する事ができました。露伴のご協力により商品の決定や価格設定、ポップ制作やPR動画の撮影、実際の販売と会計等、様々な販売活動を実践させて頂きました。今後の活動に生かす目標の達成に向けて活動を続けていきます。



インターシップ・職場体験実習

新型コロナウイルスの拡大で実施できていなかったインターシップですが、各校再開しているようです。実施した各校の生徒に感想を聞きました。中学校で体験をしていて二度目のインターシップとなる生徒、初めて体験をした生徒、それぞれの心構えは違いましたが、各実習場所での新たな学びを得たようです。

インターシップを通して、返事や挨拶、コミュニケーション能力など当たり前のことを身に付け、社会に出るための準備をして欲しいと思います。インターシップ・職場体験で学んだことを、今後の学校生活にも活かしていきたいでしょう。

青森商業高等学校

一年 辻村 希星

私は二日間ともに青森中央郵便局で働く方に対して、元気良い挨拶や返事、「よろしくお願います」や「ありがとうございます」などの声掛けなどを心掛けました。やはり、挨拶を返されると嬉しい気持ちになりますし、実際に青森中央郵便局でも互いへの挨拶によって円滑に仕事を進めることができていますと感じました。

二日目の花壇の植え替え作業では日差しが強い中、一生懸命作業しました。きれいに植え替えできて、「花壇に活気がみなぎったように感じる」とお褒めの言葉をいただくことができました。チラシ配りや窓口対応は実際にお客様を相手にしたので緊張しましたが、丁寧な言葉遣いと礼儀正しい態度を心掛けて良い対応をすることができました。



青森県立鯉ヶ沢高等学校

二年 豊澤 悠真

私はつがる森林組合でインターンシップを行いました。一日目の作業は、木を枯らす虫がいる木を探ることでした。調べ方が二つあり、緑色の葉の中に枯れている葉があるかで見分ける方法と木に木くずがついているかで見分ける方法です。一本でもそのような木があると周りの木にも虫がいる可能性があると言われ、一本見つけると周囲の木は大丈夫か探しました。虫がいる木にはバツ印をスプレーで書いてナンバースプレーを貼っていました。二日目の作業は、松の木の栽培、整備されている場所の点検でした。朝から車で長時間の移動で、徒歩で行く場所も数多くあり、驚きました。自分の実習時は三つの場所しか行けなかったですが、一日で四〜六ヶ所行くことがあると言われました。整備されている場所の広さは鯉ヶ沢高校の校舎が丸々入る大きさだということでした。今回の体験で思ったことは、たった二日間の実習期間でしたが仕事はすごく疲れるということ、どんな仕事にも責任があり、やりがいを感じるから続けられるということでした。私にとってインターシップは、進路を考える大きなきっかけになりました。



青森県立三沢商業高等学校

一年 名久井 琳仁

今回の三日間で僕は様々なことを学びました。自衛隊は礼儀を大切にしているので、気をつけや休めなどを長い時間練習しました。今までやってきたものとは全く違い、できるか不安でしたが、最終的には出来るようになりました。学校に戻ったら、一段階レベルアップした気をつけや休めを友人に見せたいなと感じました。陸上自衛隊ではほとんどの時間、防弾チョッキを身に付けて、鉄の帽子をかぶって、約三十キロもの重さの荷物を抱えながら走り、移動したりするのでとても大変でした。体力も、強い精神力も必要な仕事だと分かりました。また、自衛隊は厳しいことばかりだと思っていたけれど、厳しいことだけでなく、楽しいことやうれしいこともあることが分かりました。今回学んだことを学校生活で活かしたいです。



青森県立八戸商業高等学校

二年 木村 心音

今回の職場体験実習で、八戸市庁にお世話になりました。市民に関することから、八戸の発展に関することまで幅広い活動をしていることを知ることができました。三日間を通して出納室、財政課、産業労働課などで業務の体験やお話を伺いました。体験することの全てがはじめてで緊張していた私に、大変温かく指導してくださいました。わからないところはとても優しく丁寧に教えていただきました。どの仕事も八戸市に欠かせない大切なものだと感じました。また、さまざまな企業や施設の見学をして、八戸市の課題や政策について知ることができ、とても良い経験になりました。

私は将来、公務員になりたいと考えているので、今回の職場体験実習で学んだことを活かしていきたいと思っています。三日間にわたり貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



青商ビジネスチャレンジ in 台湾事業

青森商研

NEWS

令和5年度冬号
R6. 1. 31

令和五年十二月十四日から十八日の五日間、青森を出発し、台湾の地で研修を行いました。現地の高校生との交流、現地一般市民を対象としたテストマーケティング等、多くの実りを得られた研修だったと思います。海外研修という貴重な機会をいただいたことで、多くの視点から物事を考えることができます。今後の生活にぜひ活かしてほしいです。



海外研修会お疲れ様でした



青森県高等学校商業教育研究会
研究誌編集委員会 発行

編集

千葉学園高等学校
三沢商業高等学校
八戸商業高等学校
山田博規
山田真菜
鈴木瞳

青森商業高校「青森と台湾の高校生による協働学習推進プログラム」

台北市立士林高級商業職業学校と令和3年度から交流しているが、今年度初めて派遣交流及び受入交流を実施することができた。「観光ビジネス」に関する学習や青森県の文化等を通して、青森県の魅力と異文化理解、主体性とチャレンジ精神、コミュニケーション能力の向上を目指すことを目的に協働学習を実施した。



各校の取り組み



三沢商業高校「SAH-Haul-A プロジェクト」

平成27年からSAH指定校に認定され、Haul-Aプロジェクトにも参加をしています。3級は4年連続取得率100%を達成することができました。現在は簿記部に限らず、自身の将来の夢に向け、日商簿記検定1級に挑戦したいという生徒が2年生4名、3年生5名参加をしています。1月9日、11月検定の結果が発表され、本プロジェクトに参加している生徒（新館 倅幸和さん・3年生珠算部）が日商簿記検定1級に合格しました。昨年度も3年生1名が在学中に6年ぶりの取得をしており、2年連続合格者が出たことは本校として大変誇らしいことです。さらに、連携している大学に進学した生徒が在学中に公認会計士試験に3名が合格しており、今後も多くの生徒がこのプロジェクトに参加し、三沢商業高校で夢を叶えるための一歩を踏み出すことを期待しています。



弘前実業高校「外部人材を活用した取り組み」

令和5年11月28日に本校情報処理科1年生を対象に地元企業の方をお招きし、特別授業を行いました。お招きしたのは、鶴田町にあるOriginal Design OG-CHANCE 代表の太田絵里子さんです。情報デザインの影響や効果について、実務に即した内容の講義を受けることで、より実践的な学びができました。また、デザインのお話だけでなく、職業観や社会人に求められる力、普段の業務内容についてもお話いただきました。



八戸商業高校「2学年課題研究講座」

令和5年11月29日に本校2年生商業科課題研究において、一般社団法人わのまちの方から取組方法等の助言をいただきました。代表の木村優哉さんをはじめ、6名の講師の方々から様々な事例を紹介していただき、今後の活動方針についてもアドバイスしていただきました。



第61回東北六県高等学校 ワープロ競技大会 (10/28in 福島)

団体

第1位

三沢商業高校

個人

第2位

根岸ななか

(三沢商業高校)

第4位

山上一ち花

(三沢商業高校)

第5位

瀧澤悠仁

(三沢商業高校)

正確賞

瀧澤悠仁

(三沢商業高校)



三沢商業高等学校

二年 瀧澤 悠仁

私は東北大会に初めて出場しました。一、二年生だけで臨む大会だったこともあり、とても緊張しました。昨年の大会で逃してしまっただけを悔い、今年大会に挑みました。

大会当日は、部員全員が力を出しきり個人では二、四、五位に入賞と正確賞を取り、団体優勝をすることができました。私は個人五位と正確賞を受賞しましたが、上位の選手と比べ、打数が少なく、緊張していつもの実力を出せませんでした。そのため、普段の練習でも本番と同じような気持ちで練習しなければならぬと感じました。他の部員も反省点があったと思うので、私だけではなく、部全体で改善していきたいと思っています。そして八月の全国大会に出場した時には全力を出せるようにがんばっていきます。

令和5年度 第61回東北六県高等学校ワープロ競技大会



八戸商業高等学校

二年 横羽 安優花

今回の東北大会は福島県立郡山商業高等学校で行われました。東北六県から二十七校、百七十九名の参加でした。本校の目標は、場所が変わっても正確に打ち、自己新記録更新をすることでした。自分自身も試合が始まり最初の方は緊張して、いつもの練習のように打てませんが、少し時間が経つと落ち着いて打つことができるようになりました。他の部員もエラーを抑えることはできましたが、正確賞をとることはできませんでした。結果は六位でした。上位入賞はできませんでしたが、今回の反省点を意識して次の大会では上位入賞を狙いたいと思います。大会で力を出すためには、練習を積み重ねることが大切なので、普段の練習から大会のような意識を持ち、練習方法の改善をしながら、次の大会に向けて皆で頑張りたいです。



青森商業高等学校

二年 佐藤 聖美

東北大会に出場して感じたことは、誤字脱字が目立ったことでした。新人大会では、夏休み中の練習や合同練習会の経験もあり、場の雰囲気を持っていかれることもなく、正確に打つことが出来ました。

しかし、今回の大会は満足したものではありません。結果としてチーム全体の成績を下げてしまいました。この大会を通して、集力と正確性、慣れない環境で力を発揮するというのが自分の課題であると実感しました。

今後は、緊張感ある練習を心がけて大会に臨みたいと思います。そして、来年度の全国大会には、個人と団体で全国に出場することを目標に掲げ、チーム全体で取り組んでいきたいです。





令和5年度 各種大会結果報告（後半）



第55回青森県高等学校ワープロ新人競技大会

兼 第61回東北六県高等学校ワープロ競技大会県予選会 R5.9.9：八戸商業高等学校

《ワープロの部》

◎団体

- 第1位 三沢商業高等学校 4,684点
- 第2位 青森商業高等学校 3,394点
- 第3位 八戸商業高等学校 3,053点



◎正確賞

- 三沢商業高等学校 瀧澤 悠仁 1,394 打数



◎個人

- 第1位 三沢商業高等学校 根岸 ななか 1,662 打数
- 第2位 三沢商業高等学校 山上 いち花 1,628 打数
- 第3位 三沢商業高等学校 瀧澤 悠仁 1,394 打数
- 第4位 青森商業高等学校 佐藤 亜美 1,237 打数
- 第5位 八戸商業高等学校 西村 美宇 1,202 打数
- 第6位 青森商業高等学校 長谷川 惺奈 1,110 打数

◎1年生の部・個人

- 第1位 八戸商業高等学校 殿村 漣 934 打数
- 第2位 三沢商業高等学校 稲田 悠花 823 打数
- 第3位 八戸商業高等学校 大道 悠桜 819 打数
- 第4位 青森商業高等学校 辻村 希星 663 打数
- 第5位 八戸商業高等学校 川崎 琴葉 654 打数
- 第6位 青森商業高等学校 張 摩紗菜 628 打数

第55回青森県高等学校ビジネス計算新人競技大会

兼 第50回東北六県高等学校ビジネス計算競技大会県予選会 R5.9.16：弘前実業高等学校

《珠算競技の部》

◎団体

- 第1位 三沢商業高等学校 1,130点



◎応用計算競技

- 第1位 三沢商業高等学校 成田 優里
- 第2位 三沢商業高等学校 野崎 ひらり
- 第3位 三沢商業高等学校 太田 若那



◎個人

- 第1位 三沢商業高等学校 野崎 ひらり 390点
- 第2位 三沢商業高等学校 太田 若那 370点
- 第3位 三沢商業高等学校 下田 稜馬 370点

◎読上暗算競技

- 第1位 三沢商業高等学校 下田 稜馬
- 第2位 木造高等学校 吉田 学叶
- 第3位 三沢商業高等学校 太田 若那

◎読上算競技

- 第1位 三沢商業高等学校 下田 稜馬
- 第2位 三沢商業高等学校 鎌本 咲紅
- 第3位 三沢商業高等学校 野崎 ひらり

《電卓競技の部》

◎団体

- 第1位 三沢商業高等学校 1,470点
- 第2位 八戸商業高等学校 1,310点
- 第3位 七戸高等学校 660点



◎応用計算競技

- 第1位 三沢商業高等学校 八木 理緒
- 第2位 八戸商業高等学校 上沢 春華
- 第3位 三沢商業高等学校 杉山 遥華
- 第4位 三沢商業高等学校 金澤 ゆりあ
- 第5位 八戸商業高等学校 高橋 ひより
- 第6位 三沢商業高等学校 沼田 琉杏



◎個人

- 第1位 三沢商業高等学校 沼田 琉杏 540点
- 第2位 八戸商業高等学校 上沢 春華 510点
- 第3位 三沢商業高等学校 大澤 千夢来 480点
- 第4位 三沢商業高等学校 金澤 ゆりあ 450点
- 第5位 三沢商業高等学校 八木 理緒 440点
- 第6位 三沢商業高等学校 笹倉 育美 430点

◎読上算競技

- 第1位 八戸商業高等学校 上沢 春華
- 第2位 三沢商業高等学校 沼田 琉杏
- 第3位 三沢商業高等学校 金澤 ゆりあ
- 〃 三戸高等学校 工藤 洗花

第28回青森県高等学校簿記競技大会 R5.10.28：青森商業高等学校

《応用部門》

◎団体

- 第1位 三沢商業高等学校 488点
- 第2位 弘前実業高等学校 435点



《基礎部門》

◎団体

- 第1位 三沢商業高等学校 269点
- 第2位 八戸商業高等学校 264点
- 第3位 弘前実業高等学校 243点



◎個人

- 第1位 三沢商業高等学校 和田 愛結菜 180点
- 第2位 弘前実業高等学校 木村 聡 157点
- 第3位 三沢商業高等学校 吉田 優月 154点
- 第4位 三沢商業高等学校 蛙名 航美 154点
- 第5位 八戸商業高等学校 小橋 温 150点
- 第6位 弘前実業高等学校 山田 優 149点

◎個人

- 第1位 八戸商業高等学校 石川 友菜 98点
- 第2位 三沢商業高等学校 寺井 瑠貴 92点
- 第3位 三沢商業高等学校 佐々木 珠緒 92点
- 第4位 弘前実業高等学校 中林 瑠花 92点
- 第5位 八戸商業高等学校 竹澤 依真 87点
- 第6位 三沢商業高等学校 山崎 愛乃 85点



「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」

青森県立三沢商業高等学校

教諭 棟方 明日香

採用となり、まもなく5年が過ぎようとしています。臨時講師時代を含め、三沢商業高校での勤務は今年度で6年目を迎え、商業教育部、教務部を経て昨年は担任として卒業生を送り出す経験もさせていただきました。未熟な点ばかりでご迷惑やご心配をおかけする場面も多々あり、これまでを振り返ると本当に多くの先生方から支えていただいた6年間でした。様々な場面でご指導いただき、本当にありがとうございました。

中堅教諭等資質向上前期研修の共通講座Ⅰ・Ⅱでは、教育相談や保護者対応の仕方について多くのロールプレイングを交えて行い、生徒や保護者との向き合い方を振り返る大切な機会となりました。教科の面では主体的・対話的で深い学びを実現するための学習指導案を作成し、教員主体の授業ではなく生徒自身が学びに向かうための働きかけを行うことの大切さを痛感しました。また、久々に同期の先生方と学ぶ機会となり、初任者研修の新鮮な気持ちを思い出すとともに、パワーアップした同期の姿に刺激を受けた2日間でした。

教科指導の面では商業教育指導者講座に参加し、講師の先生方からは、普段の教材研究だけでは知ることのできない多くのことを学ばせていただきました。研修の中では、初めて耳にするビジネス用語も多く勉強不足を痛感するとともに、授業の中で「ビジネス」を意識させたり興味を引き出したりするためには自分自身が周囲の情報にアンテナを張って生活することの大切さを実感しました。また、ICTを活用しながら先生方と共働して授業を作る中で、自分だけでは考えつかない視点や指導方法に触れたことも大変勉強になりました。

その他にも今年度は「高等学校におけるICTを活用した資質・能力を育む授業づくり推進事業」にも参加させていただき、先進校である岡山県立玉島商業高等学校、岡山県立倉敷商業高等学校、岡山県立岡山東商業高等学校の視察をさせていただきました。視察の中ではICTを活用した最先端の授業はもちろんですが、岡山県の先生方の熱意溢れる授業や生徒の実態に合わせた指導の工夫に触れ、自身の教科指導の未熟さと教材研究の浅さを痛感しました。また、ICTを使用することを目的とするのではなく、生徒の力を伸ばす一つの学習コンテンツとして活用するという重要性も改めて感じた先進校視察でした。今回の研修で得たことを一過性のものにするのではなく、しっかりと自分の中に落とし込み生徒に還元していきたいと思います。

中堅教諭等資質向上前期研修を終え、改めてこれからの指導で大切にしたいことは2つあります。

1つ目は「探究心」です。経験年数が重なり、幸運にも同じ科目を担当させていただけることも増えました。自分にとっては何度目かの内容でも、生徒にとっては初めて学ぶことであり、生徒の「わかる」や「学ぶ意欲」を引き出すための工夫や努力があってこそ学びが深まると考えます。「これくらいはわかるだろう」という固定概念で授業を一方的に進めるのではなく、一人ひとりの興味や問いを引き出すことのできるような仕掛けを織り交ぜた授業を行うためにも、「探究心」を忘れず教材研究や自己研鑽に力を入れていきたいです。

2つ目は「振り返りとアップデート」です。「猪突猛進」という言葉がありますが、私はまさにその言葉通りの人間で、一度こうと決めたら向こう見ずに飛び込んでしまうところがあります。しかし、教育には「この場合はこうである」というマニュアルは存在していません。初任時に教わった「指導する生徒が変われば同じやり方は通用しない」というこの言葉を念頭に置き、目の前に居る生徒にしっかりと向き合いながら、自身の指導方法を常に振り返ることのできる教員でありたいと思います。そして指導の中で良くない部分は改善し、アップデートした上で生徒と向き合い、生徒にとってよりよい指導を行うことができる教員を目指していきたいです。

教員としても一個人としても未熟な点が多く、日々生徒との向き合い方や自身の指導方法に悩む日々です。しかし多くの先生方からご指導やよい刺激を受ける中で、少しずつですが生徒や商業教育への向き合い方や考え方の幅が広がってきたように感じる部分もあります。商業教育を通して青森県の子どもの可能性を広げることができるように、諸先輩方の背中を追いかけてながらも、そして私の後に続く後輩達には手本となるようにこれからも謙虚に、そして前向きに学び続ける教員でありたいと思います。最後になりますが、今回このような場を与えていただきありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



「中堅教諭等資質向上前期研修を終えて」

青森県立黒石高等学校

教諭 鈴木 佑

今年度で採用から6年目を迎え、昨年度ではありますが中堅教諭等資質向上前期研修を受講する機会をいただきました。前任の三沢商業高校で標記研修を受講するにあたり、校務ご多忙中にもかかわらず多くの先生方からご指導、ご助言をいただくことができ、たくさんのことを学ぶことができました。また、3ヶ月間ほど休んでしまった際にも、公務等において大変ご迷惑をおかけしたと同時に助けていただきました。本当に感謝しかありません。ありがとうございました。今現在は、黒石高校で教科情報をメインとして授業をしており、日々授業改善と自己研鑽に励みながら健康第一に充実した日々を送っております。

中堅教諭等資質向上前期研修の共通講座Ⅰでは、向上・発展期としての教員の資質や心構えを学びながら、青森県の教育の現状とその課題について認識を深めることができました。その中で、情報モラル教育や道徳教育の重要性、より一層の家庭との連携が必要だと強く感じました。また、昨今では生徒を取り巻く環境も激しく変化し、「いじめ・不登校のない学校づくり」、「保護者との連携について」で、これからどのように生徒や保護者と関わっていけばよいかということに改めて深く考えることができました。

共通講座Ⅱでは、日々変化していくこれからの学校教育を考えていくうえで、生徒の学びの質を高めるため「主体的・対話的で深い学び」の視点から講義していただき、演習を通じて授業改善について協議しました。指導案を用いて先生方と協議したことで、様々な意見交換が行われ、大変有意義な時間でした。私自身、まだまだ未熟であり反省点がたくさんありましたが、貴重な意見やアドバイスをいただくことができ、とても参考になりました。教科商業は知識や技能だけ与えてもただ知っているだけになり、自分のこととして実務で活用することができないと感じています。学んだことを社会でもしっかり活かせる、ビジネスに結びつけてしっかりと考察や討論ができるところまで持って行く必要があると考えています。そのためには、これからも商業科教員として常に社会に目を向けながら、学び続けていかなければならないと強く感じた研修でもありました。

これまでに非常勤・臨時講師での11年間、採用されてからの5年間、計16年間でご縁にも恵まれ、たくさんのお生徒や尊敬する先生方に出会い、たくさんのお大切なことを教わり時には助けてもらいました。本当にありがとうございました。今後の教員生活でもこのご恩と感謝を忘れることなく精進して参ります。



「中堅教諭等資質向上後期研修を終えて」

青森県立六ヶ所高等学校

教諭 太田 美千之

私は教師として、生徒の夢や志の実現のため、生徒と向き合い、生徒を伸ばすことを第一に考えて取り組んでいます。教育は人づくりという視点に立ち、新しい時代を切り拓く人財を育成することが私たち教師の使命、責任であると考えます。

私は教諭として採用14年目を迎えました。初任校である三沢商業高校をはじめ、黒石商業高校、現任校である六ヶ所高校に勤務し、御指導いただいたすべての先生方、支えてくれた家族、そして何より生徒のおかげで現在も充実した教師生活を送ることができていると心から感謝しています。

中堅教諭等資質向上研修は「教育活動、その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において、中核的役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての職務を遂行する上で、必要とされる資質の向上を図ること」が目的とされています。この目的を達成すべく、ミドルリーダーとして生徒のための教育活動を実践し、同僚や管理職とともにより良い職場環境をつくり、地域と連携・協働しながら教師として次の段階へ成長するため、充実した研修を受講することができました。

共通講座では、これからの教育の担い手として、新学習指導要領改訂の方向性や育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた「令和の日本型学校教育」の構築のための授業改善、カリキュラム・マネジメント、教職員の服務規律などについて学びました。中でも授業改善では、主体的・対話的で深い学びとは何か、知のネットワーク化（知識の構造化）のために探究のプロセスに基づいた探究する授業づくりを理解した上で、簡易学習指導案や振り返り・授業改善シートの作成、実践事例報告など、受講した先生方とこれらを共有することで充実した学びに繋がりました。

選択講座では、産業教育指導者講座を受講し、ブナコ（株）や地方独立行政法人青森県産業技術センター弘前工業研究所を見学して青森県地場産業の現状を知る貴重な機会となりました。また、探究する学習のデザインとして、東北学院大学稲垣忠教授から単元を見通した学習計画と学習評価のための単元デザインシート作成など、情報活用型プロジェクト学習について学びました。現任校で取り組んでいる六ヶ所村や日本教育工学協会と連携・協働した授業改善においても稲垣忠教授から指導していただいたこともあり、より深く学ぶことができました。他にも高等学校における道德教育講座では、自校の特色ある取組の紹介や身に付けさせたい道德性を意識した授業づくりを協議し、その後の授業改善に役立てることができました。総合的な探究の時間研修講座では、自校の取組や課題と改善策、学習評価について協議し、地域と連携・協働した取組や自ら課題を発見し、解決していく質の高い探究型学習の重要性を学ぶことができました。

これらの学びから、新学習指導要領における目指す資質・能力の3つの柱を育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や観点別評価による学習評価など、カリキュラム・マネジメントの視点に立った「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校づくりが求められており、そのためにミドルリーダーとして果たす中核的役割や責任は大きいということを理解しました。よって、これからも情熱や向上心を忘れず、生徒とともに歩み、ミドルリーダーとして同僚や管理職とのより良い職場環境づくり、地域と連携・協働した教育活動を実践していきたいと思えます。

臨時講師として最初に勤務した学校の校長先生は当時、私にこのように話してくださいました。

「虎は死して皮を留め、人は死して名を残す。これから教師として生徒に何ができるか、振り返ったときに自分が何をしてきたか、しっかりと足跡を残せるよう、これからの教師生活しっかり頑張ってください。」

道半ば、「教師は子どもたちの未来に触れている」という使命と責任を胸に、これからも教師の道を邁進します。今後とも御指導よろしくお願いたします。



「中堅教諭等資質向上後期研修を終えて」

青森県立弘前実業高等学校

教諭 西 舘 大 輔

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説には、「社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。（中略）進化した人工知能（AI）が様々な判断を行ったり、身近な物の働きがインターネット経由で最適化されるIoTが広がったりするなど、Society5.0とも呼ばれる新たな時代の到来が、社会や生活を大きく変えていくとの予測もなされている。」と記されています。生徒指導及び教科指導等の大幅なアップデートが必要なタイミングで後期研修を受講することができ、時代の急激な変化に対応していくための有意義な研修となりました。

共通講座では、「主体的で対話的な深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学び」について、具体的な事例が用いられて講座が行われました。年々、生徒のみならず社会全体も多様化してきており、これまでのチャークアンドトークの授業では、生徒の主体性や深い学びに直結せず、単純な繰り返し作業だけで終わってしまい、学ばせ方に限界があると感じていました。講座では、授業を展開する上での改善点や工夫点、その時間で生徒の何を見取るのかという評価についてしっかりと学ぶことができました。特に、授業における理想の時間配分は、教師が指示をしたり、教えたりする時間が3割、生徒同士での活動が7割とすることには驚きました。共通講座終了後の授業では、四苦八苦しながら授業改善をしていきました。その中で、令和5年11月に実施した研究授業実施後の振り返りアンケートに「家族にも教えたいくらい楽しかった。」という生徒の記載がありました。一瞬にして、学びの原点はこういうことなのだと感じました。自分自身の幼少期を振り返っても、楽しかったことやワクワクしたことは家族や友達に話したものです。それがきっかけとなり、自分で調べたり、関連する事柄について本を読みあさったりしたことが今でも知識として頭の中に入っています。学びの面白さを生徒たちに日々の授業で伝えていかなければならないことに気づかされました。

選択講座では、教育相談研修を受講しました。ホームルーム経営はもちろん、組織経営をする上で大切なサーバント・リーダーシップについて、傾聴を妨げるD言葉、人間関係の構築について学びました。生徒の話の聞いているようで全く聞けていない、聞こうとしていない自らの姿勢を正すきっかけにもなりました。耳に痛い話もありましたが、多様な生徒と向き合うためには必要な知識であったと感じています。さらに、自己理解を深めるためのワークもあったことから、授業の合間に生徒に試すことで生徒同士の会話が弾んでいる光景を見て、いかに押しつけた指導をしてきたのかを痛感しました。こういったひとつひとつの積み重ねこそが、他者の話を傾聴する姿勢や協調性を育むことにつながっていることを改めて学ぶことができました。

GIGAスクール構想に伴う生徒1人1台端末や生成AIの進歩により、教育を取り巻く環境はさらに変化に激しさを増していきます。ICT機器の取り扱いに苦勞する毎日ですが、手段と目的が混在しないよう授業の工夫をしていきたいと思えます。また、商業科で学ぶ生徒においては、“唯一絶対の答えがないことの多い経済社会”に身を置くことから、変化に柔軟に対応できる能力や資質が求められます。生徒自身が時代の流れやニーズを感じ取り、自らの道を切り拓いていけるよう、後期研修で学んだことを生かしながら日々の業務に務め、ミドルリーダーとしての役割を果たしていきたいと考えています。

最後になりますが、長期にわたる研修を受講できたのは勤務校の先生方のおかげです。また、指導主事の先生方をはじめとするたくさんの方々に支えられ、後期研修も無事に終わることができました。本当にありがとうございました。引き続き研鑽に励んでいきますので、先生方におかれましては、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



「デザイン」は無敵大！

青森県立黒石高等学校
校長 小野 淳美

縁あって黒石高校には、教頭で2年、校長で2年の4年間お世話になりました。教頭時代は黒石商業高校との統合が具体化した時でした。1年目はどの教室を実習室にするのかなどを検討しました。2年目には開設準備室が開設され、教育内容などがはっきりしてきました。実習室の工事が始まり、直下の看護職員室は騒音に絶えられず、数名に分かれて一時引っ越ししました。そして2年後、3学年がそろった年に校長として赴任しました。初めての卒業生が出るという注目される年でした。今年は大学進学者が増え、専門性を活かした進路先が広がっています。

情報デザイン科が取り組んでいることを知る度に、世の中はデザインであふれていることに気づき、感心することばかりでした。形や色の組み合わせは無数にあって、作品も平面、立体、映像等無限に広がっています。「今使っているもの全てがデザインされたものです。」と生徒募集で訪問した中学校で話しています。1年生は基礎基本の学習でデッサンや平面のデザイン、そして画家さんから色とデザインについて指導していただくなど、美的な感性を磨いています。もちろん大学科「商業」ですからビジネスやマーケティング活動などの商業科目も必須です。2年3年と進むとさらに実践的なコンピュータグラフィックスも学び、具体的な商品のデザイン（装丁、立体、ブランディング、映像・・・）に取り組んでいます。直接社会とつながっていることを実感できる教育活動です。

情報デザイン科の取り組みを知ると、高校でこれほど専門性の高い教育をしていることは中の人にはわかっていても、地域や小中学校はわかっていない、周知不足だと気づきました。そこで中学生向けの「黒高通信」を発行しようと決めました。第1号のサブタイトルは「情報デザイン科 推し」です。黒高通信作成にあたり、デザイン実習室のMac（生徒番号40番）を専用に使わせてもらいました。生徒が授業で使っているグラフィックソフトのIllustratorを使い、写真を多く取り込んで加工し、視覚的に華やかにしました。もちろん、最初から使いこなしていけるはずがありません。情報デザイン科の教員に基本的な操作は教えてもらいましたが、私の先生は2、3年の生徒でした。40番のPCが一番後ろにあります。授業中でもわからなくなったら作業中の生徒にこっそり話しかけて教えてもらいました。何度も同じ事を聞いて申し訳ないと感じながら私のスキルも上がってきたと思います。制作が楽しすぎて、没頭して時間を忘れることもしばしばありました。放課後、課題制作をしていた生徒のレイアウトが素敵で、その方法を教えてもらって取り入れたこともあります。それくらい未だにのめり込んでいます。昨年度は7号、今年度は号外を含め（これまで）6号まで発行しました。校外の皆さんに紹介したいことが次から次へとあり、記事には困りませんでした。それくらい情報デザイン科の生徒達は多くのことに取り組んでいます。特に地域と連携した活動が多く、弘南鉄道をピンクにしたり、パッケージ制作した商品を電車の中で売ったり、デザイン制作から一歩進んだ活動をしています。キャンピングカーの内装を依頼され、さらにキャンプ場のサイン、注意書き制作に発展させるなどが一例です。依頼者のニーズを調査して把握した上で話し合いを繰り返しながら作品に仕上げていく過程で総合的な実践力をつけています。

情報デザイン科に出会って自分の視野を広げてもらいました。県内唯一の科としてこれからさらに発展してくれることを応援しています。





「みなさんとの出会いに感謝」

青森県立三沢商業高等学校

教 頭 中 村 至

私は、大学で経済を学びながら、同大学体育会のアイスホッケー部に所属し、卒業後の進路のため、教職課程を取り、また金融ゼミに所属して金融についても学びました。私の教職教養の担当は、現在白鷗大学の福岡政行教授で、当時は政治コメンテーターとして時々テレビ番組に出演するほどの人気の教授でした。彼に授業で模範的なケースとして、自分のレポートが取り上げられることがあり、それが自信となりました。また、経済や経営が好きなら「商業」という免許があることを勧められて、「商業」の教員を目指すことになりました。

しかし、普通高校出身の私は、その後、大変な苦勞をすることになりました。若い頃は一日一日が精一杯でした。どれだけ多くの先生方にご指導いただき迷惑をかけたことか。

思い出をいくつか述べます。一つ目は、六ヶ所高校時代の「村との協力関係」です。財源もありバスも所有していた村に、野球部の練習試合の時に送迎用バスの借用を依頼するため何度も訪ねました。それがきっかけで、その後、地元から様々な支援をしていただくようになったことです。「県立なんだから県に相談したらどうか」と言った村の職員に、私は「この生徒たちが、いずれ地元に残り地元を支えるのです。その生徒たちのためじゃだめですか。」と言ったのが発端でした。それから行政と学校が共に生徒を育てるという協力体制ができた実感しています。

二つ目は、八戸商業のアイスホッケー部の監督として二度県大会で優勝できたことです。私も小学生の頃から続けてきたアイスホッケーというスポーツへの恩返しと思い八商では14年間顧問を務め、協力してくれる人々にも恵まれて、私自身が高校生の頃どうしても勝てなかったライバル校に赴任5年目の春と秋二度勝ったことが一番の思い出かもしれません。所属する商業教育部では、国経科と商業教育部の主任を7年経験させていただきました。ハワイへの修学旅行には団長として2度行くことができました。また、社会人として一般企業で働くという県の企業スピリッツ研修で1年間地元のスーパーに勤務し、そこから学んだ「おもてなしの心」は「八商バザー」の定番のキャッチコピーにもなりました。

三つ目は、三戸高校の商業科閉科とビジネスマネジメントコース（BMC）の開設です。商業科閉科の決定に対し地元住民やOBからの不満が根強くあり、それに応えるために準備に2年の歳月を費やし、どこにもない全く新しい起業家育成のコースを開設しました。内容は、2年時から2年間で4度のチャレンジショップを行い、それに必要な「仕入れ」から「販売」の知識、「会計」や「マーケティング」「ビジネスプランニング」等の技術を学び、実践を通して段階的に知識と技術と経験を積み重ね、生徒が2年間の学習の成果として3年時の終わりに「自分が考えるビジネスプラン」を発表するような内容をカリキュラムとしました。そしてBMCは10年続きました。現在でも町内の空き店舗を利用した「チャレンジショップ」が継承されており、その取組が「令和5年度キャリア教育推進校文部科学大臣賞」をいただいたことを私も誇りに思っています。

個人的には、高野連の10年以上の指導者に贈られる感謝状を亡き父と同じく頂きました。そして、今年度おかげさまで、産業教育振興中央会より令和5年度産業教育功労者表彰を頂きました。

常に、全ての人と仲良く、楽しく、協力して仕事をしたいという思いで学校現場に努めてきました。ともに仕事や余暇を過ごした皆様には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

I 研究会の概要

1. 名 称
青森県高等学校教育研究会商業部会
青森県高等学校商業教育研究会（昭和63年5月10日設立）
2. 組 織
会 長 田 中 正 也（青森県立青森商業高等学校）
副 会 長 對 馬 嘉 晴（青森県立弘前実業高等学校）
 田 島 博 文（青森県立八戸商業高等学校）
 三 浦 真（青森県立三沢商業高等学校）
参 与 3名
運 営 委 員 14名
監 査 委 員 2名
庶 務 会 計 3名
委 員 長 谷 村 学
検定委員長 8名（簿記 - ビジネス計算 - 情報処理 - ビジネス文書 - 商業経済 - 英語
- 会計実務 - ビジネスコミュニケーション）
研究誌編纂委員長 高 橋 恭 一
研究委員会 マーケティング・マネジメント研究委員会（八戸商業高等学校）
 会 計 研 究 委 員 会（弘前実業高等学校）
 ビ ジ ネ ス 情 報 研 究 委 員 会（三沢商業高等学校）
 教 育 課 程 等 研 究 委 員 会（青森商業高等学校）
 総 合 的 科 目 研 究 委 員 会（青森商業高等学校）
3. 会 員 校
17校
4. 会 員 数
135名
5. 刊 行 物
「君の未来をひらく 商業教育（中学校向けパンフレット）」 令和 5年 7月21日発行
「青森商研NEWS夏号」 令和 5年 7月25日発行
「青森商研NEWS秋号」 令和 5年11月 9日発行
「青森商研NEWS冬号」 令和 6年 1月31日発行
「2023 青森商業教育 MERCURY」 令和 6年 3月31日発行

6. 年間行事一覧

年	月	日	行 事	会 場
5	4	1	令和4年度 会計監査	青森商業高等学校
		14	第1回商業部会・県商研運営委員会	青森商業高等学校
		20	第1回商業部会・県商研役員会	青森商業高等学校
		20	第1回総合的科目研究委員会	青森商業高等学校
		25	第1回ビジネス情報分野専門委員会	青森商業高等学校
		27	第1回会計分野専門委員会	総合社会教育センター
		27	第1回マーケティング・マネジメント分野専門委員会	総合社会教育センター
	5	11	総会・資格取得指導説明会	アピオあおもり
		15・16	全商春季総会・研究協議会	東京・一橋大学
		22・23	第1回東北六県商研連絡委員協議会	仙台商業高等学校
6	3	全国高等学校ビジネス計算競技大会県予選会	青森商業高等学校	
		第1回研究誌編纂委員会	青森商業高等学校	
	8	全国高等学校情報処理競技大会県予選会	三沢商業高等学校	
	10	全国高等学校ワープロ競技大会・全国高校ワープロ競技大会県予選会	弘前実業高等学校	
	10	第1回東北六県商研理事会	仙台商業高等学校	
	12・13	全国高等学校簿記競技大会県予選会	八戸商業高等学校	
	17	第2回総合的科目研究委員会・第1回教育課程等研究委員会	青森商業高等学校	
	22	第2回会計分野専門委員会	総合社会教育センター	
	27	第2回マーケティング・マネジメント分野専門委員会	総合社会教育センター	
7	3	第2回ビジネス情報分野専門委員会	三沢商業高等学校	
		第2回商業部会・県商研運営委員会	青森商業高等学校	
	4	青森県高等学校生徒商業研究発表大会	総合社会教育センター	
	8	全国商業高等学校英語スピーチコンテスト県予選会	八戸市総合福祉会館	
	11	第39回全国高等学校簿記競技大会	東京・日本大学法学部本館	
	16	第35回全国高等学校情報処理競技大会	東京・日本大学法学部本館	
	23	商研ニュース夏号発行	青森商業高等学校	
	25	第70回全国高等学校ビジネス計算競技大会	神奈川・横浜武道館	
	25	Webシステム開発入門 I	東京・全商会館	
	31-8/2	第71回全国商業教育研究大会	東京・ポートシティ竹芝他	
	8	3	第70回全国高等学校ワープロ競技大会	東京・産業貿易センター
第14回全国商業教育指導者研修会（教員対象）			東京・全商会館	
8-10		会計分野研究委員会（教員対象研修会）	青森商業高等学校	
9		第68回青森県高等学校商業教育研究大会	八戸・八戸プラザホテル	
17-18		第27回東北六県高等学校生徒商業研究発表大会	宮城・利府町交流文化センター	
19		第71回東北六県商業教育研究大会	岩手・トホリカ NEWING 盛岡	
9	31-9/1	第71回東北六県商業教育研究大会	岩手・トホリカ NEWING 盛岡	
		第70回全国高等学校ワープロ競技大会	東京・産業貿易センター	
	9	青森県高等学校ワープロ新人競技大会・東北六県県予選会	八戸商業高等学校	
	16	青森県高等学校ビジネス計算新人競技大会・東北六県予選会	弘前実業高等学校	
	17	第40回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト	東京・国際連合大学	
	26	第2回マーケティング・マネジメント分野専門委員会	総合社会教育センター	
	27	第3回会計分野専門委員会	総合社会教育センター	
26	マーケティング・マネジメント分野研究委員会（教員研修会）	総合社会教育センター		
29	ビジネス情報分野専門委員会（教員研修会）	弘前実業高等学校		
10	4・5	全商秋季総会・研究協議会	鹿児島・城山ホテル鹿児島	
		第2回東北六県商研連絡委員協議会	宮城・仙台商業高等学校	
	5・6	第60回東北六県高等学校ワープロ競技大会	福島・郡山商業高等学校	
	28	青森県高等学校簿記競技大会	青森商業高等学校	

11	4	第50回東北六県高等学校ビジネス計算競技大会	山形・山形市立商業高等学校	
	9	第2回研究誌編纂委員会	青森商業高等学校	
	10	商研ニュース秋号発行	青森商業高等学校	
	14	第3回ビジネス情報分野専門委員会	総合社会教育センター	
16・17		第2回東北六県商研理事会	八戸・八戸商工会館	
	17	第3回総合的科目研究委員会	総合社会教育センター	
	24	第4回会計分野専門委員会	青森商業高等学校	
	30	第4回マーケティング・マネジメント分野専門委員会	総合社会教育センター	
12	4	高大連携推進協議会	青森商業高等学校	
	5	第3回商業部会・県商研運営委員会	青森商業高等学校	
6	1	31 商研ニュース冬号発行	青森商業高等学校	
	2	9	第2回商業部会・県商研役員会	青森商業高等学校
		17	情報処理技術者試験対策講座（県南地区・オンライン）	三沢商業高等学校
		17・18	津軽地区高等学校日商簿記2級直前対策講座	弘前実業高等学校
	23	情報処理技術者試験対策講座（津軽地区・オンライン）	弘前実業高等学校	
3	31	‘23青森商業教育（マーキュリー）発行	青森商業高等学校	

II 研究活動の概要

1. 総 会 青森県高等学校教育研究会商業部会総会

(1) 期 日 令和5年5月11日（木）

- (2) 議 題
- ・令和4年度庶務報告・事業報告
 - ・令和4年度監査報告
 - ・令和4年度決算報告
 - ・役員改選
 - ・令和5年度事業計画（案）
 - ・令和5年度予算（案）

2. 研 究 大 会 令和5年度 第68青森県高等学校商業教育研究大会

3. 研究委員会

(1) マーケティング・マネジメント分野研究委員会・専門委員会（事務局：八戸商業高等学校）

○ 第1回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日 時 令和5年4月27日（木）13:00～15:30

会 場 青森県総合社会教育センター（第3研修室）

内 容

- (1) 令和5年度年間計画について
- (2) 令和5年度教員対象研修会について
- (3) 令和5年度高教研・東北商研の発表について
- (4) その他

○ 第2回マーケティング・マネジメント分野専門委員会

日 時 令和5年6月29日（木）13:00～16:00

会 場 青森県総合社会教育センター（第3研修室）

内 容

- (1) 令和5年高教研・東北商研の発表について
- (2) 令和5年度教員対象研修会について
- (3) 令和5年度高教研分科会について

(4) その他

- 第3回マーケティング・マネジメント分野専門委員会
日 時 令和5年9月26日(火) 10:00~12:00
会 場 青森県総合社会教育センター(第6研修室)
内 容
 (1) 令和5年度高教研分科会運営について(総括)
 (2) 令和5年度東北商研分科会について(総括)
 (3) 令和5年度教員対象研修会について
 (4) その他

- 第4回マーケティング・マネジメント分野専門委員会
日 時 令和5年11月30日(木) 13:00~15:30
会 場 青森県総合社会教育センター(第6研修室)
内 容
 (1) 令和8年度高教研・東北商研の発表について
 (2) 令和5年度の活動について(総括)
 (3) 令和6年度の活動について(計画)
 (4) 令和6年度の研修会について(計画)
 (5) その他

- 令和5年度起業家による講演会及び座談会
日 時 令和5年9月26日(火) 13:00~15:00
会 場 青森県総合社会教育センター(第6研修室)
参加者 17名(うち専門委員8名)
内 容 演題「地域ビジネスにチャレンジ」～道の駅ビジネスの事例～
講 師 株式会社A-WORLD 代表取締役 古里 宣光 氏

(2) 会計分野研究委員会・専門委員会 (事務局: 弘前実業高等学校)

- 第1回会計分野専門委員会
日 時 令和5年4月27日(木) 13:00~15:30
会 場 青森県総合社会教育センター(第2多目的研修室)
内 容
 (1) 令和5年度年間計画について
 (2) 令和5年度の研修会について
 (3) 令和6年度東北商研大会の発表等について
 (4) その他

- 第2回会計分野専門委員会
日 時 令和5年6月27日(火) 13:00~15:30
会 場 青森県総合社会教育センター(第2多目的研修室)
内 容
 (1) 研究内容検討について
 (2) 教員対象研修会について
 (3) 県高教研分科会について
 (4) その他

- 令和5年度日商簿記指導力強化セミナー
日 時 令和5年8月9日(水) 10:00~15:30
会 場 青森県立青森商業高等学校
参加者 22名(うち専門委員9名)

内 容 外部講師による講義
講 師 日本商業教育振興会 代表理事 小島 一富士 氏
・日商簿記検定の動向について
・青森県 Haul-A 協定について
・中学校の「会計教育」について

○ 第3回会計分野専門委員会

日 時 令和5年9月27日(水) 13:00~15:30

会 場 青森県総合社会教育センター(第2多目的研修室)

内 容

- (1) 令和5年度の教員対象研修会について(総括)
- (2) 令和5年度高教研分科会について(総括)
- (3) 令和6・7年度県商研・東北商研全体発表について
- (4) その他

○ 第4回会計分野専門委員会

日 時 令和5年11月24日(金) 13:00~15:30

会 場 青森県総合社会教育センター(第2研修室)

内 容

- (1) 令和5年度の活動について(総括)
- (2) 令和6年度の教員対象研修会について
- (3) 令和6・7年度県商研・東北商研全体発表について
- (4) 令和6年度の活動について(計画)
- (5) その他

(3) ビジネス情報分野研究委員会・専門委員会(事務局:三沢商業高等学校)

○ 第1回ビジネス情報分野専門委員会

日 時 平成5年4月25日(火) 13:00~15:30

会 場 青森県立青森商業高等学校(会議室)

内 容

- (1) 令和5年度年間活動計画について
- (2) 教職員対象研修会の研修内容について
- (3) 地区別情報処理技術者試験対策講座について
- (4) 令和6年度全国商研、東北商研発表について
- (5) その他

○ 第2回ビジネス情報分野専門委員会

日 時 令和5年7月3日(月) 13:00~15:30

会 場 青森県立三沢商業高等学校(情報処理室)

内 容

- (1) 令和5年度教職員対象研修会の研修内容について
- (2) 情報処理技術者試験対策講座の講義内容について
- (3) 令和6年度全国商研、東北商研について
- (4) その他

○ 令和5年度ビジネス情報分野科目指導法研修会

日 時 令和5年9月29日(金)

会 場 青森県立弘前実業高等学校 2階 プログラミング室

内 容 テーマ『プログラミング室活用』

- (1) 既存環境の理解

- (2) 座学で知識を習得
- (3) 実際にPCで設定作業を実習してみる
- (4) インシデントの対応
- (5) テスト

参加者 22名 (うち専門委員13名)

講師 株式会社ビジネスサービス弘前支店 玉熊圭一氏

○ 第3回ビジネス情報分野専門委員会

日時 令和5年11月14日(火) 13:00~15:30

会場 青森県総合社会教育センター(第6研修室)

内容

- (1) 令和5年度の振り返りについて
- (2) 令和6年度の活動内容について
- (3) その他

(4) 総合的科目研究委員会(事務局:青森商業高等学校)

○ 第1回

日時 令和5年4月20日(水) 13:30~15:30

会場 青森県立青森商業高等学校(会議室)

内容

- (1) 年間計画について
- (2) 昨年度の確認について
- (3) 令和5年度研究内容について
- (4) 令和5年度県及び東北高教研分科会発表について
- (5) その他

○ 第2回

日時 令和5年6月22日(木) 13:00~15:00

会場 青森県立青森商業高等学校(会議室)

内容

- (1) 県生徒商業研究発表大会について
- (2) 令和5年度研究内容について(各校進捗状況確認)
- (3) 令和5年度県及び東北高教研分科会発表について
- (4) その他

○ 第3回

日時 令和5年11月17日(金) 13:30~15:30

会場 青森県立青森商業高等学校(会議室)

内容

- (1) 令和5年度東北商研大会報告について
- (2) 令和6年度生徒商業研究発表大会について
- (3) 令和5年度ベンチャー事業台湾研修について
- (4) 令和6年度活動計画について
- (5) その他

(5) 教育課程等研究委員会(事務局:青森商業高等学校)

○ 第1回

日時 令和5年6月22日(木) 10:00~12:00

会場 青森県立青森商業高等学校(プログラミング室)

内容

- (1) 年間計画について
- (2) 情報交換
 - ①令和6年度教育課程表について
 - ②学習評価の校内規程について
 - ③賢者について
- (3) その他
- (4) 指導・助言

青森県総合学校教育センター
産業教育課 指導主事 新堂 満香 氏

4. 主 催 事 業

(1) 高大連携推進事業

青森県の商業教育における高大連携推進協議会

期 日 令和5年12月4日(月)
会 場 青森県立青森商業高等学校 視聴覚室
内 容

- (1) 令和5年度各校における高大連携の取組状況について
- (2) 高大連携から高大接続への取組状況について
- (3) 協議(グローバルビジネスに対応する人材育成について)
- (4) 質疑応答

(2) 地区別日商簿記直前対策講座

津軽地区

期 間 令和6年2月17日(土)～18日(日)
会 場 青森県立弘前実業高等学校 (他校の参加者はリモート配信で講義を視聴)
内 容 直前対策
講 師 仙台大原簿記情報公務員専門学校 中島 京哉 氏
参加者 弘前実業32名 八戸商業13名 三沢商業11名 青森商業1名 計57名

(3) 情報処理技術者試験直前対策講座

県南地区

日 時 令和6年2月17日(土) 9:00～15:00
場 所 青森県立三沢商業高等学校 (他校の参加者はリモート配信で講義を視聴)
内 容 情報セキュリティマネジメント試験対策
講 師 盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 樋口 正之 氏
参加者 三沢商業12名 八戸商業22名 計34名

津軽地区

日 時 令和6年2月23日(金) 9:00～15:00
場 所 青森県立弘前実業高等学校 (他校の参加者はリモート配信で講義を視聴)
内 容 情報セキュリティマネジメント試験対策
講 師 盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校 樋口 正之 氏
参加者 弘前実業44名 青森商業24名 計68名

(4) 各種研修会参加

第15回全国商業教育指導者研修会

期 間 令和5年8月8日(火)～10日(木)
会 場 全商会館(東京都)
参加者 青森県立弘前実業高等学校 須藤 典子
※高大・地域連携商業教育活性化事業(往復交通費)

Ⅲ 各種競技大会

1. ビジネス計算

(1) 第70回全国高等学校ビジネス計算競技大会青森県予選会（令和5年6月3日 青森商業高等学校）

■珠算

【団体競技】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	1,270
2	八戸商業高等学校	530

【個人総合競技】

順位	氏名	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	新館 倅幸和	490
2	三沢商業高等学校	松林 晴香	400
3	三沢商業高等学校	野崎 ひらり	380
4	三沢商業高等学校	下田 稜馬	370
5	三沢商業高等学校	成田 優里	350
6	三沢商業高等学校	佐藤 瑠香	330

【種目別競技】

順位	読上暗算	順位	応用計算	順位	読上算
1	下田 稜馬	1	松林 晴香	1	新館 倅幸和
	三沢商業		三沢商業		三沢商業
2	太田 若那	2	新館 倅幸和	2	下田 稜馬
	三沢商業		三沢商業		三沢商業
3	後藤 愛里	3	太田 若那	3	鎌本 咲紅
	青森商業		三沢商業		三沢商業
4	新館 倅幸和	4	野崎 ひらり	4	野崎 ひらり
	三沢商業		三沢商業		三沢商業
5	野崎 ひらり	5	成田 優里	4	後藤 愛里
	三沢商業		三沢商業		青森商業
6	松林 晴香	6	明岡 ななみ	6	明岡 ななみ
	三沢商業		八戸商業		八戸商業
					三沢商業

■電卓

【団体競技】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	1,490
2	三戸高等学校	1,230
3	八戸商業高等学校	1,050

【個人総合競技】

順位	氏名	学校名	得点
1	明戸 樹紀奈	三沢商業高等学校	520
2	沼田 琉杏	三沢商業高等学校	490
3	中野渡 望愛	三沢商業高等学校	480
4	新山 奈々美	三沢商業高等学校	470
5	佐々木 美羽	青森商業高等学校	450
6	馬場 美妃	三沢商業高等学校	440

【種目別競技】

順位	応用計算	読上算
1	中野渡 望愛	上沢 春華
	三沢商業	八戸商業
2	八木 理緒	横山 実来
	三沢商業	三沢商業
3	横山 実来	沼田 琉杏
	三沢商業	三沢商業
4	沼田 琉杏	佐々木 優衣
	三沢商業	三戸
5	明戸 樹紀奈	新山 奈々美
	三沢商業	三沢商業
6	新山 奈々美	
	三沢商業	

(2) 第55回青森県高等学校ビジネス計算新人競技大会 (令和5年9月16日 弘前実業高等学校)

■珠算

【団体競技】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	1,130

【個人総合競技】

順位	氏名	学校名	得点
1	野崎 ひらり	三沢商業高等学校	390
2	太田 若那	三沢商業高等学校	370
3	下田 稜馬	三沢商業高等学校	370

【種目別競技】

順位	読上暗算	応用計算	読上算
1	下田 稜馬	成田 優里	下田 稜馬
	三沢商業	三沢商業	三沢商業
2	吉田 学叶	野崎 ひらり	鎌本 咲紅
	木造	三沢商業	三沢商業
3	太田 若那	太田 若那	野崎 ひらり
	三沢商業	三沢商業	三沢商業

■電卓

【団体競技】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	1,470
2	八戸商業高等学校	1,310
3	七戸高等学校	660

【個人総合競技】

順位	氏名	学校名	得点
1	沼田 琉杏	三沢商業高等学校	540
2	上沢 春華	八戸商業高等学校	510
3	大澤 千夢来	三沢商業高等学校	480
4	金澤 ゆりあ	三沢商業高等学校	450
5	八木 理緒	三沢商業高等学校	440
6	笹倉 育美	三沢商業高等学校	430

【種目別競技】

順位	応用計算	読上算
1	八木 理緒	上沢 春華
	三沢商業	八戸商業
2	上沢 春華	沼田 琉杏
	八戸商業	三沢商業
3	杉山 遙華	金澤 ゆりあ
	三沢商業	三沢商業
4	金澤 ゆりあ	工藤 洸花
	三沢商業	三戸
5	高橋 ひより	
	八戸商業	
6	沼田 琉杏	
	三沢商業	

2. ワープロ

(1) 第70回全国高等学校ワープロ競技大会青森県予選会 (令和5年6月10日 弘前実業高等学校)

■ワープロの部

【団体競技】

順位	学校名	打数
1	三沢商業高等学校	4,932
2	八戸商業高等学校	3,522
3	青森商業高等学校	3,028

【正確賞】

該当者なし

【個人競技】

順位	氏名	学校名	打数
1	長谷川 陽 大	三沢商業高等学校	1,725
2	中 村 湮 玖	三沢商業高等学校	1,626
3	根 岸 ななか	三沢商業高等学校	1,581
4	西 村 美 宇	八戸商業高等学校	1,428
5	播 摩 堇 子	三沢商業高等学校	1,395
6	瀧 澤 悠 仁	三沢商業高等学校	1,370

(2) 第55回青森県高等学校ワープロ新人競技大会 (令和5年9月9日 八戸商業高等学校)

【団体競技】

順位	学校名	打数
1	三沢商業高等学校	4,684
2	青森商業高等学校	3,394
3	八戸商業高等学校	3,053

【正確賞】

氏名	学校名
瀧 澤 悠 仁	三沢商業高等学校

【個人競技】

順位	氏名	学校名	打数
1	根 岸 ななか	三沢商業高等学校	1,662
2	山 上 いち花	三沢商業高等学校	1,628
3	瀧 澤 悠 仁	三沢商業高等学校	1,394
4	佐 藤 亜 美	青森商業高等学校	1,237
5	西 村 美 宇	八戸商業高等学校	1,202
6	長谷川 惺 奈	青森商業高等学校	1,110

【1年生の部・個人】

順位	氏名	学校名	打数
1	殿 村 漣	八戸商業高等学校	934
2	稲 田 悠 花	三沢商業高等学校	823
3	大 道 悠 桜	八戸商業高等学校	819
4	辻 村 希 星	青森商業高等学校	663
5	川 崎 琴 葉	八戸商業高等学校	654
6	張 摩 紗 菜	青森商業高等学校	628

3. 情報処理

第35回全国高等学校情報処理競技大会青森県予選会 (令和5年6月10日 三沢商業高等学校)

【団体競技】

順位	学校名	得点
1	八戸商業高等学校	439
2	三沢商業高等学校	435
3	青森商業高等学校	252

【個人競技】

順位	氏名	学校名	得点
1	小笠原 明 音	三沢商業高等学校	168
2	沼 澤 獅 音	八戸商業高等学校	166
3	大 石 安 璃	八戸商業高等学校	142
4	澤 下 侑 良	三沢商業高等学校	136
5	畑 中 美 穂	八戸商業高等学校	131
6	吉 田 咲 樹	三沢商業高等学校	131

4. 簿記

(1) 第39回全国高等学校簿記競技大会青森県予選会 (令和5年6月17日 八戸商業高等学校)

【団体の部】

順位	学校名	得点
1	弘前実業高等学校	294
2	三沢商業高等学校	283
3	青森商業高等学校	250

【個人の部】

順位	氏名	学校名	得点
1	下山 瑞 姫	弘前実業高等学校	110
2	葛 西 聡	弘前実業高等学校	108
3	和 田 愛結菜	三沢商業高等学校	95
4	吉 田 優 月	三沢商業高等学校	95
5	長 内 颯 汰	三沢商業高等学校	93
6	福 田 涼 介	青森商業高等学校	91

(2) 第28回青森県高等学校簿記競技大会 (令和5年10月28日 青森商業高等学校)

応用部門

【団体の部】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	488
2	弘前実業高等学校	435

【個人の部】

順位	氏名	学校名	得点
1	和 田 愛結菜	三沢商業高等学校	180
2	木 村 聡	弘前実業高等学校	157
3	吉 田 優 月	三沢商業高等学校	154
4	蛭 名 航 美	三沢商業高等学校	154
5	小 橋 温 和	八戸商業高等学校	150
6	山 田 優	弘前実業高等学校	149

基礎部門

【団体の部】

順位	学校名	得点
1	三沢商業高等学校	269
2	八戸商業高等学校	264
3	弘前実業高等学校	243

【個人の部】

順位	氏名	学校名	得点
1	石 川 友 菜	八戸商業高等学校	98
2	寺 井 瑤 貴	三沢商業高等学校	92
3	佐々木 珠 緒	三沢商業高等学校	92
4	中 林 瑠 花	弘前実業高等学校	92
5	竹 澤 依 真	八戸商業高等学校	87
6	山 崎 愛 乃	三沢商業高等学校	85

5. 英語

第40回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト青森県予選会 (令和5年7月11日 八戸商業高等学校)

レシテーションの部 (暗唱の部)

順位	氏名	学校名
1	泉 山 うらら	三沢商業高等学校
2	川 畑 悠	八戸商業高等学校
3	松 沢 宏 人	八戸商業高等学校

スピーチの部 (創作の部)

順位	氏名	学校名
1	坂 本 こころ	八戸商業高等学校
2	蛭 名 圭 梨	三沢商業高等学校
3	蛭 沢 佳乃子	三沢商業高等学校

6. 生徒商業研究発表

青森県高等学校生徒商業研究発表大会 (令和5年7月8日 青森県総合社会教育センター)

順位	学校名	テ ー マ
1	青森商業高等学校 A	青商ビジネスチャレンジ with 台湾 ～パスタソースでビジネスを繋ぐ～
2	八戸商業高等学校 B	南部弁を知らないなんていかわしねエ
3	三沢商業高等学校 B	THE・KIKUIMO ～綺麗になるなら恋より菊芋～

IV 各種検定試験

1. ビジネス計算実務検定

第146回 全商ビジネス計算実務検定試験 R5.6.18									
	1級			2級			3級		
	珠算	電卓	ビジネス	珠算	電卓	ビジネス	珠算	電卓	ビジネス
申込者数	9	196	202	0	268	106	0	355	48
受験者数	9	189	195	0	247	98	0	329	46
部門合格者数	2	144	65	0	175	47	0	267	35
部門合格率	22.2%	76.2%	33.3%	0.0%	70.9%	48.0%	0.0%	81.2%	76.1%
級合格者数	64			46			38		

第147回 全商ビジネス計算実務検定試験 R5.11.12									
	1級			2級			3級		
	珠算	電卓	ビジネス	珠算	電卓	ビジネス	珠算	電卓	ビジネス
申込者数	16	199	269	0	222	282	0	181	381
受験者数	16	195	248	0	211	266	0	162	355
部門合格者数	13	144	65	0	162	172	0	116	285
部門合格率	81.3%	73.8%	26.2%	0.0%	76.8%	64.7%	0.0%	71.6%	80.3%
級合格者数	73			148			265		

2. 簿記実務検定

第96回 全商簿記実務検定試験 R5.6.25				
	1級(会計)	1級(原計)	2級	3級
申込者数	212	224	207	111
受験者数	198	203	181	105
合格者数	54	39	37	30
合格率	27.3%	19.2%	20.4%	28.6%
級合格者数	58			

第97回 全商簿記実務検定試験 R6.1.28				
	1級(会計)	1級(原計)	2級	3級
申込者数	270	350	390	342
受験者数	257	333	375	308
合格者数	87	91	215	177
合格率	33.9%	27.3%	57.3%	57.5%
級合格者数	72			

3. ビジネス文書実務検定

第70回 全商ビジネス文書実務検定試験 R5.7.2						
	1級		2級		3級	
	ビジネス	速度	ビジネス	速度	ビジネス	速度
申込者数	114	93	169	229	238	264
受験者数	109	87	161	223	233	258
部門合格者数	36	22	90	161	166	202
部門合格率	33.0%	25.3%	55.9%	72.2%	71.2%	78.3%
級合格者数	27		86		130	

第71回 全商ビジネス文書実務検定試験 R5.11.26						
	1級		2級		3級	
	ビジネス	速度	ビジネス	速度	ビジネス	速度
申込者数	94	83	212	259	341	380
受験者数	87	78	193	235	297	338
部門合格者数	41	33	118	122	220	307
部門合格率	47.1%	42.3%	61.1%	51.9%	74.1%	90.8%
級合格者数	27		82		231	

4. 英語検定

第70回 全商英語検定試験 R5.9.10			
	1級	2級	3級
申込者数	11	112	123
受験者数	11	103	121
合格者数	1	9	92
合格率	9.1%	8.7%	76.0%

第71回 全商英語検定試験 R5.12.17			
	1級	2級	3級
申込者数	29	46	39
受験者数	26	42	38
合格者数	3	8	23
合格率	11.5%	19.0%	60.5%

5. 情報処理検定

第69回 全商情報処理検定試験 R5.9.24					
	1級		2級		3級
	プログラミング	ビジネス情報	プログラミング	ビジネス情報	
申込者数	102	187	95	338	384
受験者数	97	171	95	307	358
合格者数	9	31	81	129	271
合格率	9.3%	18.1%	85.3%	42.0%	75.7%
級合格者数	40			210	

第70回 全商情報処理検定試験 R6.1.21					
	1級		2級		3級
	プログラミング	ビジネス情報	プログラミング	ビジネス情報	
申込者数	174	342	73	535	487
受験者数	174	333	72	510	459
合格者数	68	65	50	262	279
合格率	39.1%	19.5%	69.4%	51.4%	60.8%
級合格者数	133			312	

6. 商業経済検定

第38回 全商商業経済検定試験 R6.2.4								
	1級	2級					3級	
		マーケティング	経済活動と法	ビジネス経済A	ビジネス経済B	ビジネスマネジメント	ビジネス基礎	
申込者数		412	107	102	4	28	149	
受験者数		391	103	97	4	28	146	
合格者数		241	60	26	4	20	105	
合格率		61.6%	58.3%	26.8%	100%	71.4%	71.9%	
級合格者数	74						236	105

7. 会計実務3検定試験

第15回 全商財務諸表分析検定・財務会計検定・管理会計検定 R5.12.10			
	財務諸表分析検定試験	財務会計検定試験	管理会計検定試験
申込者数	127	26	13
受験者数	122	26	13
合格者数	54	4	4
合格率	44.3%	15.4%	30.8%

8. ビジネスコミュニケーション検定

第12回 全商ビジネスコミュニケーション検定試験 R5.7.9	
申込者数	0
受験者数	0
合格者数	0
合格率	0.0%

第13回 全商ビジネスコミュニケーション検定試験 R5.12.17	
申込者数	84
受験者数	73
合格者数	46
合格率	63.0%

9. 1級合格者の数

	ビジネス計算珠算	ビジネス計算電卓	簿記	ビジネス文書	英語	情報処理プログラム	情報処理ビジネス	商経	合計
人数	15	122	130	54	4	77	95	74	571

10. 3種目以上1級合格者数

学校名	3種目	4種目	5種目	6種目	7種目	8種目	9種目	合計
青森商業高等学校	1	8	2	1				12
弘前実業高等学校	8	6	4	1				19
八戸商業高等学校	10	7	2					19
三沢商業高等学校	13	11	7	2	1	1	1	36
三戸高等学校		1						1
七戸高等学校	1	2						3
青森中央高等学校	2							2
五所川原商業高等学校	1							1
計	36	35	15	4	1	1	1	93

編集後記

今年度も原稿の依頼に快くご承諾いただき、ありがとうございました。貴重な原稿をお寄せくださった先生方や会員の皆様方のご協力により、「2023青森商業教育マージャー」をお届けすることができます。心よりお礼申し上げます。

昨年に引き続き編纂委員長を担当させていただきましたが、貴重な原稿が誤植によって台無しにならないよう注意して編集して参りましたが、誤植がないことを祈るばかりです。

新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着き、授業や各種競技大会が通常通り実施できるようになり活気が戻ってきたと感じています。なかでも台湾祭では、青森商業高等学校、弘前実業高等学校、八戸商業高等学校、三沢商業高等学校、黒石高等学校が連携して実施し、商業教育の魅力を発信すると共に高校生の躍動で地域に活気を与えることができたと思います。昨年度も述べましたが、高校生の活躍する場を与えることによって内に秘めている能力を最大限に発揮できると思います。ビジネス社会での経験を積み、その能力を常に発揮して地域振興に貢献できる人財へと育てて欲しいです。

次年度以降も青森商業高等学校を中心に県内の商業高校と一緒にビジネス実践等に取り組んでいけたら、青森県の商業教育がますます盛り上がっていくと思います。

終わりに、本研究誌の充実と発展のために、より一層のご指導ならびにご叱正を賜りますようお願い申し上げます。

(編纂委員)

研究誌編纂委員会

高橋 恭一	県立青森商業高等学校	(委員長)
榊 晃太	〃	(東青)
西舘 大輔	県立弘前実業高等学校	(中南)
鈴木 瞳	県立八戸商業高等学校	(三八)
下田 幸大	〃	(会場校)
三橋 壮大	〃	(会場校)
山田 真菜	県立三沢商業高等学校	(上十三)
奈良 靖宏	県立鯉ヶ沢高等学校	(西北五)
向谷地 史拓	県立大湊高等学校	(下北)
山田 博規	千葉学園高等学校	(私学)

県商研ホームページアドレス <http://www.shoken-aomori.jp/>

